静岡市食生活や食育に関する知識・意識

アンケート調査報告書

概要版

静　岡　市

令和　8　年　10　月

目　次

Ⅰ　調査の概要……1
　1　調査の目的……1
　2　調査対象……1
　3　調査期間……1
　4　調査方法……1
　5　回収状況……1
　6　調査結果の表示方法……1

Ⅱ　調査結果……2
　1　あなた（ご本人）について……2
　2　現在の食習慣、生活習慣について……24
　3　食や食育への関心について……38
　4　農林漁業体験について……55
　5　食文化について……59
　6　食品の安全性、環境への配慮について……67

Ⅲ　静岡市食育推進計画（第４次）評価指標、達成状況一覧表……74

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

令和６年度から令和 12 年度の７年間の計画として策定した「第４次静岡市食育推進計画」の中間評価及び計画（中間見直し）策定のための基礎資料として、市民の食生活や食育に関する知識・意識等を把握することを目的としています。

2　調査対象

無作為抽出した静岡市民 3,800 人

3　調査期間

令和８年４月 21 日～令和８年５月 13 日

4　調査方法

郵送配布
65 歳未満はオンライン回答・65 歳以上は郵送回収またはオンライン回答

5　回収状況

配布数	回収数	回収率
3,800通	1,783通 （1,772通）※	46.9% （46.6%）※

※カッコ内の数値は年齢不詳を除いた数値です。本概要版では年齢不詳を除いた結果を掲載しています。

6　調査結果の表示方法

・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第２位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
・クロス集計及び経年比較のコメントについては、わかりやすさの観点から、割合の差（経年比較については令和４年度との差）が±5.0 ポイント以上であることを目安に言及しています。
・クロス集計において、回答者数が 30 人に満たない区分の割合については言及していません。
・評価指標のうち複数の選択肢を合算して算出するものは、回答件数を合算してから割合を算出しています。このため、グラフ上の割合（小数点以下第２位を四捨五入した値）を足し上げた数値と一致しない場合があります。

Ⅱ　調査結果

1　あなた（ご本人）について

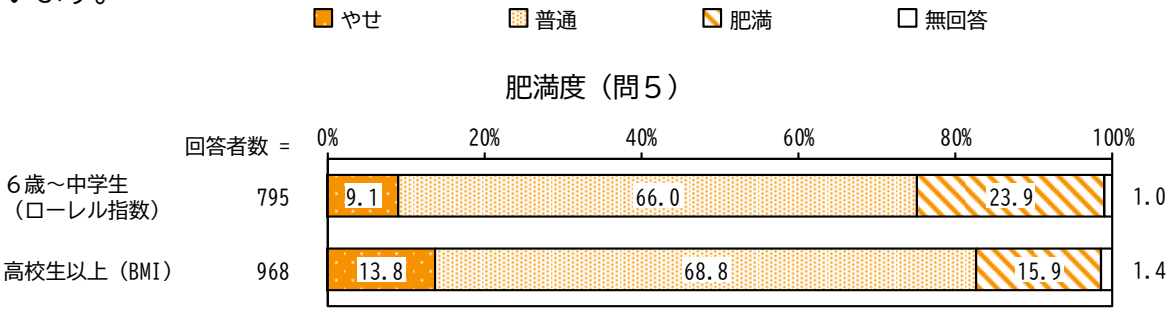
（1）肥満度

問５　現在の身長・体重を教えてください。（小数点第一位までの数字で記入してください。）

※ここでは、年齢・身長・体重からローレル指数（６歳～中学生）とＢＭＩ（高校生以上）を計算した結果を、やせ・普通・肥満に分類しています。

６歳～中学生では、「やせ」の割合が 9.1%、「普通」の割合が 66.0%、「肥満」の割合が 23.9%となっています。

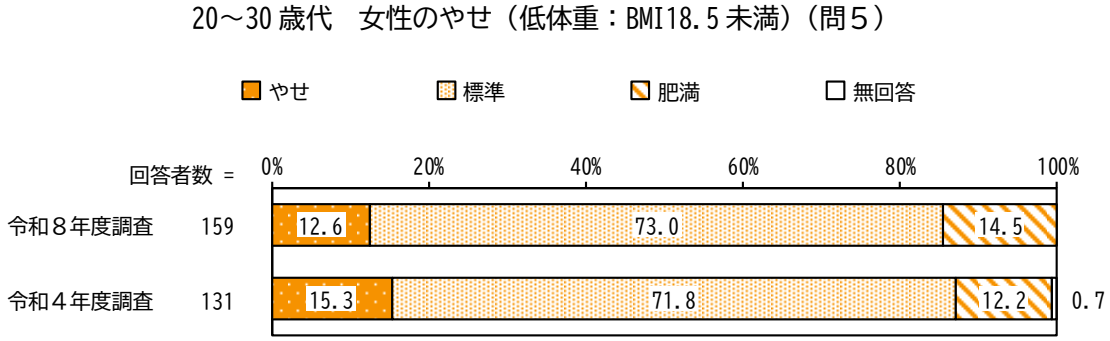
高校生以上では、「やせ」の割合が 13.8%、「普通」の割合が 68.8%、「肥満」の割合が 15.9%となっています。



◆評価指標に基づく結果①　（対象：20～30 歳代　女性）

女性のやせ（低体重：BMI18.5 未満）の割合は 12.6%となっています。

女性のやせについて令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

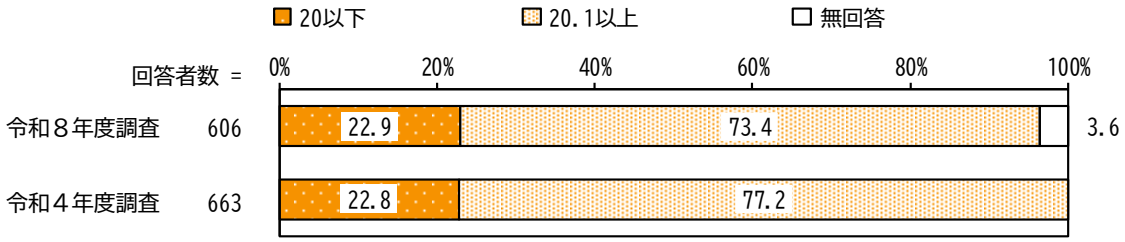


◆評価指標に基づく結果②　（対象：65 歳以上）

高齢者のやせ（低体重：BMI20 以下）の割合は 22.9%となっています。

高齢者のやせについて令和４年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

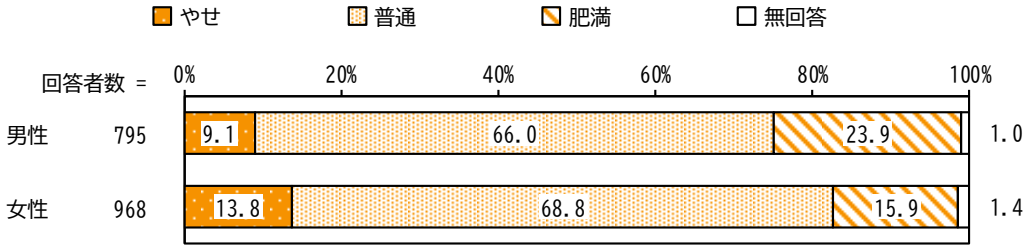
65 歳以上　高齢者のやせ（低体重：BMI20 以下）の割合（問５）



【性別】

肥満度について性別でみると、男性で「肥満」の割合が高くなっています。

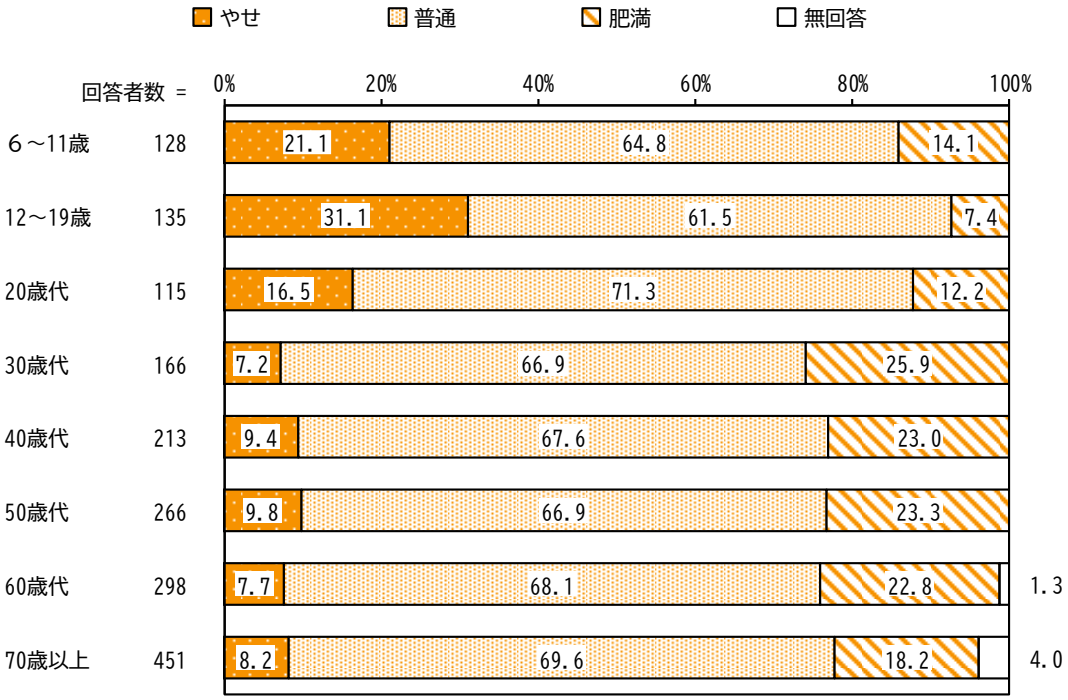
性別　肥満度（問５）



【年代別】

年代別にみると、「やせ」の割合は、12～19 歳、６～11 歳の順に高く、「肥満」の割合は、30 歳代で最も高く 25.9%であり、40～60 歳代でも 20%を超えています。

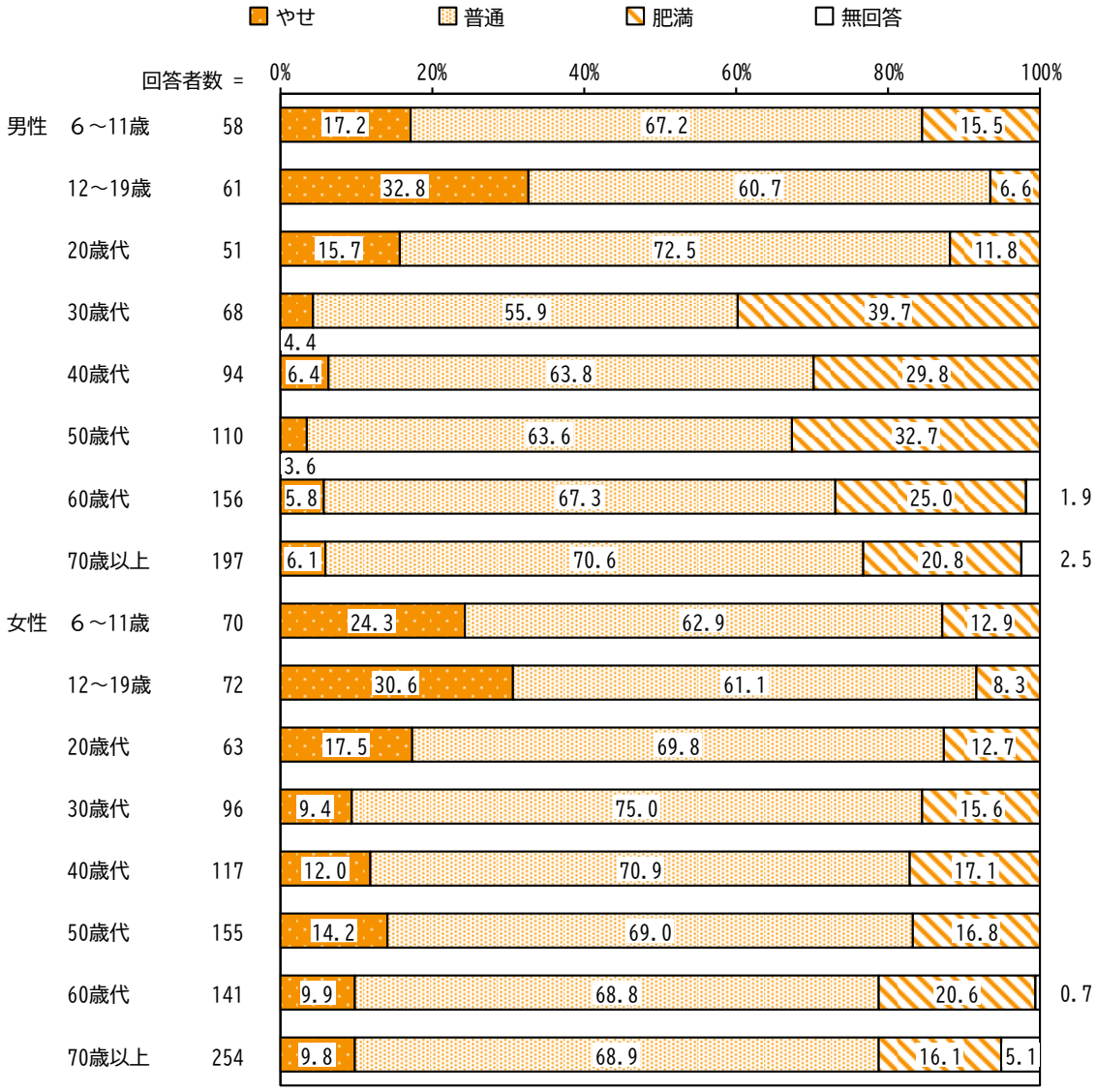
年代別　肥満度（問５）



【性年代別】

性年代別にみると、「やせ」の割合は男性の 12～19 歳、女性の６～11 歳・12～19 歳で高く、若い年代で目立ちます。一方「肥満」の割合は、男性の 30 歳代・40 歳代・50 歳代で高くなっています。

性年代別　肥満度（問５）

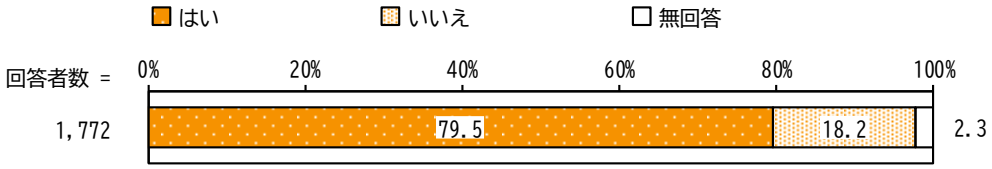


（２）毎日１回以上の共食

問 10　あなたは、毎日１回以上、家族や友人等と一緒に食事をしていますか。
（どちらかにチェック）

「はい」の割合が 79.5%、「いいえ」の割合が 18.2%となっています。

毎日１回以上の共食（問 10）

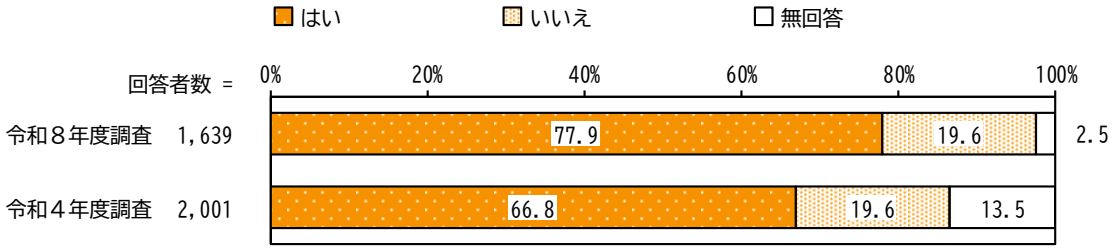


◆評価指標に基づく結果（対象：中学生～84 歳）

毎日１回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合は 77.9%となっています。

毎日１回以上の共食について令和４年度調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。

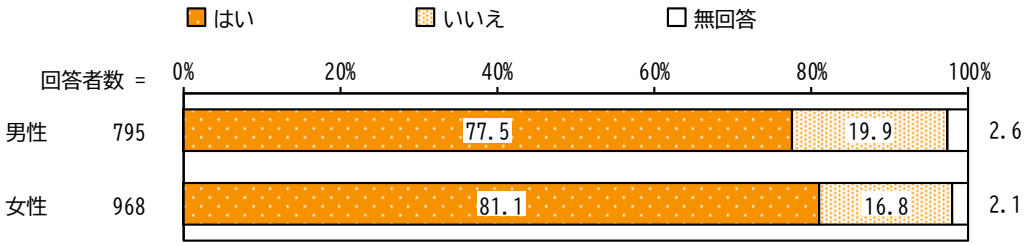
毎日１回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合（問 10）



【性別】

毎日１回以上の共食について性別でみると、大きな差はみられません。

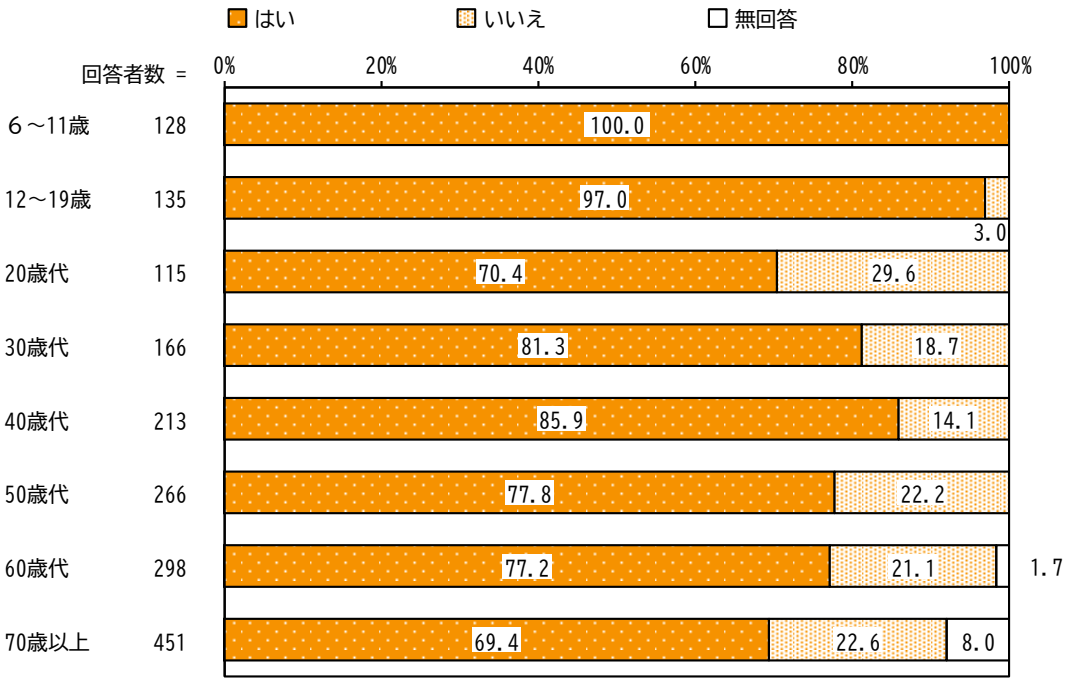
性別　毎日１回以上の共食（問 10）



【年代別】

毎日１回以上の共食について年代別でみると、６～11 歳で 100.0%、12～19 歳で 97.0%と、こどもの年代で「はい」の割合が高くなっています。一方、20 歳代は 70.4%、70 歳以上は 69.4%と低くなっています。

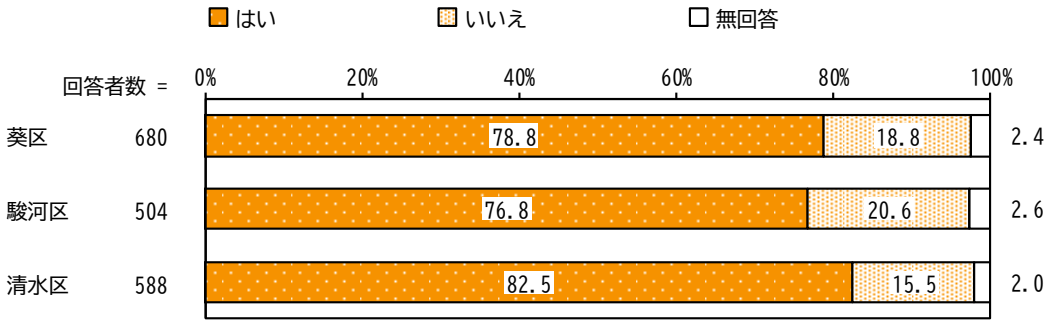
年代別　毎日１回以上の共食（問 10）



【居住地区別】

毎日１回以上の共食について居住地区別でみると、清水区で「はい」の割合が 82.5%とやや高くなっています。

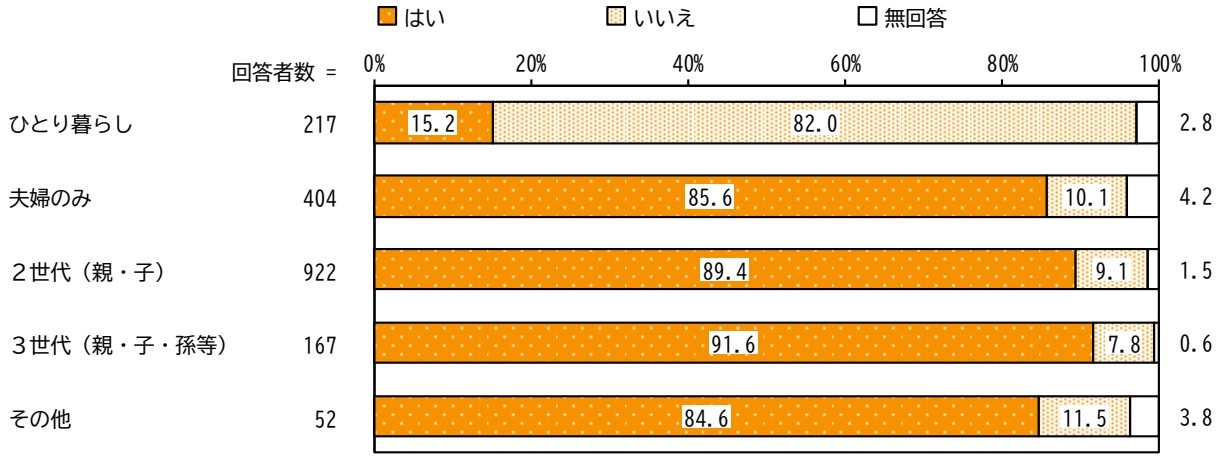
居住地区別　毎日１回以上の共食（問 10）



【世帯構成別】

毎日１回以上の共食について世帯構成別でみると、ひとり暮らしで「はい」の割合が 15.2%と低く、家族と同居する世帯では 80～90%台と高くなっています。

世帯構成別　毎日１回以上の共食（問 10）



（３）家族との食事頻度

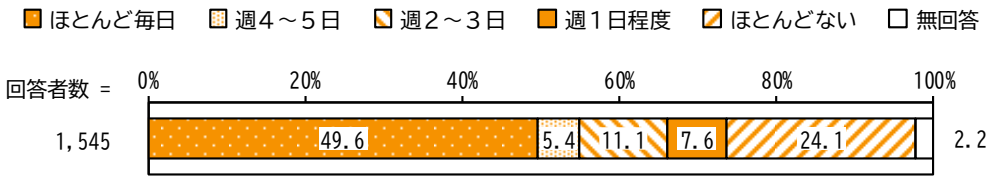
問 11、問 12、問 13 は、同居している人がいる方に伺います。

問 11　あなたは、朝食や夕食を家族と一緒に食べることが週にどのくらいありますか。
（それぞれ主なもの１つにチェック）

朝食

家族との食事頻度（朝食）について「ほとんど毎日」の割合が 49.6%と最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が 24.1%、「週２～３日」の割合が 11.1%となっています。

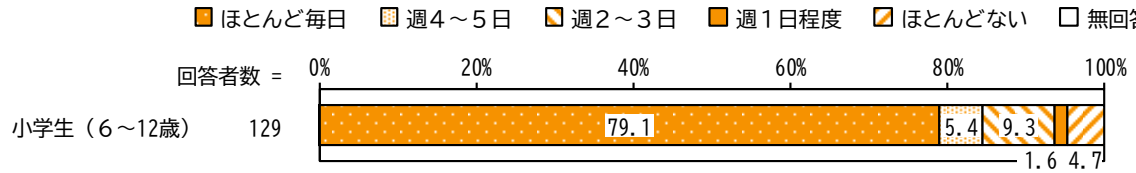
家族との食事頻度（朝食）（問 11①）



◆評価指標に基づく結果（対象：小学生　６～12 歳）

食事（朝食）を一人で食べるこどもの割合（家族との食事頻度が週３日以下に該当）は 15.5%となっています。食事（朝食）を一人で食べるこどもの割合について令和４年度調査（参考）と比較すると、増加しています。

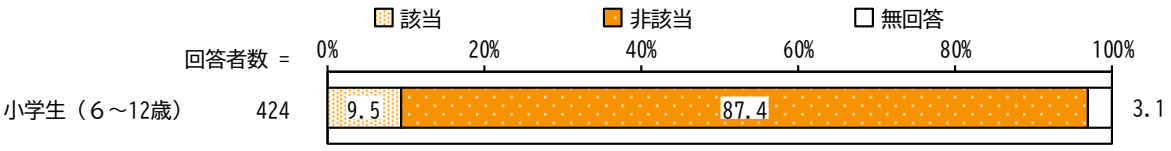
食事（朝食）を一人で食べるこどもの割合（問 11①）



※評価指標では、「週２～３日」「週１日程度」「ほとんどない」の件数を足し合わせてから割合を算出（15.5%）しているため、グラフ上の割合を足し上げた数値とは一致しない場合があります。

＜参考　令和４年度評価指標＞

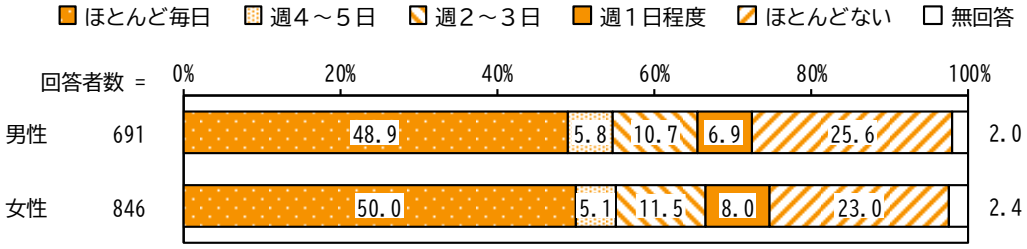
食事（朝食）を一人で食べるこどもの割合



【性別】

家族との食事頻度（朝食）について性別でみると、大きな差はみられません。

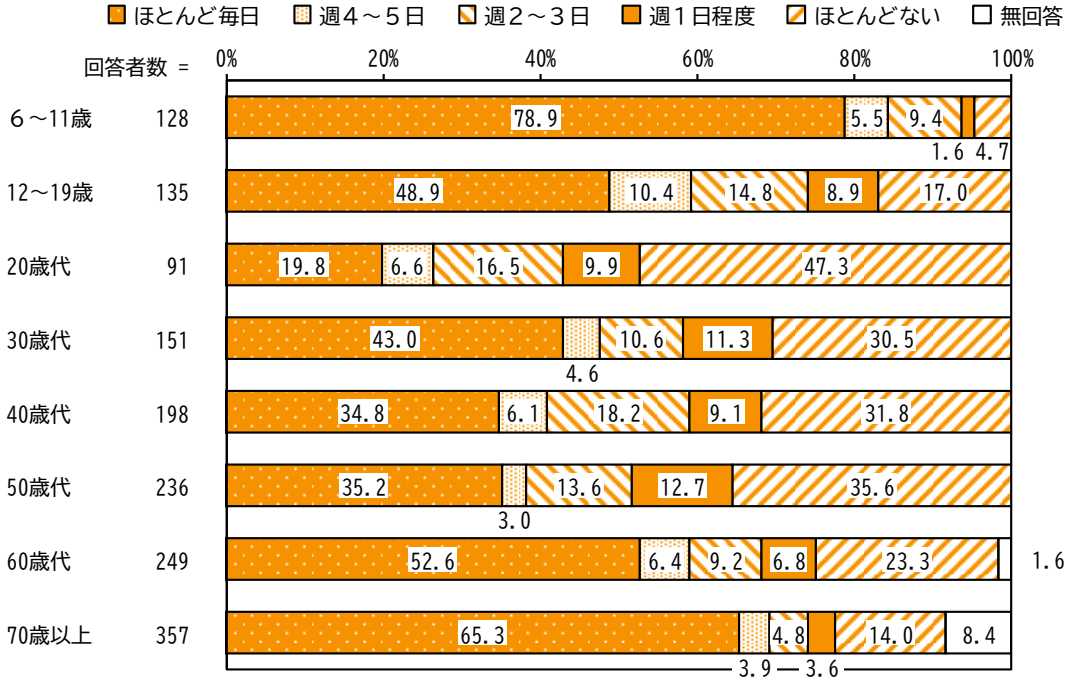
性別　家族との食事頻度（朝食）（問 11①）



【年代別】

家族との食事頻度（朝食）について年代別でみると、「ほとんど毎日」の割合は 6～11 歳で 78.9%と高く、12～19 歳では 48.9%に下がります。20 歳代では「ほとんど毎日」が 19.8%と全世代で最も低く、「ほとんどない」が 47.3%と最も高くなります。その後、「ほとんど毎日」の割合は 30 歳代で 43.0%まで戻りますが、40 歳代 34.8%、50 歳代 35.2%と再び低下し、60 歳代 52.6%、70 歳以上 65.3%と高くなります。

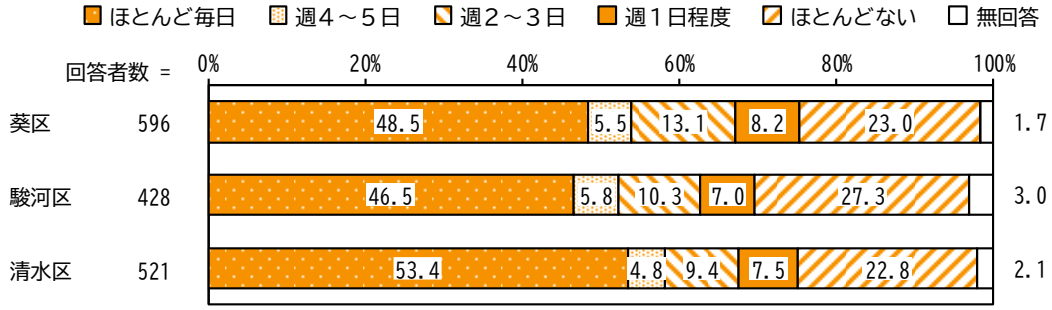
年代別　家族との食事頻度（朝食）（問 11①）



【居住地区別】

家族との食事頻度（朝食）について居住地区別でみると、清水区で「ほとんど毎日」の割合が 53.4%とやや高くなっています。

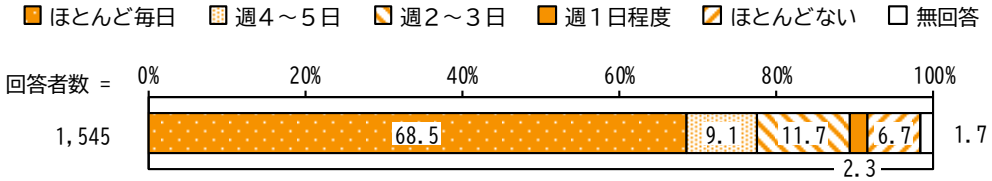
居住地区別　家族との食事頻度（朝食）（問 11①）



夕食

家族との食事頻度（夕食）について「ほとんど毎日」の割合が 68.5%と最も高く、次いで「週２～３日」の割合が 11.7%となっています。

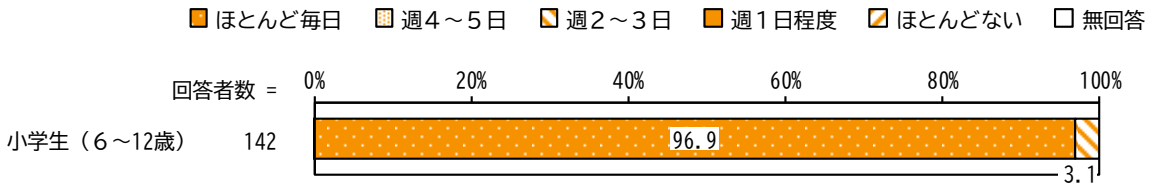
家族との食事頻度（夕食）（問 11②）



◆評価指標に基づく結果　（対象：小学生６～12 歳）

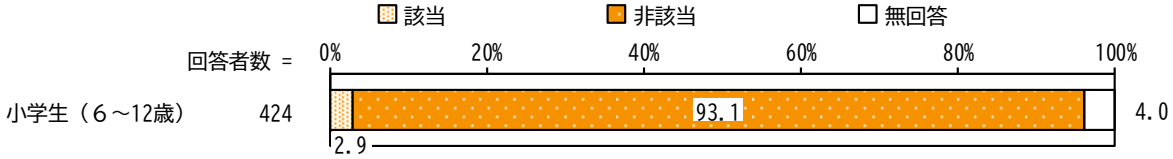
食事（夕食）を一人で食べるこどもの割合（家族との食事頻度が週３日以下に該当）は 3.1%となっています。食事（夕食）を一人で食べるこどもの割合について令和４年度調査（参考）と比較すると、大きな変化はみられません。

食事（夕食）を一人で食べるこどもの割合（問 11②）



＜参考　令和４年度評価指標＞

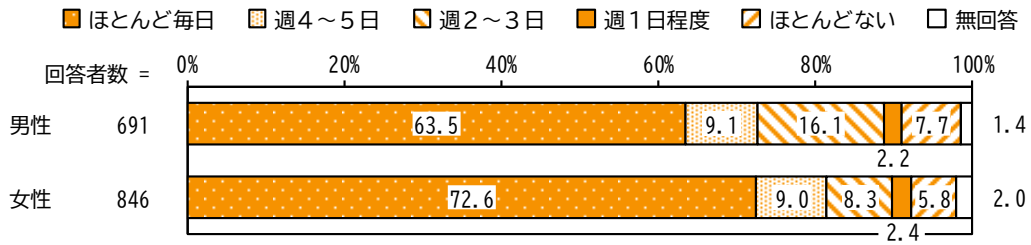
食事（夕食）を一人で食べるこどもの割合



【性別】

家族との食事頻度（夕食）について性別でみると、男性で「週２～３日」の割合が高く、女性で「ほとんど毎日」の割合が高くなっています。

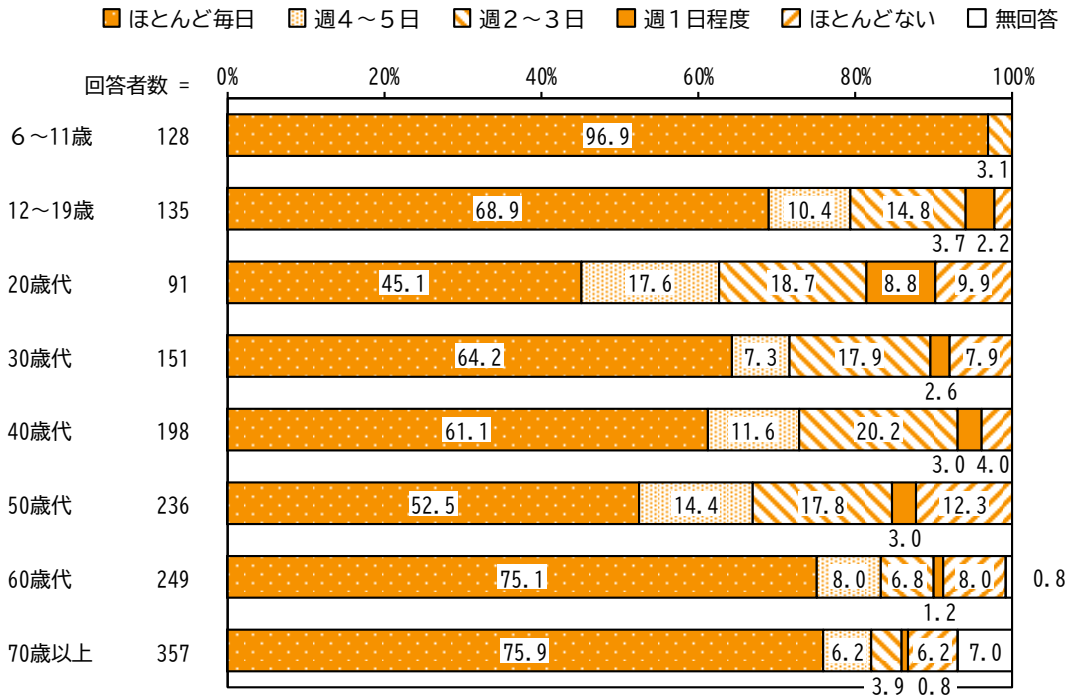
性別　家族との食事頻度（夕食）（問 11②）



【年代別】

家族との食事頻度（夕食）について年代別でみると、「ほとんど毎日」の割合は６～11 歳で 96.9%と高く、12～19 歳では 68.9%に下がります。20 歳代では 45.1%と最も低くなり、その後 30 歳代 64.2%、40 歳代 61.1%と戻りますが、50 歳代で 52.5%と再び低下します。60 歳代 75.1%、70 歳以上 75.9%と高くなっています。

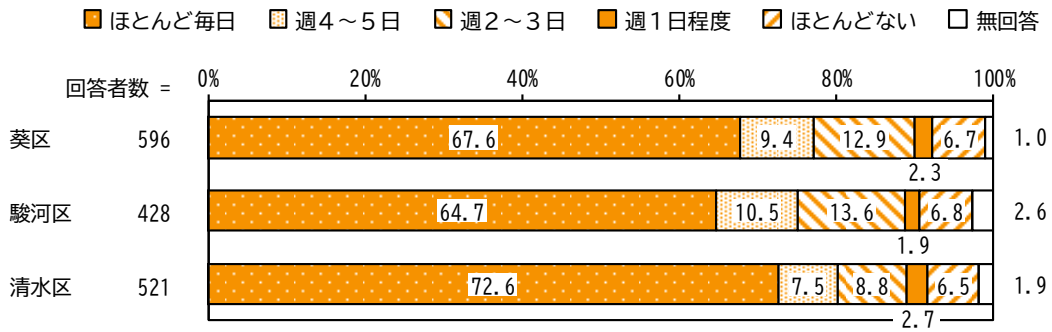
年代別　家族との食事頻度（夕食）（問 11②）



【居住地区別】

家族との食事頻度（夕食）について居住地区別でみると、清水区で「ほとんど毎日」の割合が 72.6%とやや高くなっています。

居住地区別　家族との食事頻度（夕食）（問 11②）

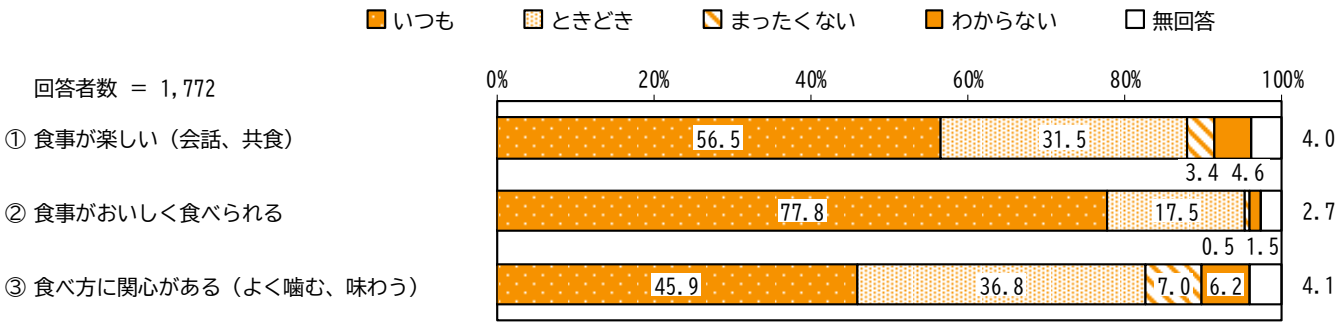


（４）食事に関する意識

問 14　次の①から③のそれぞれについて、あてはまるものはどれですか。
（それぞれ１つにチェック）

食事がいつも楽しい（会話、共食）割合が 56.5%、食事がいつもおいしく食べられる割合が 77.8%、食べ方にいつも関心がある（よく噛む、味わう）割合が 45.9%とそれぞれ最も高くなっています。

食事に対する意識（問 14、複数設問）

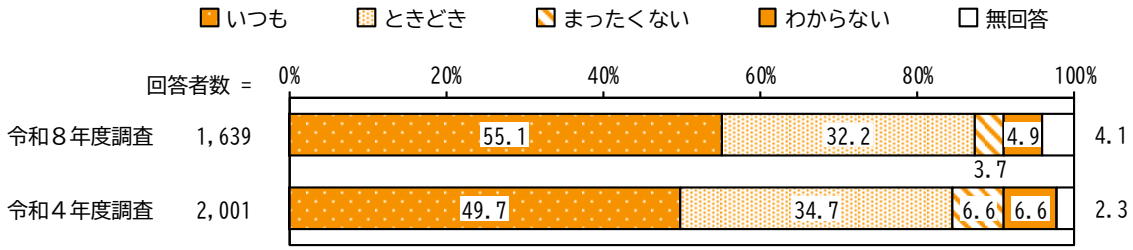


①食事が楽しい（会話、共食）

【経年比較】

食事が楽しいか（会話、共食）について令和４年度調査と比較すると、「いつも」の割合が増加しています。

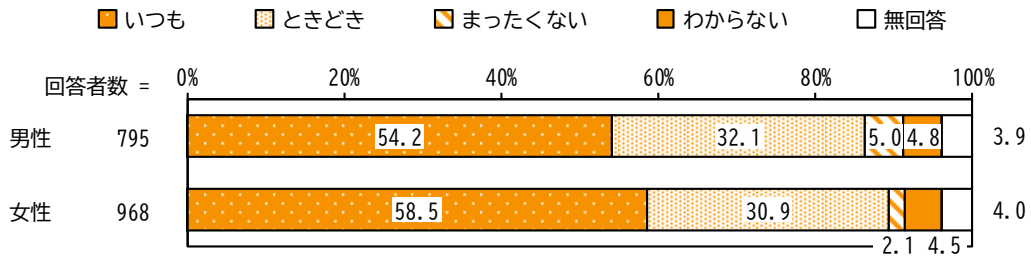
経年比較　食事が楽しい（会話、共食）（問 14①）



【性別】

食事が楽しいか（会話、共食）について性別でみると、女性で「いつも」の割合がやや高くなっています。

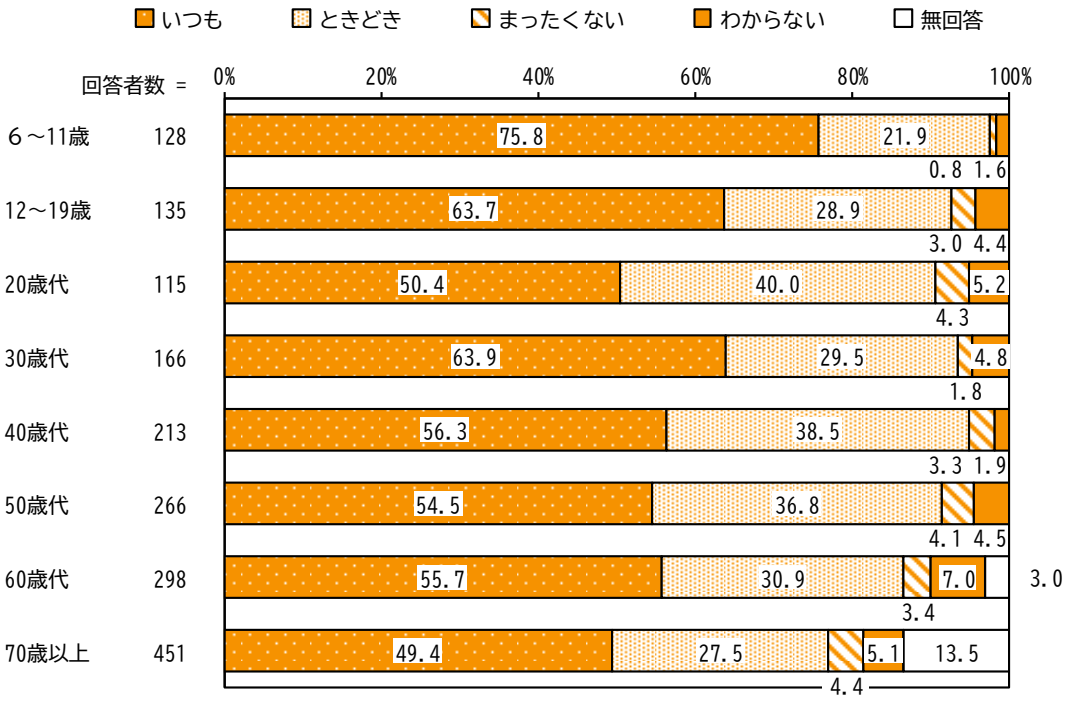
性別　食事が楽しい（会話、共食）（問 14①）



【年代別】

食事が楽しいか（会話、共食）について年代別でみると、「いつも」の割合が 70 歳以上で 49.4%、20 歳代で 50.4%と低くなっています。

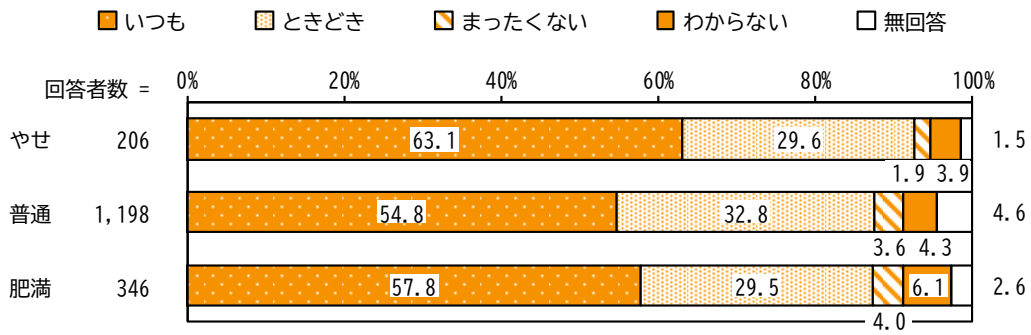
年代別　食事が楽しい（会話、共食）（問 14①）



【肥満度別】

食事が楽しいか（会話、共食）について肥満度別でみると、やせで「いつも」の割合が高くなっています。

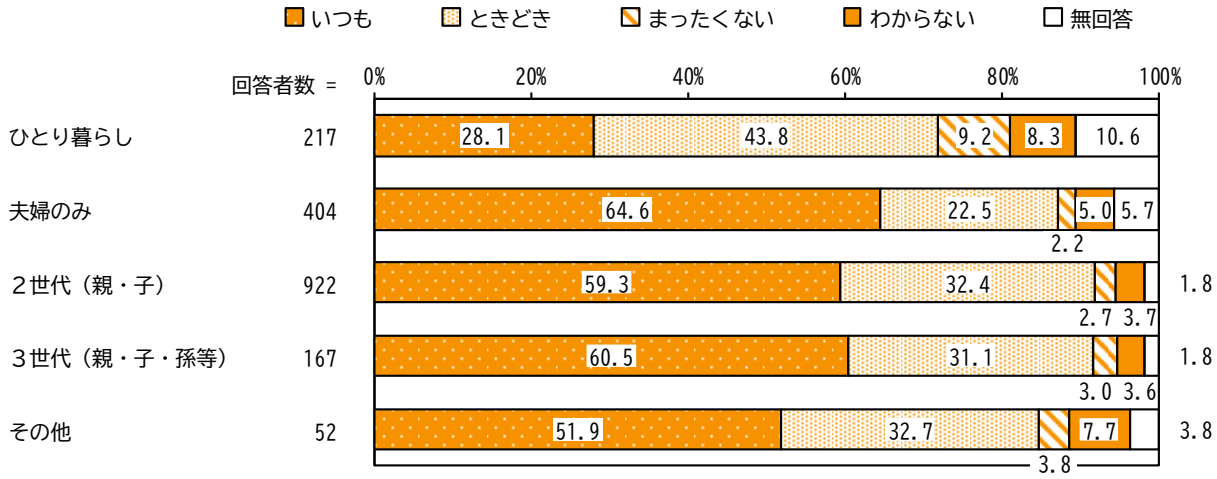
肥満度別　食事が楽しい（会話、共食）（問 14①）



【世帯構成別】

食事が楽しいか（会話、共食）について世帯構成別でみると、「いつも」の割合がひとり暮らしで 28.1%にとどまっています。

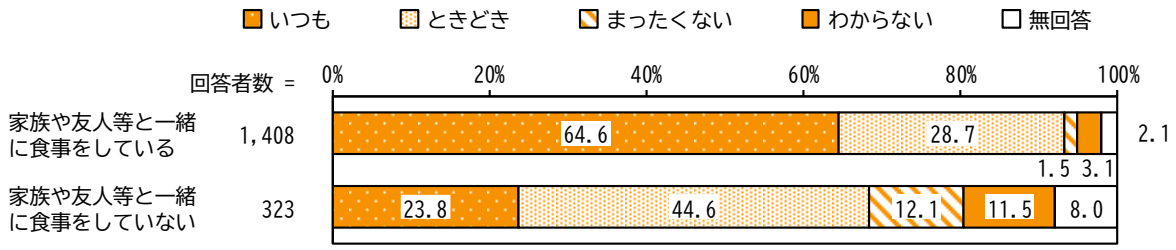
世帯構成別　食事が楽しい（会話、共食）（問 14①）



【共食状況別】

食事が楽しいか（会話、共食）について共食状況別でみると、家族や友人等と一緒に食事をしているで「いつも」の割合が高く、家族や友人等と一緒に食事をしていないで「ときどき」「まったくない」の割合が高くなっています。

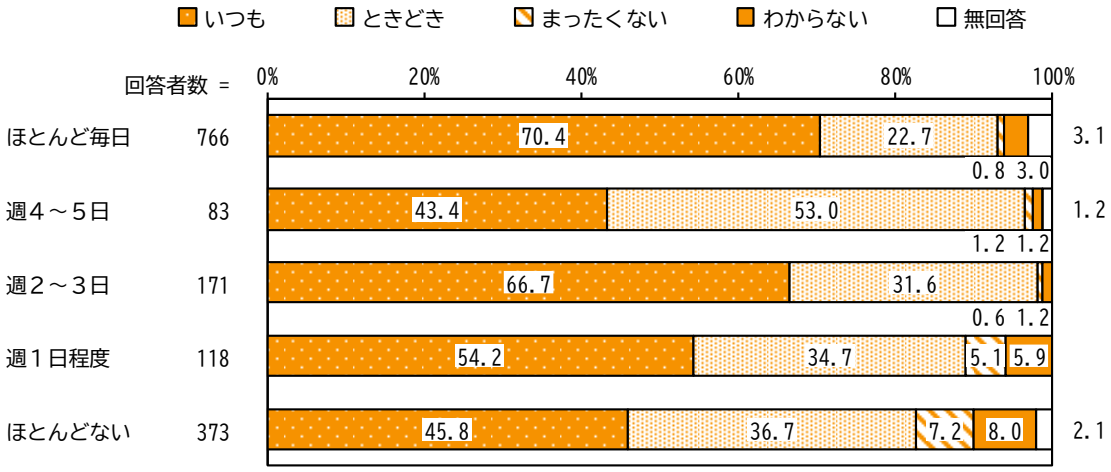
共食状況別　食事が楽しい（会話、共食）（問 14①）



【朝食の共食頻度別】

食事が楽しいか（会話、共食）について朝食の共食頻度別でみると、「ほとんど毎日」家族と食べている人で「いつも」の割合が最も高くなっています。

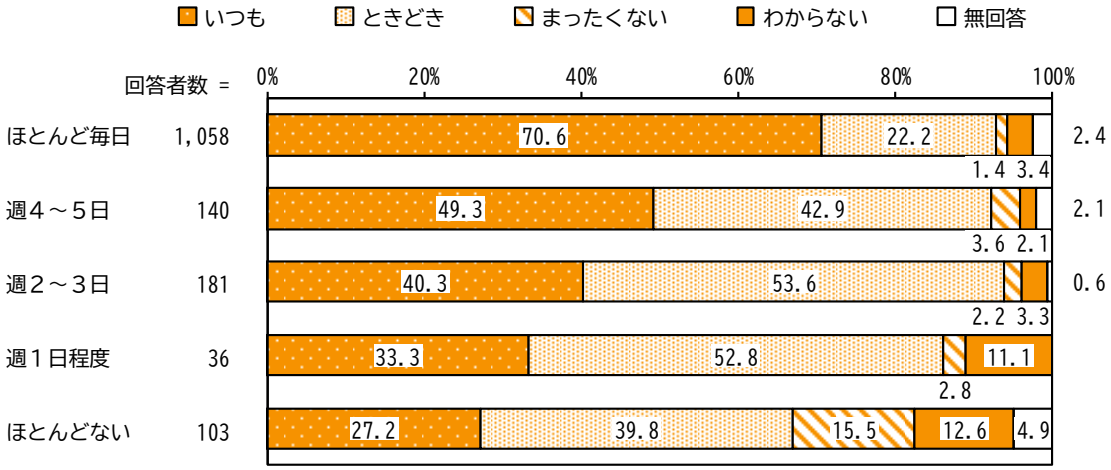
朝食の共食頻度別　食事が楽しい（会話、共食）（問 14①）



【夕食の共食頻度別】

食事が楽しいか（会話、共食）について夕食の共食頻度別でみると、頻度が多いほど「いつも」の割合が高くなっています。また、週２～３日、週１日程度で「ときどき」の割合が高くなっています。

夕食の共食頻度別　食事が楽しい（会話、共食）（問 14①）

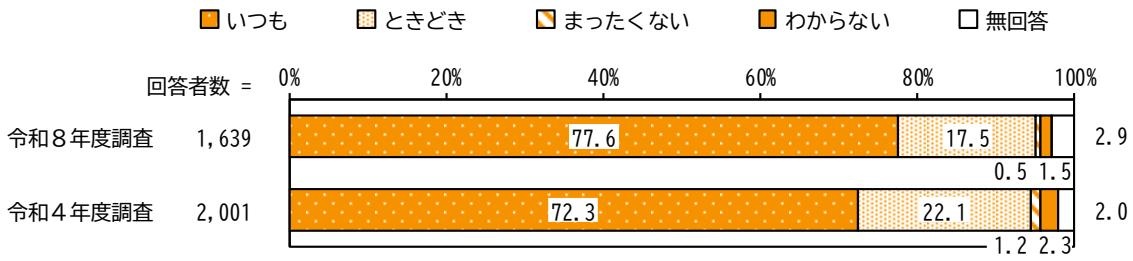


②食事がおいしく食べられる

【経年比較】

食事がおいしく食べられるかについて令和４年度調査と比較すると、「いつも」の割合が増加しています。

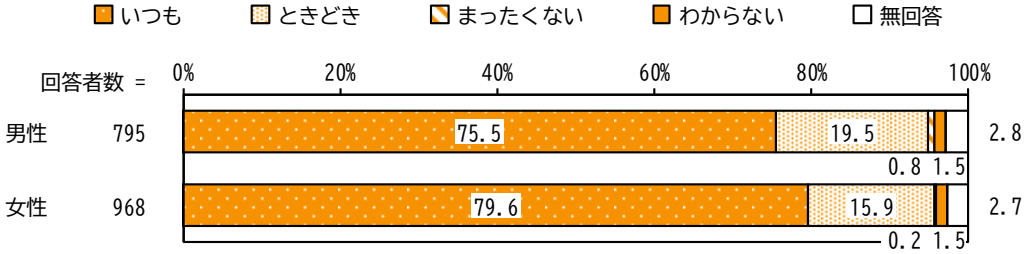
経年比較　食事がおいしく食べられる（問 14②）



【性別】

食事がおいしく食べられるかについて性別でみると、女性で「いつも」の割合がやや高くなっています。

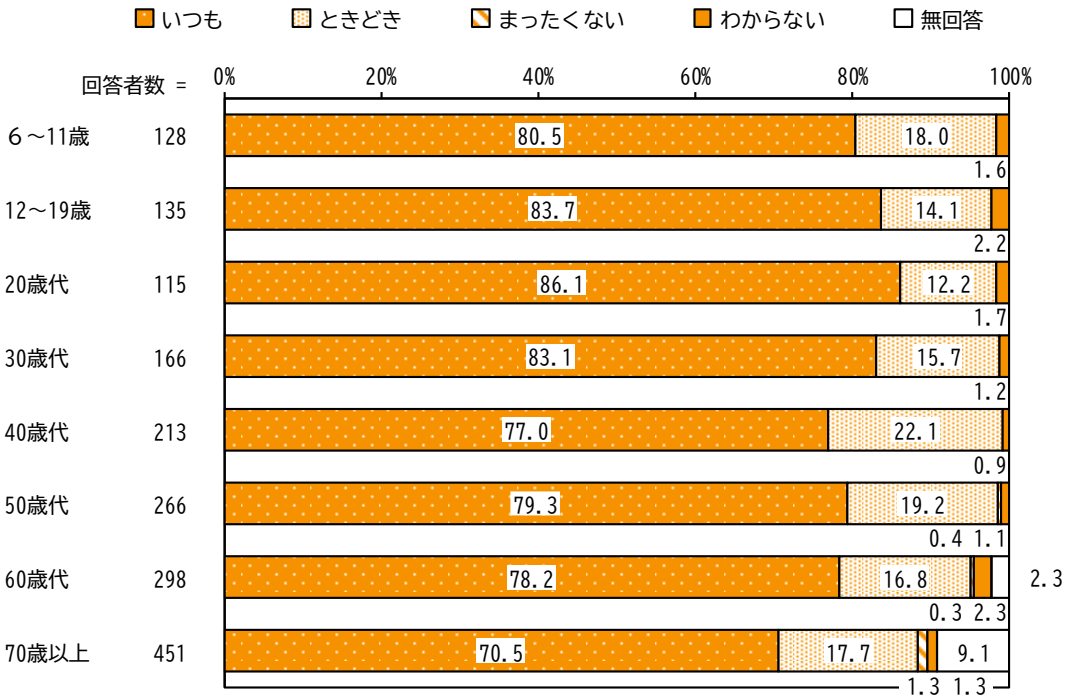
性別　食事がおいしく食べられる（問 14②）



【年代別】

食事がおいしく食べられるかについて年代別でみると、６～11 歳、12～19 歳、20 歳代、30 歳代で「いつも」の割合が 80%台と高く、70 歳以上で 70.5%と最も低くなっています。

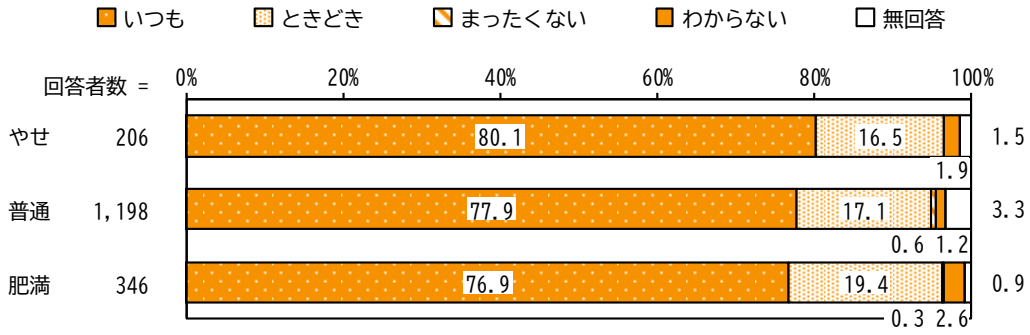
年代別　食事がおいしく食べられる（問 14②）



【肥満度別】

食事がおいしく食べられるかについて肥満度別でみると、大きな差はみられません。

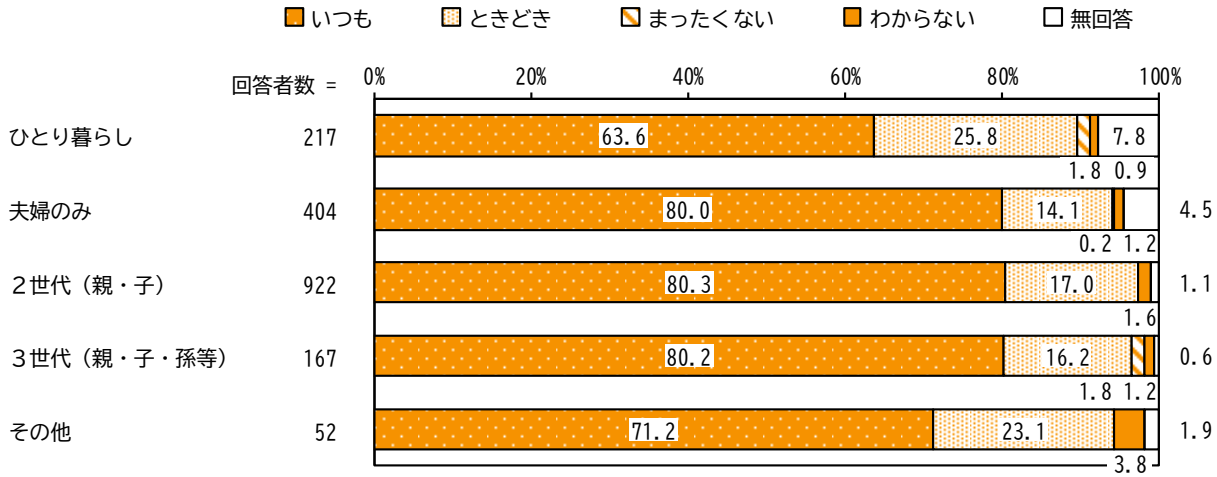
肥満度別　食事がおいしく食べられる（問 14②）



【世帯構成別】

食事がおいしく食べられるかについて世帯構成別でみると、「いつも」の割合がひとり暮らしで63.6%と全世帯構成で最も低くなっています。

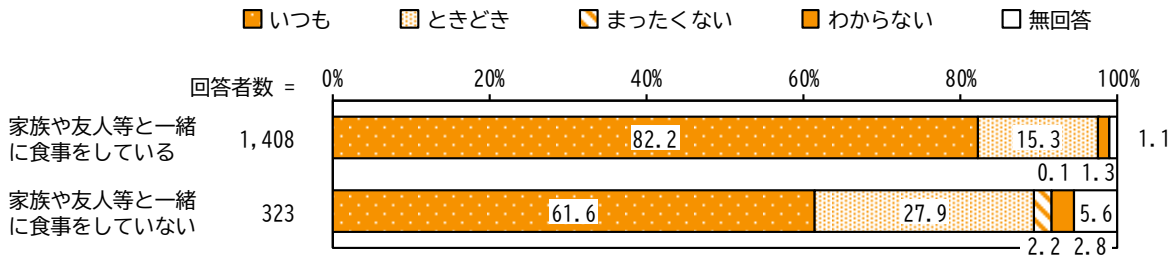
世帯構成別　食事がおいしく食べられる（問14②）



【共食状況別】

食事がおいしく食べられるかについて共食状況別でみると、家族や友人等と一緒に食事をしているで「いつも」の割合が高く、家族や友人等と一緒に食事をしていないで「ときどき」の割合が高くなっています。

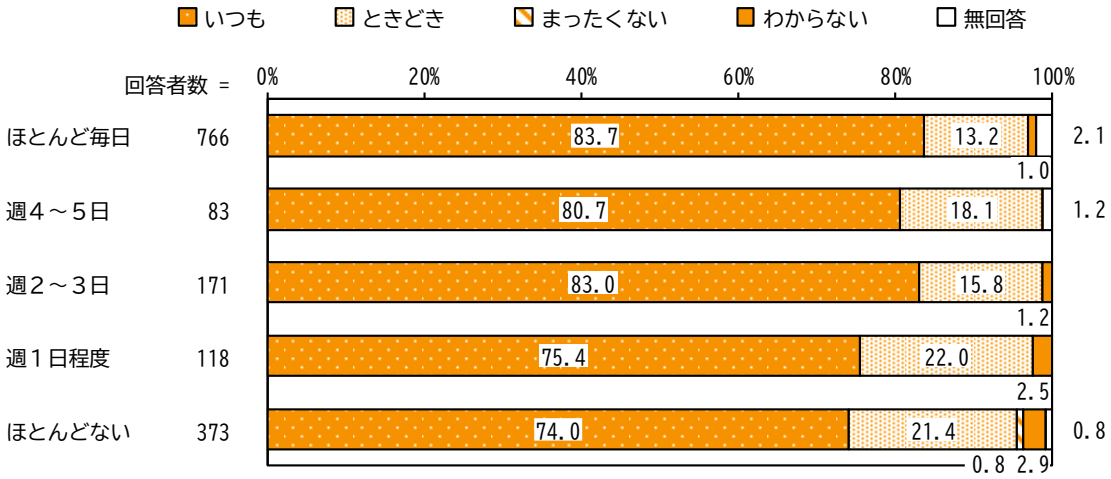
共食状況別　食事がおいしく食べられる（問14②）



【朝食の共食頻度別】

食事がおいしく食べられるかについて朝食の共食頻度別でみると、「ほとんど毎日」家族と食べている人で「いつも」の割合が 83.7%と最も高く、「ほとんどない」人で 74.0%と最も低くなっています。

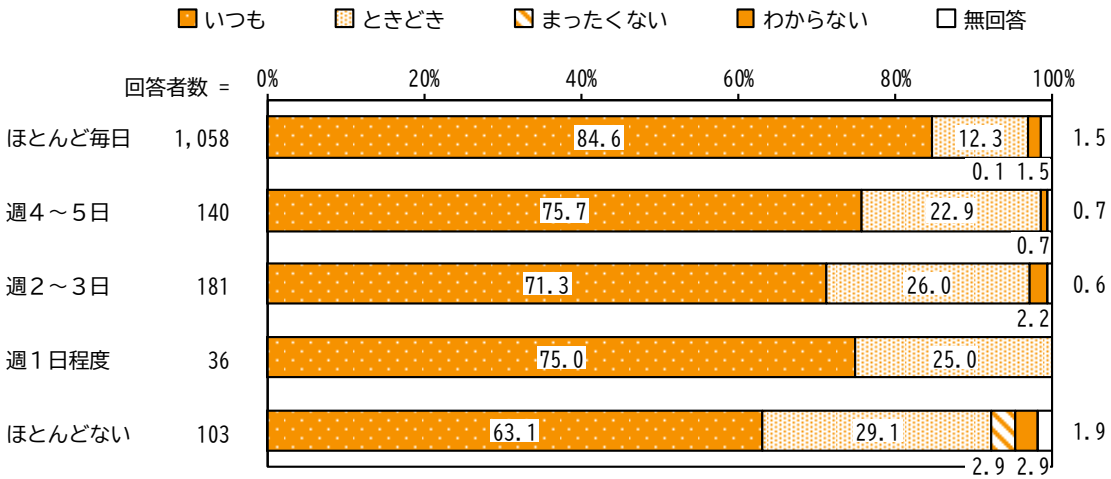
朝食の共食頻度別　食事がおいしく食べられる（問 14②）



【夕食の共食頻度別】

食事がおいしく食べられるかについて夕食の共食頻度別でみると、「ほとんど毎日」家族と食べている人で「いつも」の割合が最も高くなっています。

夕食の共食頻度別　食事がおいしく食べられる（問 14②）

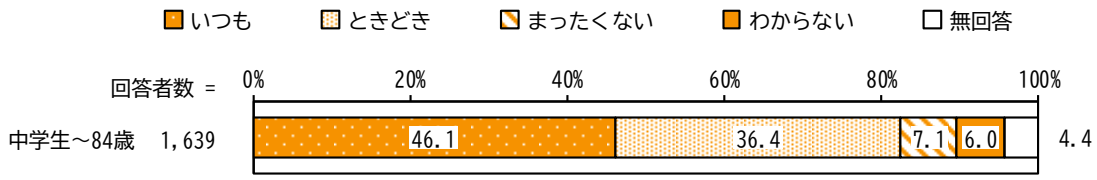


③食べ方に関心がある（よく噛む、味わう）

◆評価指標に基づく結果（対象：中学生～84 歳）

ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある（「いつも」のみ）市民の割合は 46.1%となっています。

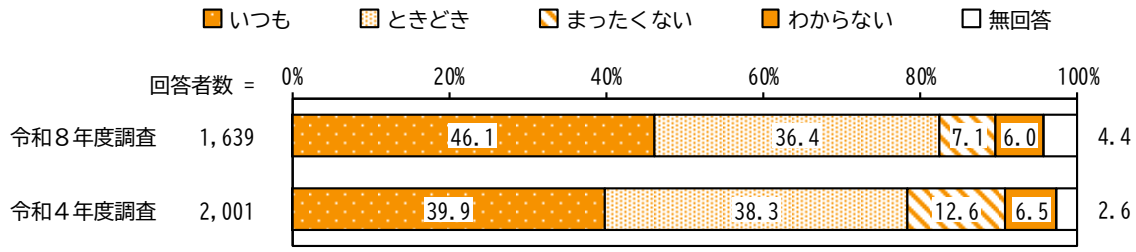
ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民の割合（問 14③）



【経年比較】

食べ方に関心があるかについて令和４年度調査と比較すると、「いつも」の割合が増加しています。一方、「まったくない」の割合が減少しています。

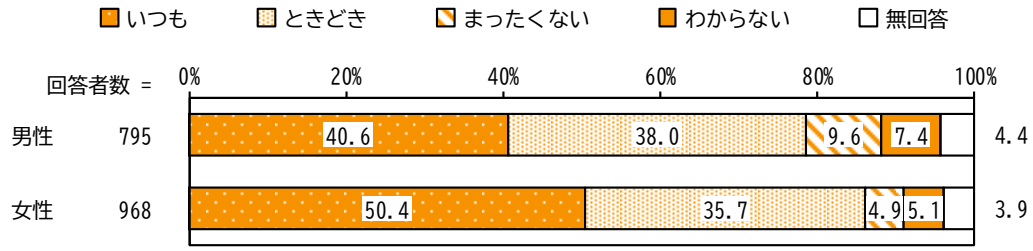
経年比較　食べ方に関心がある（問 14③）



【性別】

食べ方に関心があるかについて性別でみると、女性で「いつも」の割合が高くなっています。

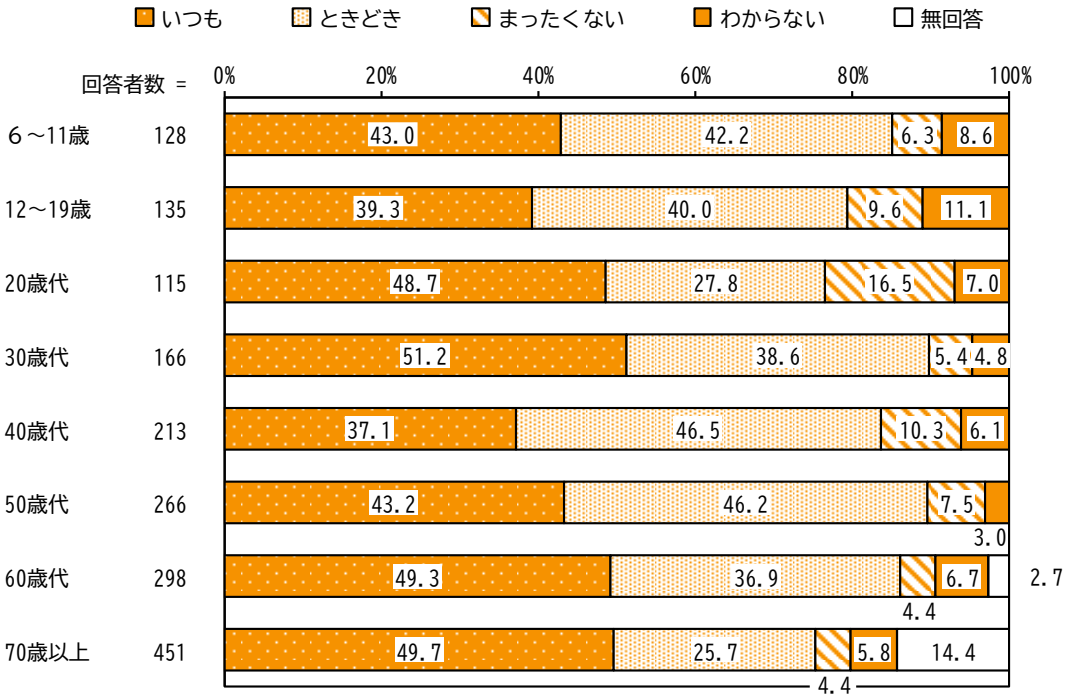
性別　食べ方に関心がある（問 14③）



【年代別】

食べ方に関心があるかについて年代別でみると、20 歳代・30 歳代・60 歳代・70 歳以上で「いつも」の割合が高くなっています。ただし 20 歳代では「まったくない」も 16.5%と高く、関心の有無が分かれています。

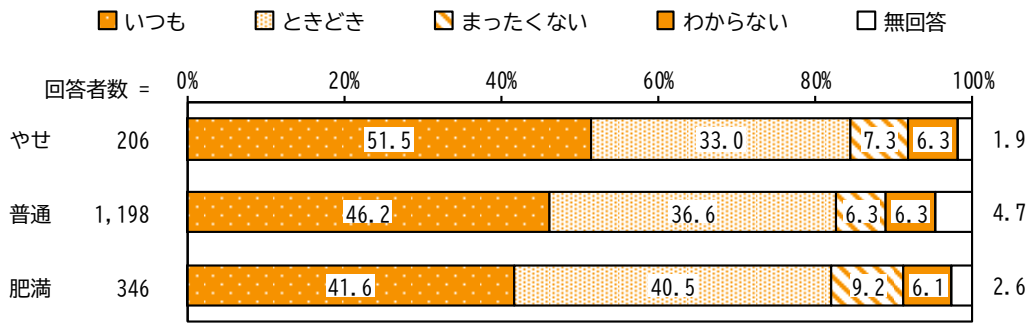
年代別　食べ方に関心がある（問 14③）



【肥満度別】

食べ方に関心があるかについて肥満度別でみると、「やせ」で「いつも」の割合が高く、「肥満」で「いつも」の割合が低くなっています。

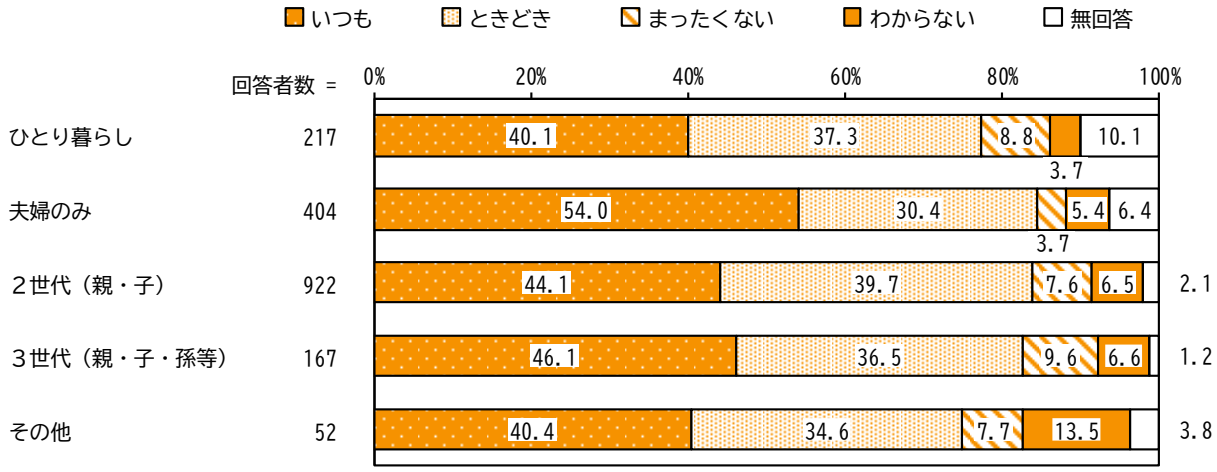
肥満度別　食べ方に関心がある（問 14③）



【世帯構成別】

食べ方に関心があるかについて世帯構成別でみると、夫婦のみで「いつも」の割合が高く「ときどき」の割合が低くなっています。

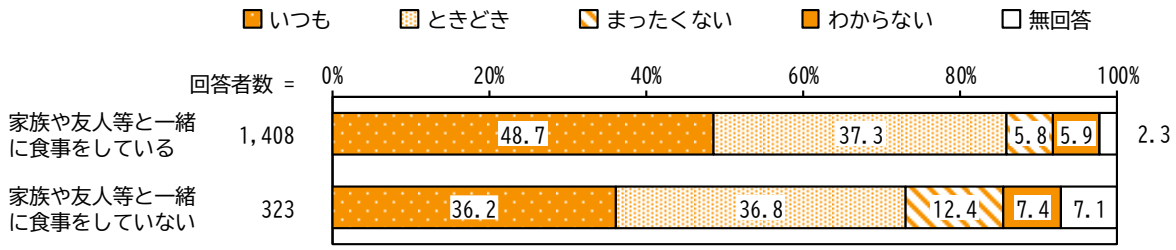
世帯構成別　食べ方に関心がある（問 14③）



【共食状況別】

食べ方に関心があるかについて共食状況別でみると、家族や友人等と一緒に食事をしているで「いつも」の割合が高く、家族や友人等と一緒に食事をしていないで「まったくない」の割合が高くなっています。

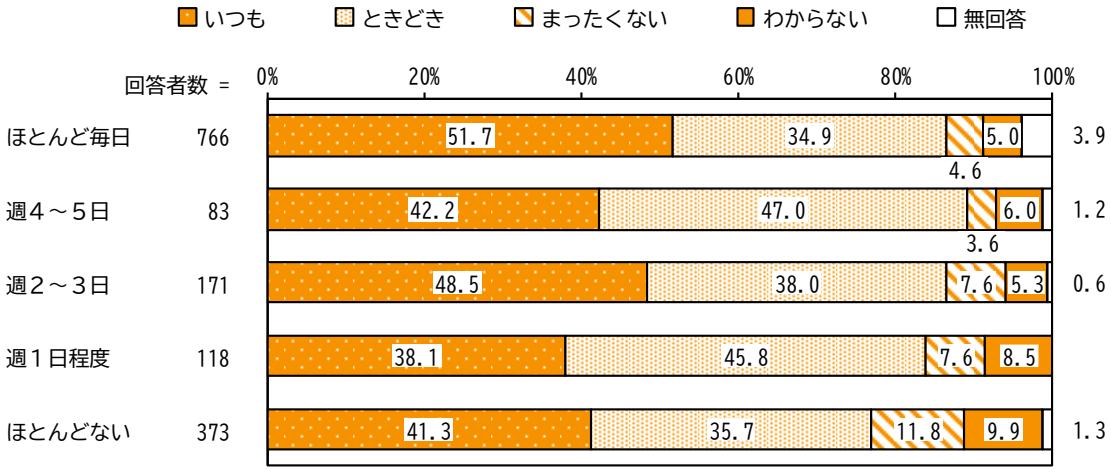
共食状況別　食べ方に関心がある（問 14③）



【朝食の共食頻度別】

食べ方に関心があるかについて朝食の共食頻度別でみると、「ほとんど毎日」家族と食べている人で「いつも」の割合が最も高くなっています。

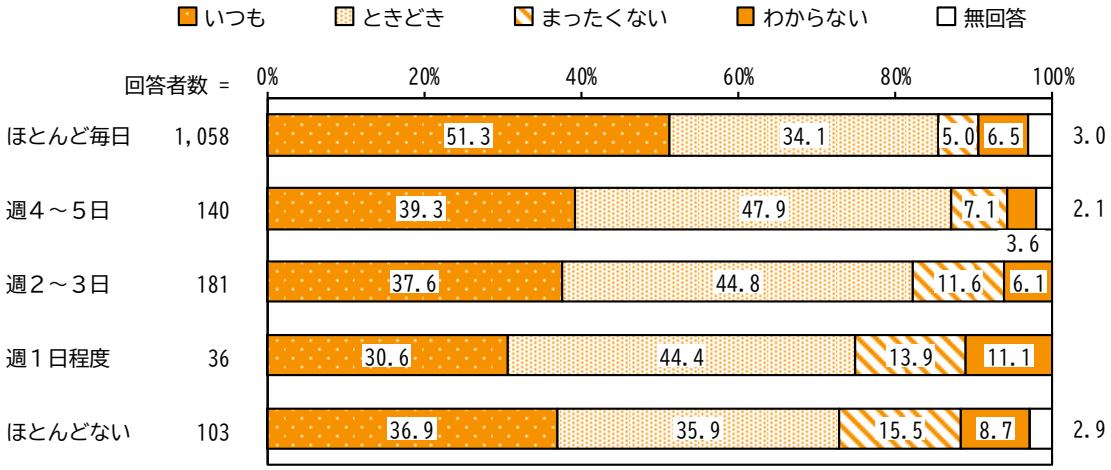
朝食の共食頻度別　食べ方に関心がある（問 14③）



【夕食の共食頻度別】

食べ方に関心があるかについて夕食の共食頻度別でみると、「ほとんど毎日」家族と食べている人で「いつも」の割合が最も高くなっています。

夕食の共食頻度別　食べ方に関心がある（問 14③）



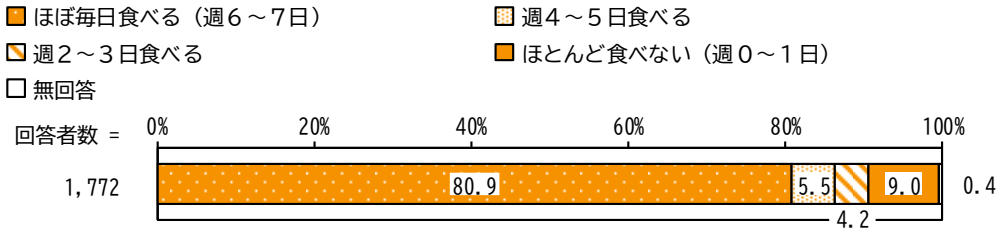
2　現在の食習慣、生活習慣について

（１）朝食の摂取頻度

問 15　あなたは、ふだん朝食を食べますか。（１つにチェック）

「ほぼ毎日食べる（週６～７日）」の割合が 80.9%と最も高くなっています。

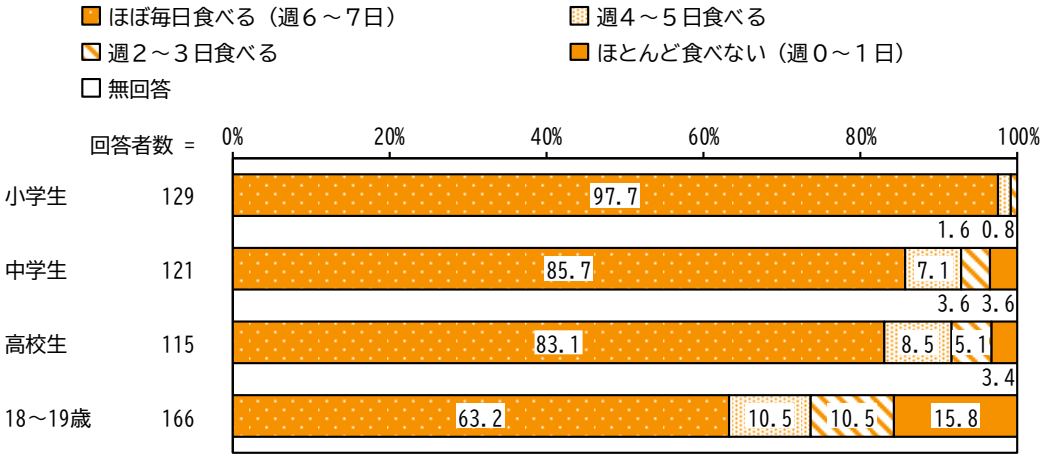
朝食の摂取頻度（問 15）



【年齢別（小・中・高・18～19 歳）】

朝食の摂取頻度について年齢別でみると、年齢が上がるほど「ほぼ毎日食べる（週６～７日）」の割合が低くなっています。特に、小学生（97.7%）と 18～19 歳（63.2%）では 34.5 ポイントの差があります。

小学生（６～12 歳）・思春期（13～19 歳）・20 歳代・30 歳代　朝食の摂取頻度（問 15）

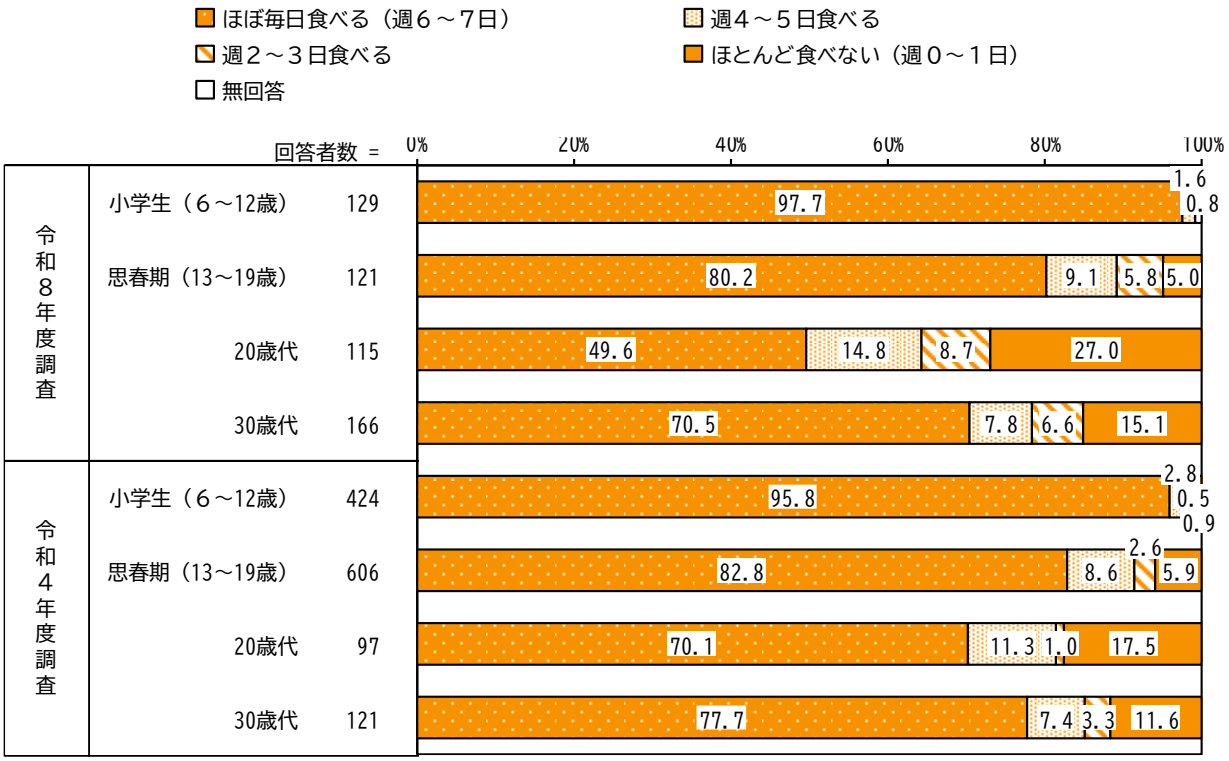


◆評価指標に基づく結果

朝食を欠食する若い世代の割合（「週４～５日食べる」「週２～３日食べる」「ほとんど食べない（週０～１日）」と回答した人）は、小学生（６～12 歳）で 2.3%、思春期（13～19 歳）で 19.8%、20 歳代で 50.4%、30 歳代で 29.5%となっています。

朝食を欠食する若い世代の割合について令和４年度調査と比較すると、20 歳代、30 歳代で増加しています。

朝食を欠食する若い世代の割合（問 15）

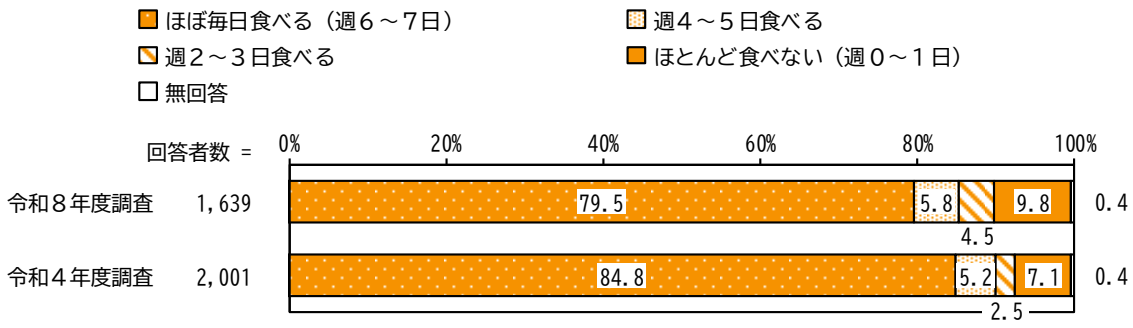


※評価指標では、「週４～５日食べる」「週２～３日食べる」「ほとんど食べない（週０～１日）」の件数を足し合わせた割合を算出しているため、グラフ上の割合を足し上げた数値とは一致しない場合があります。

【経年比較】

朝食の摂取頻度について令和４年度調査と比較すると、「ほぼ毎日食べる（週６～７日）」の割合が減少しています。

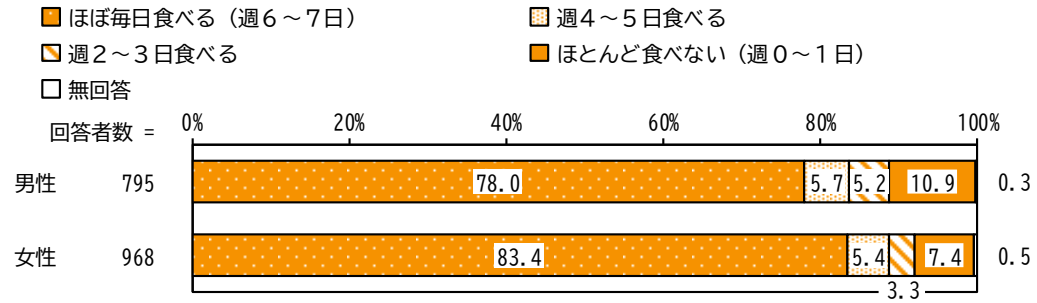
経年比較　朝食の摂取頻度（問 15）



【性別】

朝食の摂取頻度について性別でみると、女性で「ほぼ毎日食べる（週６～７日）」の割合が高くなっています。

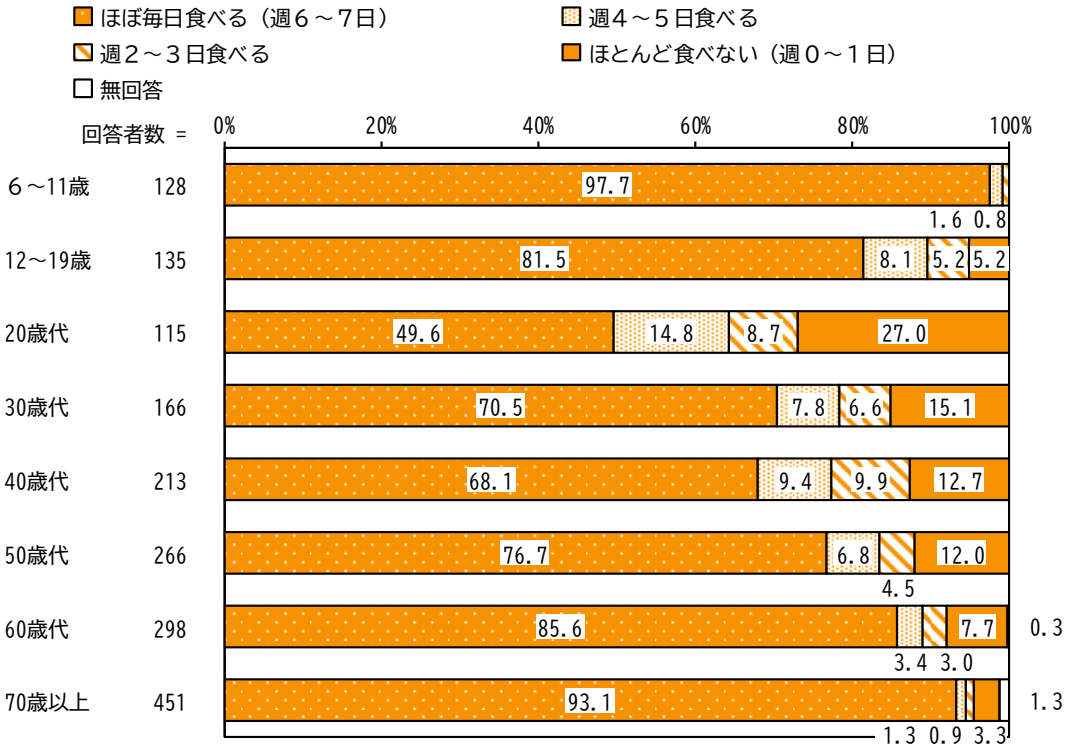
性別　朝食の摂取頻度（問 15）



【年代別】

朝食の摂取頻度について年代別でみると、「ほぼ毎日食べる（週６～７日）」の割合は６～11 歳で最も高く、20 歳代で 49.6%と最も低くなっています。

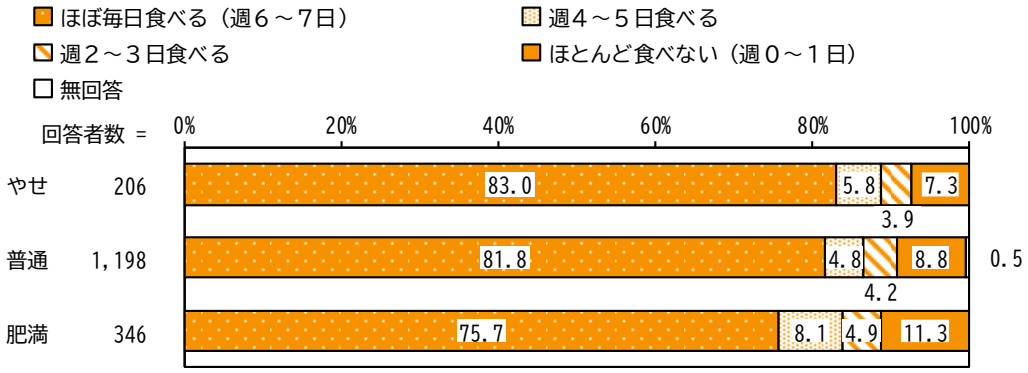
年代別　朝食の摂取頻度（問 15）



【肥満度別】

朝食の摂取頻度について肥満度別でみると、肥満度が上がるほど「ほとんど食べない（週０～１日）」の割合が高く、「ほぼ毎日食べる（週６～７日）」の割合が低くなっています。

肥満度別　朝食の摂取頻度（問 15）

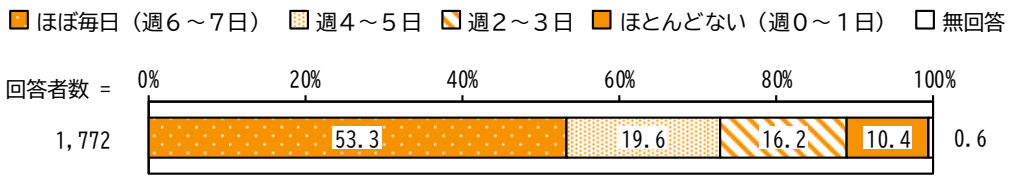


（２）栄養バランスへの意識

問 17　主食・主菜・副菜を３つそろえて食べることが１日２回以上あるのは、週に何日ありますか。（１つにチェック）

「ほぼ毎日（週６～７日）」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「週４～５日」の割合が 19.6%、「週２～３日」の割合が 16.2%となっています。

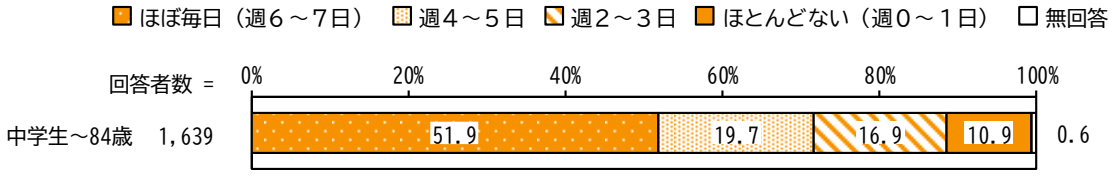
栄養バランスへの意識（問 17）



◆評価指標に基づく結果①　（対象：中学生～84 歳）

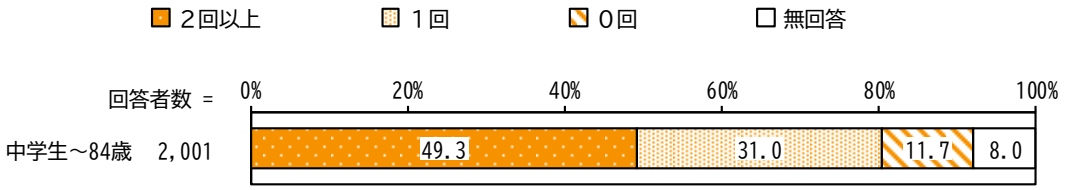
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている市民の割合は 51.9%となっています。主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている市民の割合について令和４年度調査（参考）と比較すると、大きな変化はみられません。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている市民の割合（問 17）



＜参考　令和４年度評価指標＞

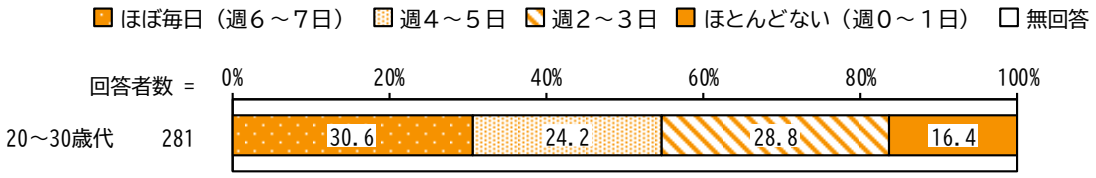
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上食べている市民の割合



◆評価指標に基づく結果②　（対象：20～30 歳代）

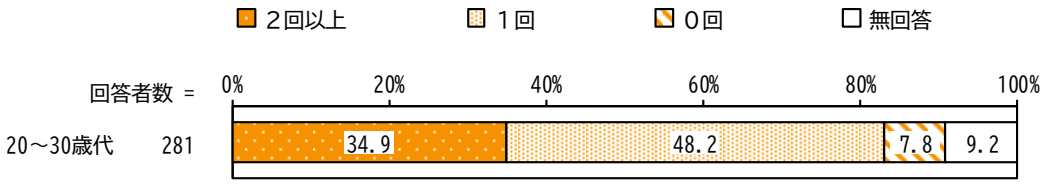
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合は 30.6%となっています。主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合について令和４年度調査（参考）と比較すると、大きな変化はみられません。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合（問 17）



＜参考　令和４年度評価指標＞

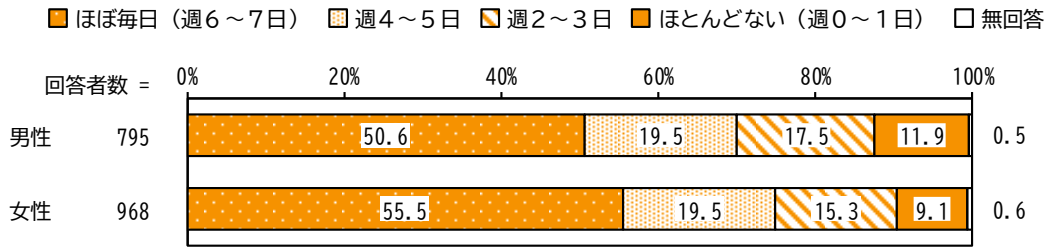
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上食べている若い世代の割合



【性別】

栄養バランスへの意識について性別でみると、大きな差はみられません。

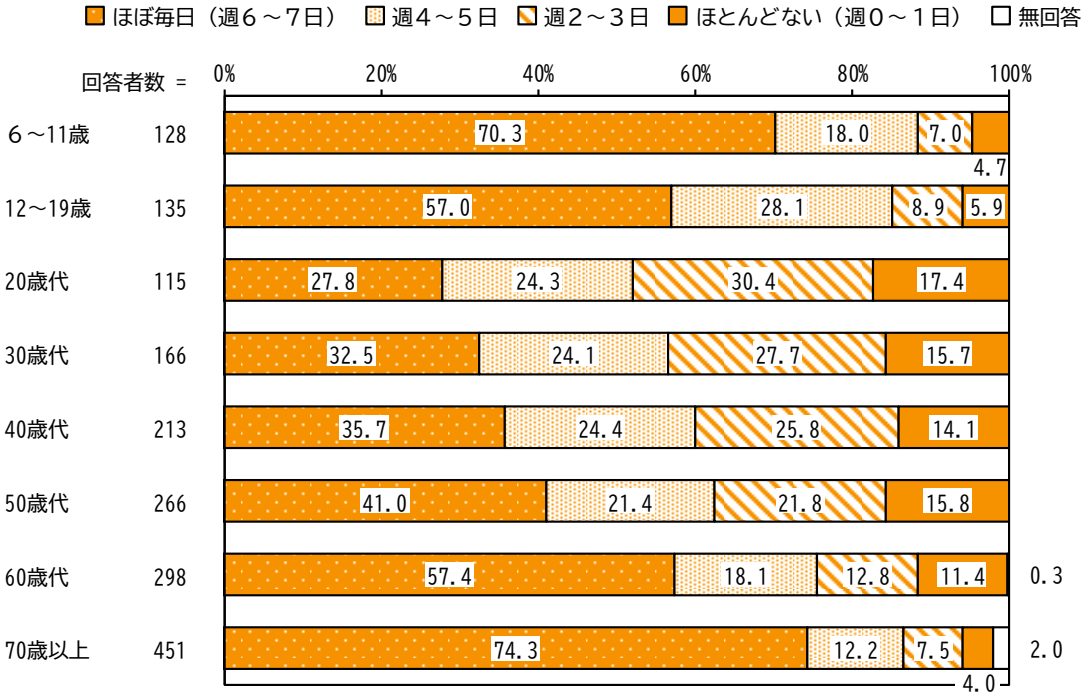
性別　栄養バランスへの意識（問 17）



【年代別】

栄養バランスへの意識について年代別でみると、「ほぼ毎日（週６～７日）」の割合は６～11 歳で 70.3%、70 歳以上で 74.3%と高くなっています。20 歳代では 27.8%と最も低く、20 歳代以降は年代が上がるにつれて高くなっています。

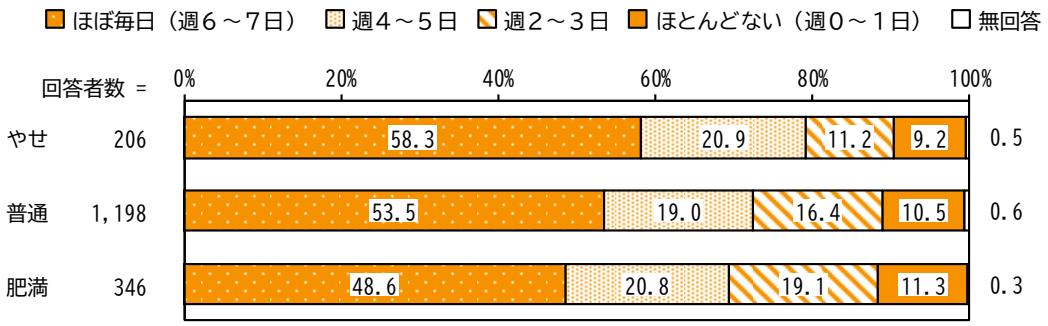
年代別　栄養バランスへの意識（問 17）



【肥満度別】

栄養バランスへの意識について肥満度別でみると、肥満度が上がるほど「週２～３日」の割合が高く、「ほぼ毎日（週６～７日）」の割合が低くなっています。

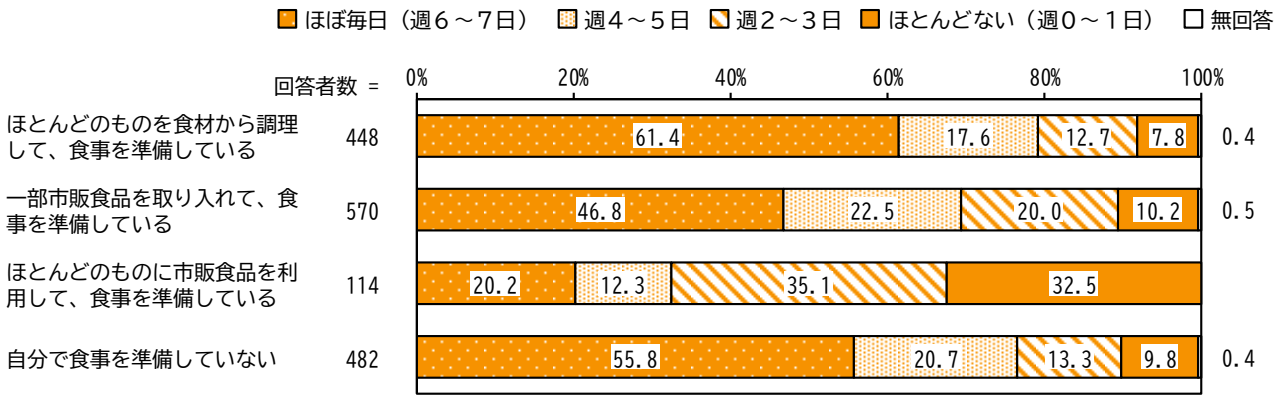
肥満度別　栄養バランスへの意識（問 17）



【自身の食事状況別】

栄養バランスへの意識について自身の食事状況別でみると、「ほとんどのものを食材から調理して、食事を準備している」で「ほぼ毎日（週６～７日）」の割合が最も高くなっています。一方、「ほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している」では「週２～３日」「ほとんどない（週０～１日）」の割合が高くなっています。

自身の食事状況別　栄養バランスへの意識（問 17）

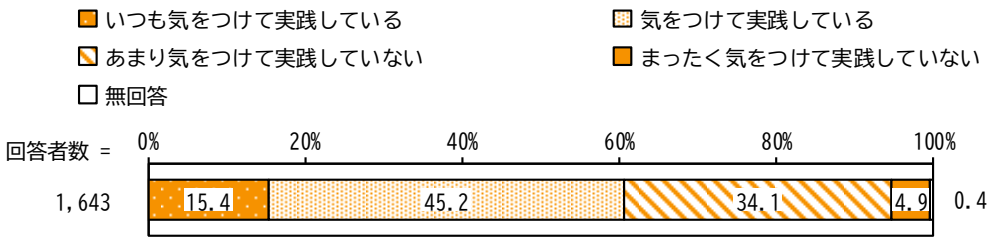


（３）生活習慣病予防行動

問 21　生活習慣病の予防や改善のために、あなたは、適切な食事（減塩や栄養バランス）や定期的な運動を継続して実践していますか。（１つにチェック）

「気をつけて実践している」の割合が 45.2%と最も高く、次いで「あまり気をつけて実践していない」の割合が 34.1%、「いつも気をつけて実践している」の割合が 15.4%となっています。

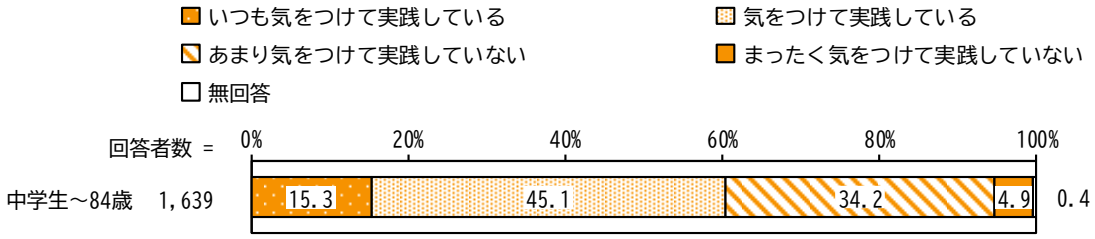
生活習慣病予防行動（問 21）



◆評価指標に基づく結果　（対象：中学生～84 歳）

生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合（「いつも気をつけて実践している」と「気をつけて実践している」を合わせた割合）は 60.5%となっています。生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合について令和４年度調査（参考）と比較すると、減少しています。

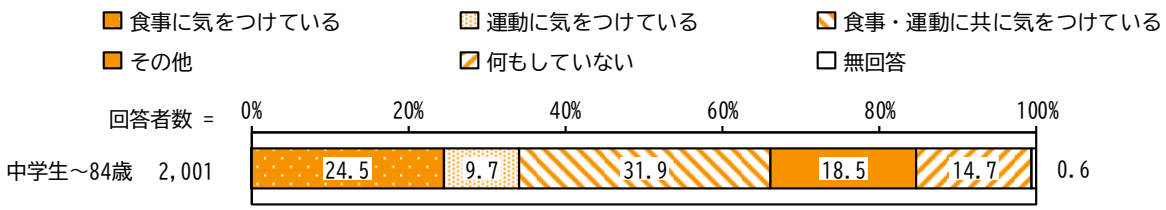
生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合（問 21）



※評価指標では、「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」の件数を足し合わせてから割合を算出（60.5%）しているため、グラフ上の割合を足し上げた数値とは一致しない場合があります。

＜参考　令和４年度評価指標＞（生活習慣病の予防や改善のために取り組んでいることはありますか）

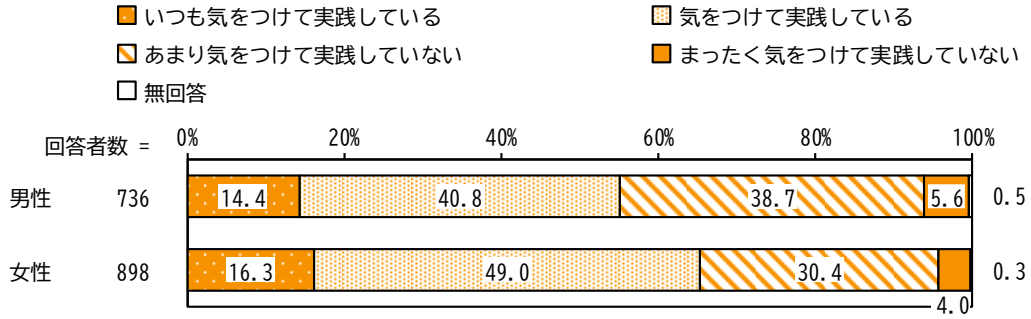
生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合



【性別】

生活習慣病予防行動について性別でみると、男性で「あまり気をつけて実践していない」の割合が高く、女性で「気をつけて実践している」の割合が高くなっています。

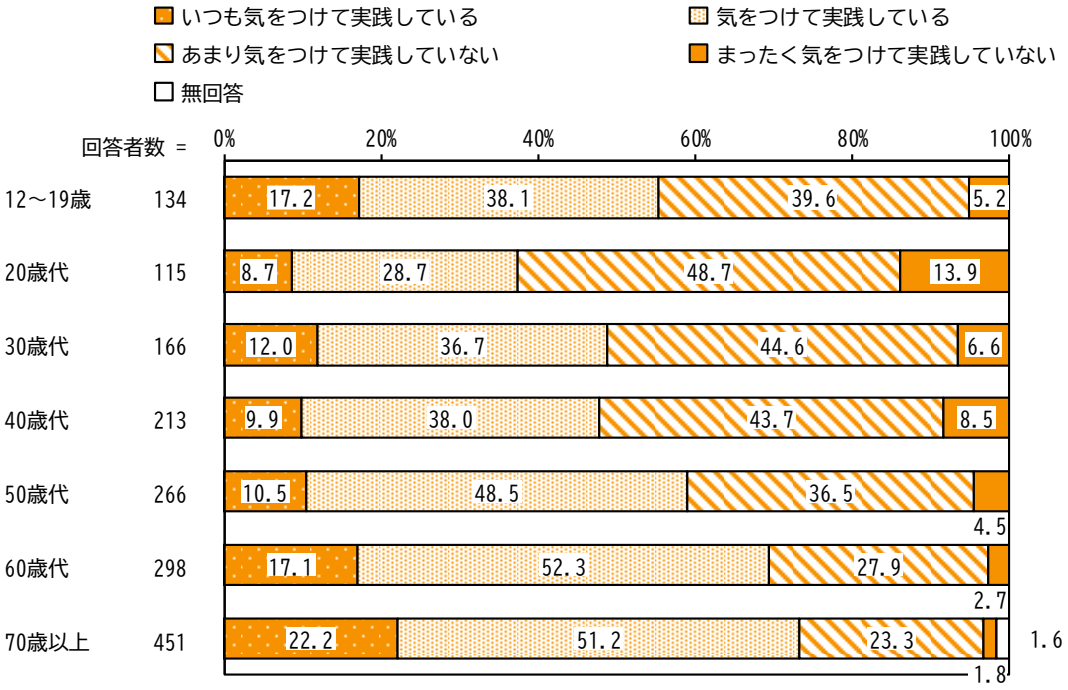
性別　生活習慣病予防行動（問 21）



【年代別】

生活習慣病予防行動について年代別でみると、「いつも気をつけて実践している」と「気をつけて実践している」を合わせた割合は、20 歳代で 37.4%と最も低くなっています。その後は年代が上がるにつれて高まり、50 歳代以上では５割を超えています。

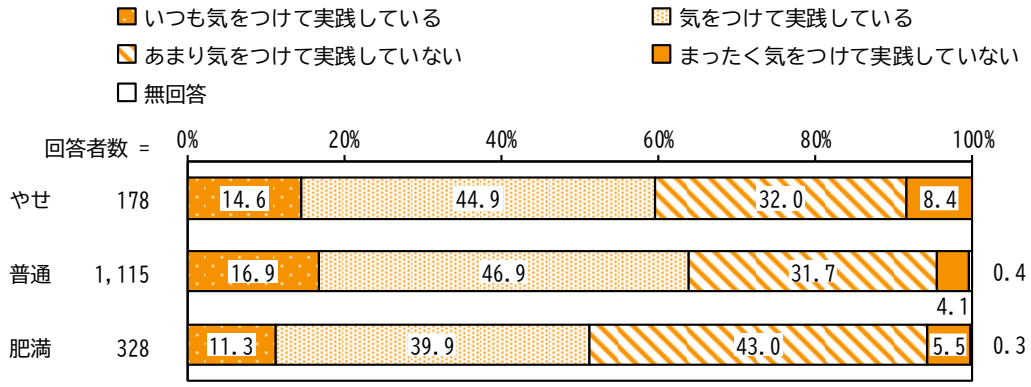
年代別　生活習慣病予防行動（問 21）



【肥満度別】

生活習慣病予防行動について肥満度別でみると、肥満で「あまり気をつけて実践していない」の割合が高く、「気をつけて実践している」の割合が低くなっています。

肥満度別　生活習慣病予防行動（問 21）



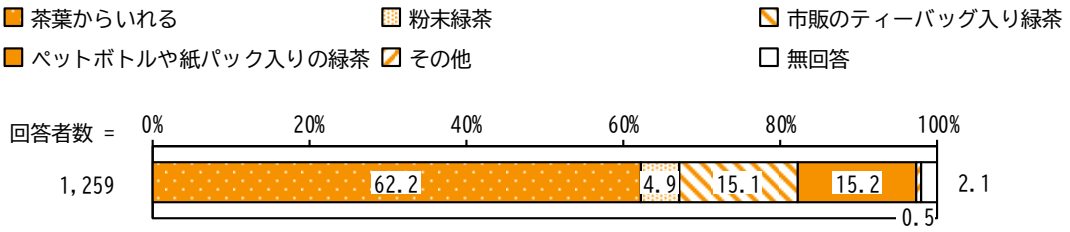
（４）緑茶の飲用方法

問 22 で「ほぼ毎日飲む（週６～７日）」「週４～５日飲む」「週２～３日飲む」と回答した方に伺います。

問 23　どのような方法で緑茶を飲むことが多いですか。（主なもの１つチェック）

「茶葉からいれる」の割合が 62.2%と最も高く、次いで「ペットボトルや紙パック入りの緑茶」の割合が 15.2%、「市販のティーバッグ入り緑茶」の割合が 15.1%となっています。

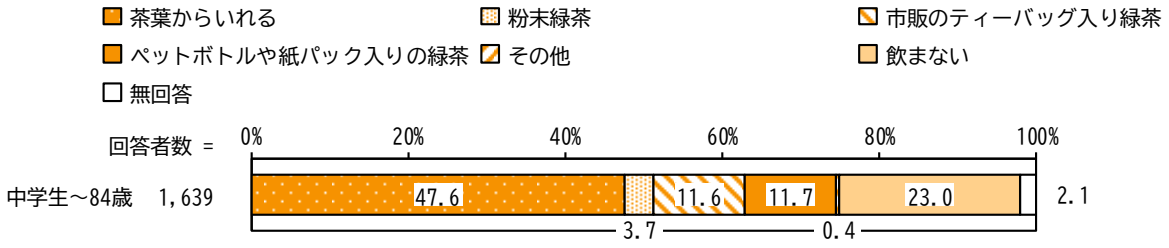
緑茶の飲用方法（問 23）



◆評価指標に基づく結果　（対象：中学生～84 歳）

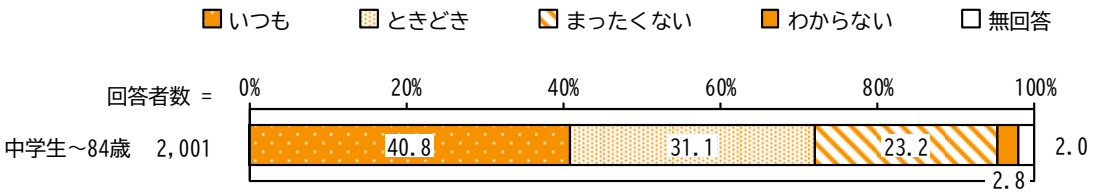
茶葉からいれた緑茶を飲む市民の割合は 47.6%となっています。茶葉からいれた緑茶を飲む市民の割合について令和４年度調査（参考）と比較すると、増加しています。

茶葉からいれた緑茶を飲む市民の割合（問 23）



＜参考　令和４年度評価指標＞　（茶葉からいれた緑茶を飲みますか）

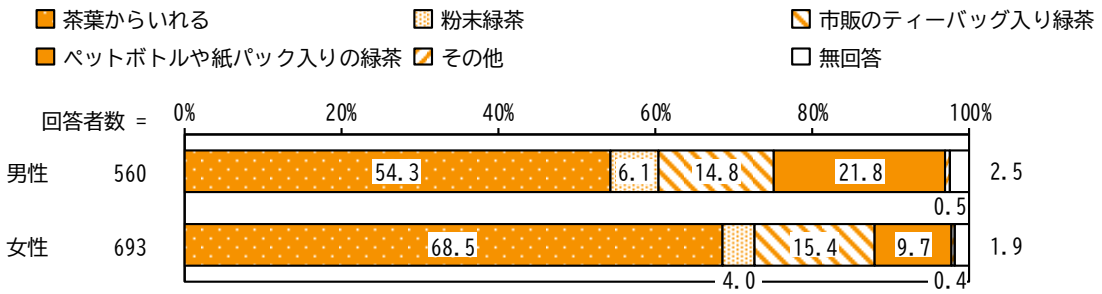
茶葉からいれた緑茶を飲む市民の割合



【性別】

緑茶の飲用方法について性別でみると、男女とも「茶葉からいれる」の割合が最も高く、特に女性で68.5%と高くなっています。一方、男性では「ペットボトルや紙パック入りの緑茶」の割合が女性より高くなっています。

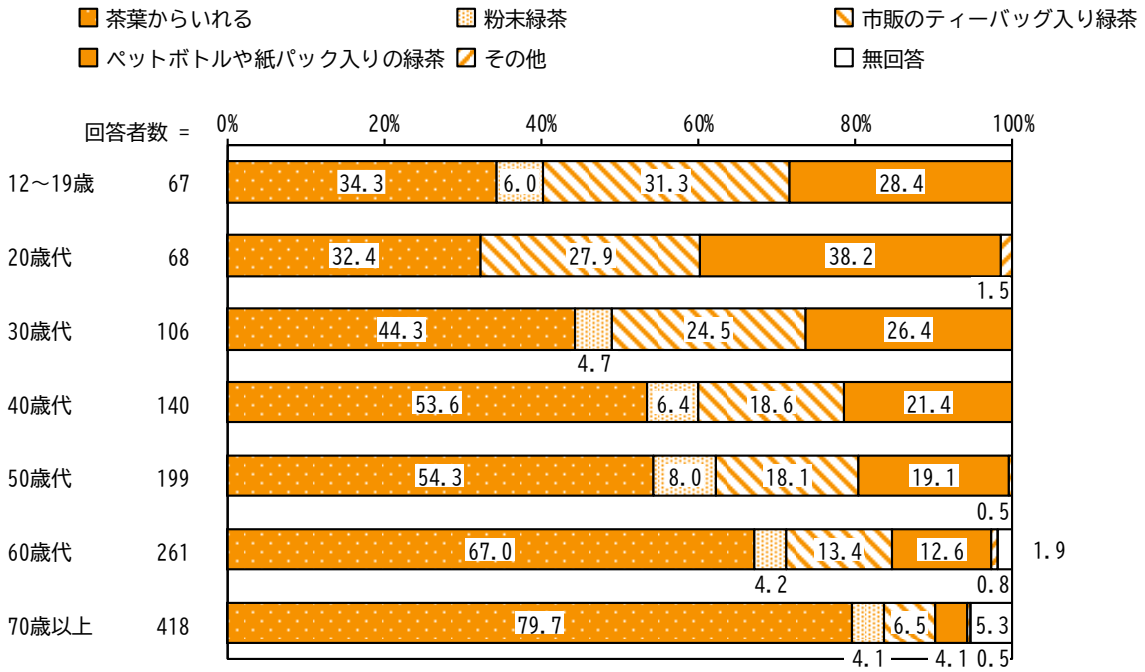
性別　緑茶の飲用方法（問 23）



【年代別】

緑茶の飲用方法について年代別でみると、年代が下がるほど「市販のティーバッグ入り緑茶」の割合が高く、20 歳代から 70 歳以上まで年代が上がるほど「茶葉からいれる」の割合が高く、「ペットボトルや紙パック入りの緑茶」の割合が低くなっています。

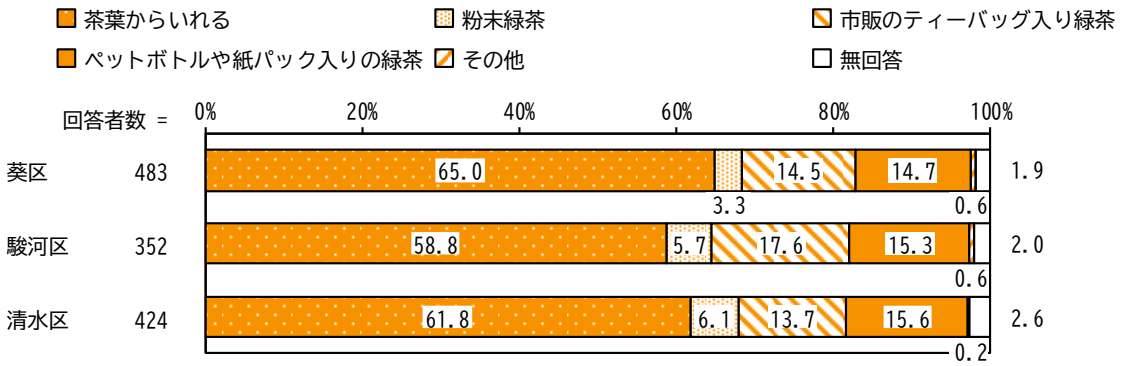
年代別　緑茶の飲用方法（問 23）



【居住地区別】

緑茶の飲用方法について居住地区別でみると、大きな差はみられません。

居住地区別　緑茶の飲用方法（問 23）



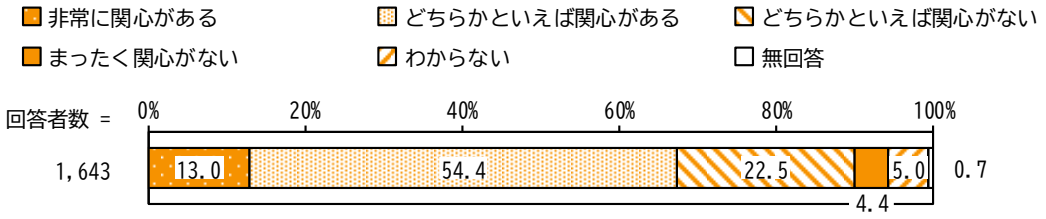
3　食や食育への関心について

（1）食育への関心

問 27　あなたは、「食育」に関心がありますか。（1 つにチェック）

「非常に関心がある」「どちらかといえば関心がある」を合わせた“関心がある”の割合が 67.4%、「どちらかといえば関心がない」「まったく関心がない」を合わせた“関心がない”の割合が 26.9%となっています。

食育への関心（問 27）

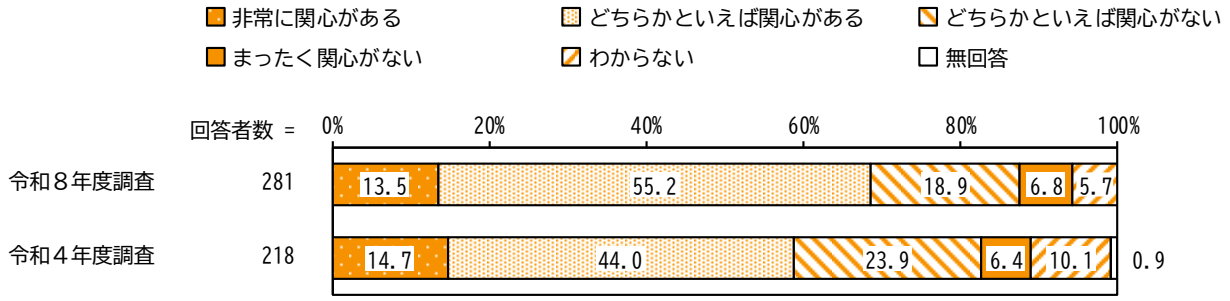


◆評価指標に基づく結果（対象：20～30 歳代）

食育に関心を持つ若い世代の割合（「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合）は 68.7%となっています。

食育に関心を持つ若い世代の割合について令和４年度調査と比較すると、増加しています。

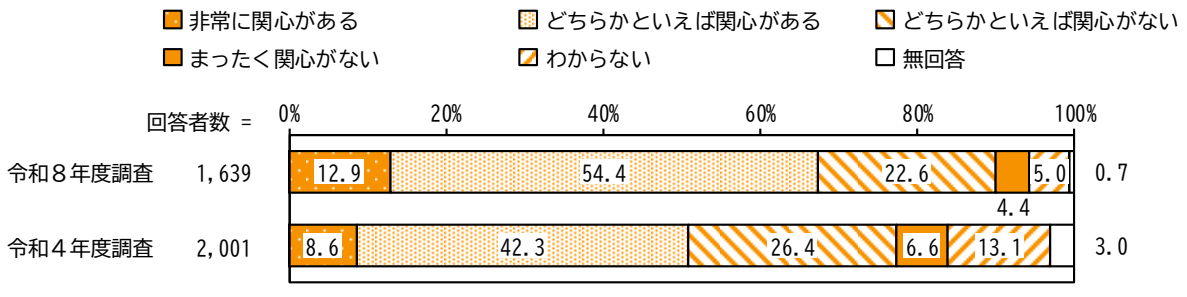
食育に関心を持つ若い世代の割合（問 27）



【経年比較】

食育への関心について令和４年度調査と比較すると、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた”関心がある”の割合が増加しています。

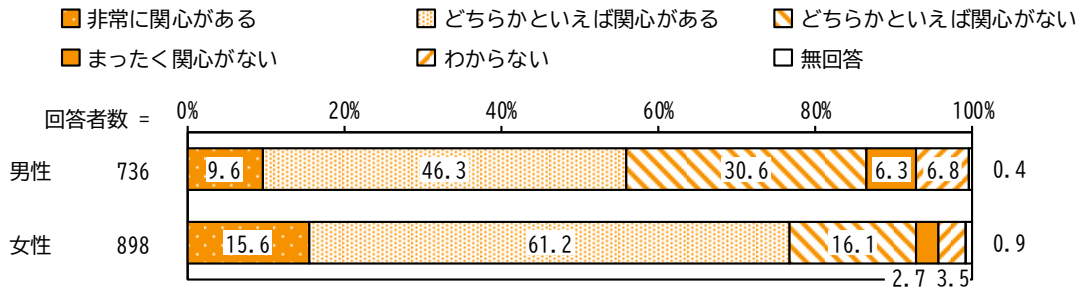
経年比較　食育への関心（問 27）



【性別】

食育への関心について性別でみると、女性で「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた”関心がある”の割合が高くなっています。

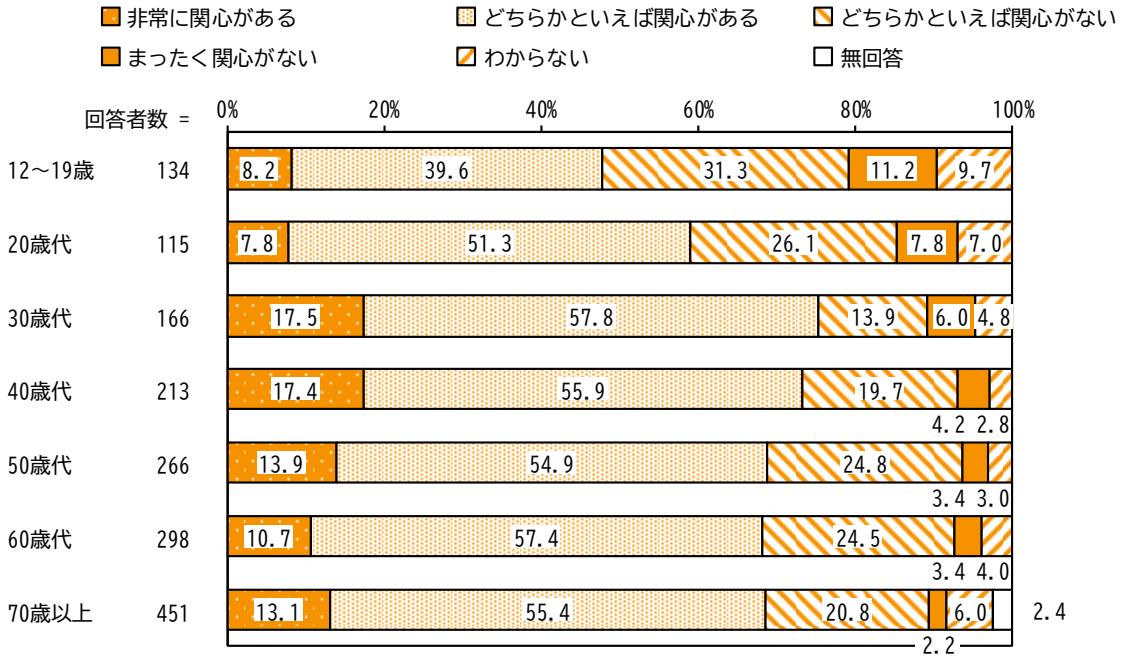
性別　食育への関心（問 27）



【年代別】

食育への関心について年代別でみると、「非常に関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた”関心がある”の割合は、30 歳代・40 歳代で最も高く、12～19 歳・20 歳代では他の年代に比べて低くなっています。

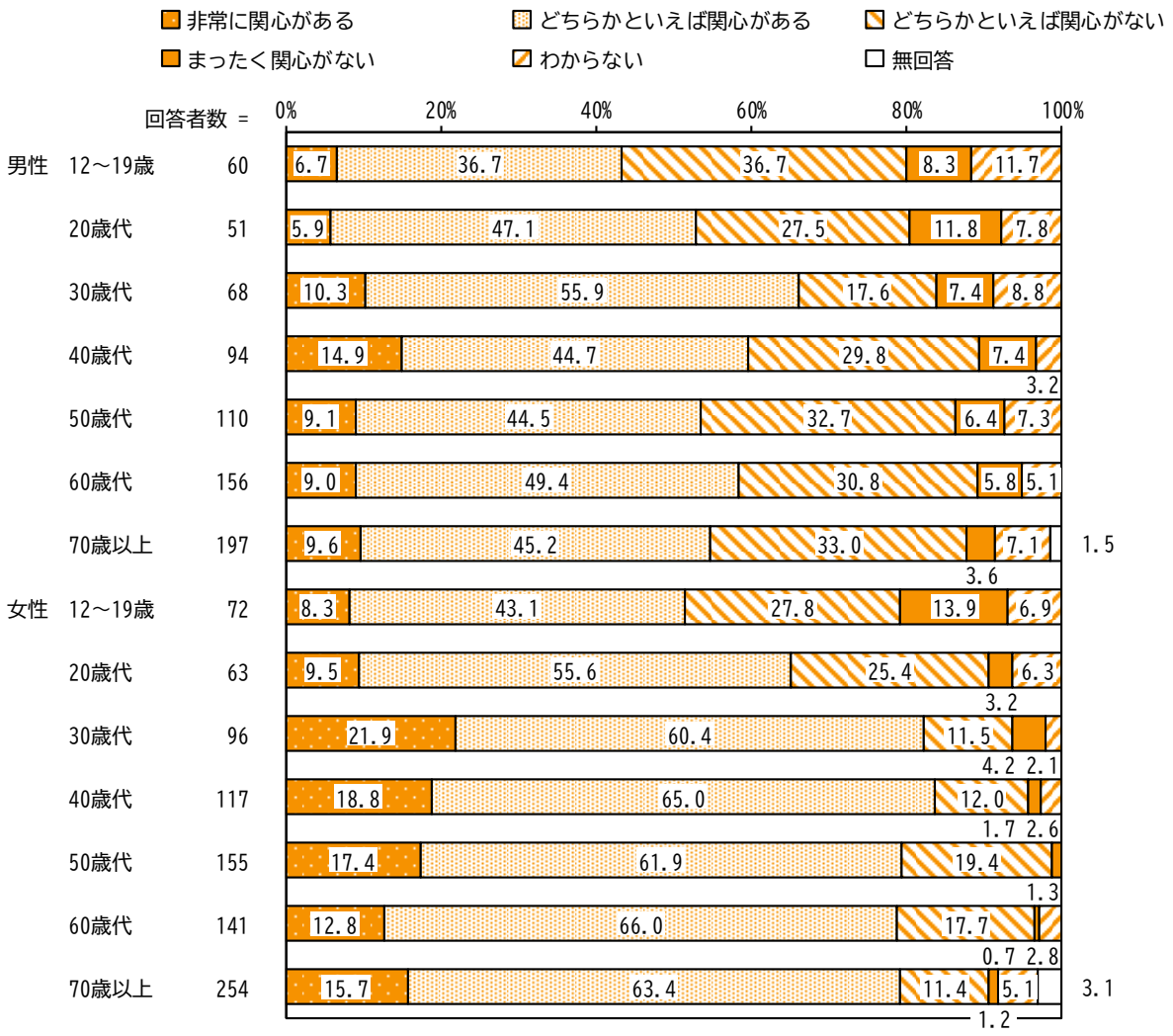
年代別　食育への関心（問 27）



【性年代別】

食育への関心について性年代別でみると、女性の 30 歳代・40 歳代・50 歳代で「非常に関心がある」の割合が高くなっています。男性では、30 歳代で「非常に関心がある」「どちらかといえば関心がある」の割合が他の年代より高いものの、同年代の女性より低くなっています。

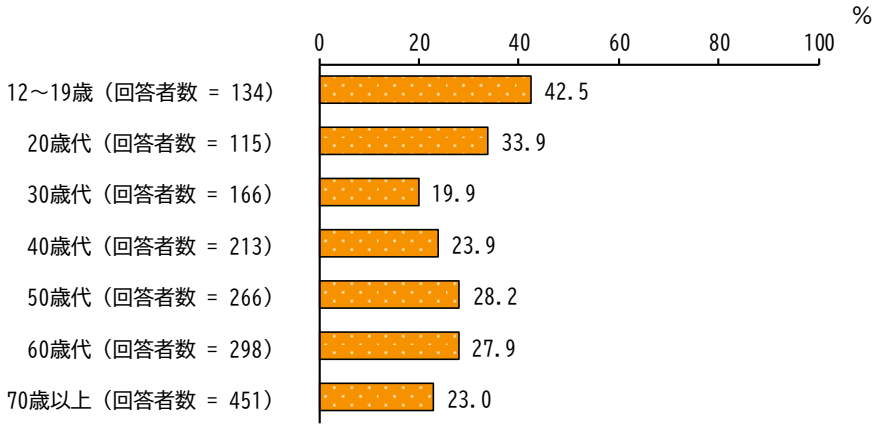
性年代別　食育への関心（問 27）



【関心なし×年代】

食育への関心について「どちらかといえば関心がない」「まったく関心がない」を合わせた”関心がない”の割合を年代別でみると、12～19 歳が 42.5%と最も高くなっています。

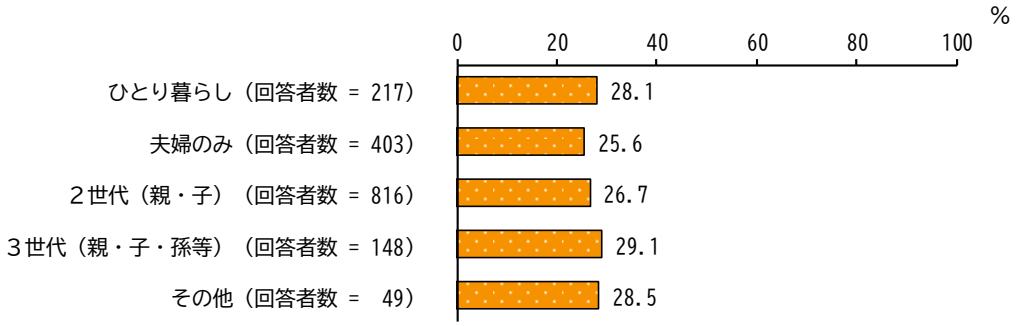
年代別　食育への関心なし（問 27）



【関心なし×世帯構成】

食育への関心について「どちらかといえば関心がない」「まったく関心がない」を合わせた”関心がない”の割合を世帯構成別でみると、大きな差はみられないものの、３世代（親・子・孫等）が 29.1%と最も高くなっています。

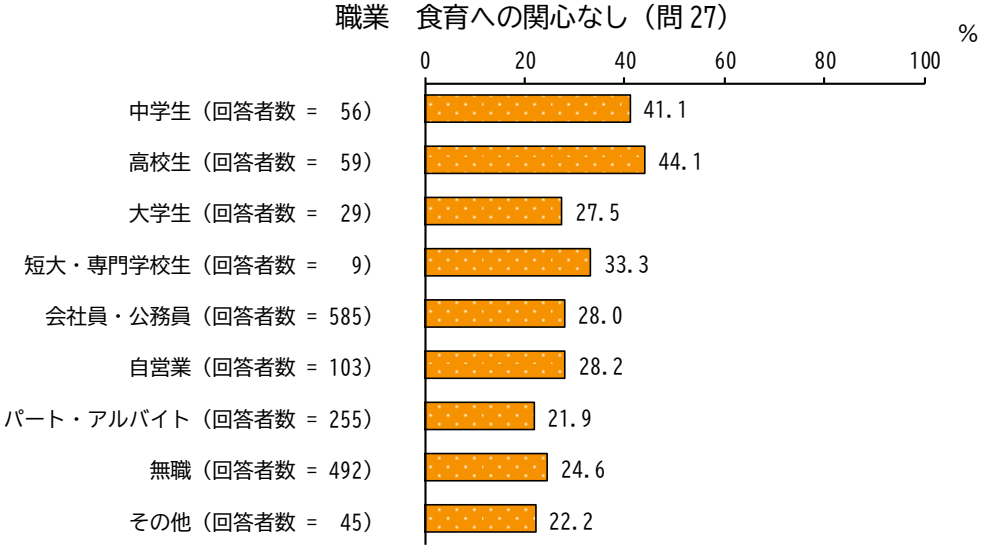
世帯構成　食育への関心なし（問 27）



【関心なし×職業】

食育への関心について「どちらかといえば関心がない」「まったく関心がない」を合わせた”関心がない”の割合を職業別でみると、高校生 44.1%、中学生 41.1%と、中学生・高校生で高くなっています。

職業　食育への関心なし（問 27）



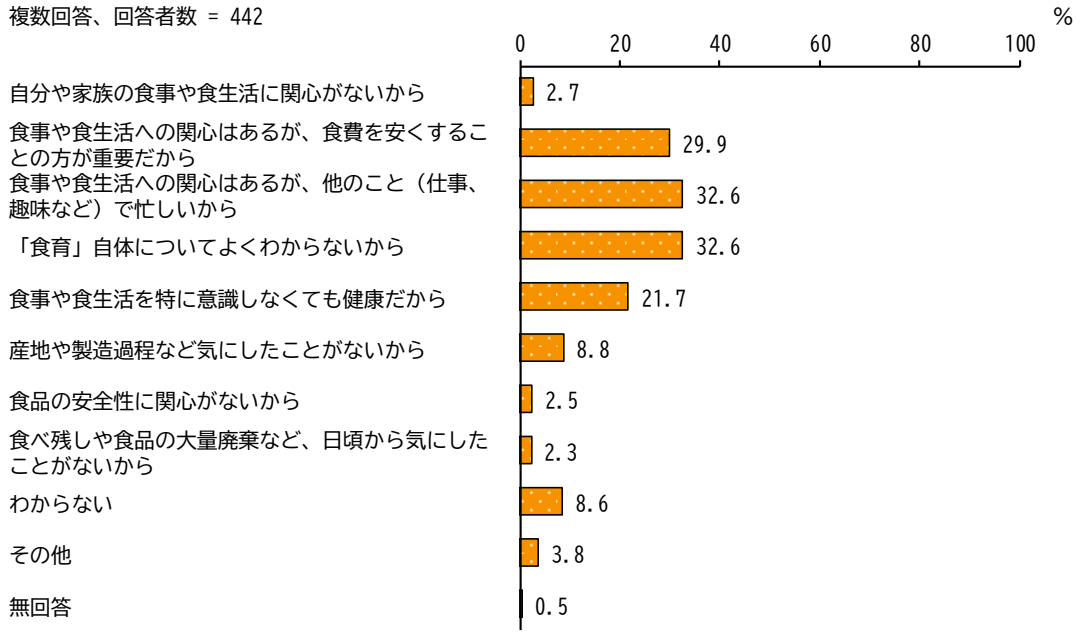
（２）食育への関心がない理由

問 27 で、食育への関心が「どちらかといえば関心がない」「まったく関心がない」を選んだ方に伺います。

問 28　あなたが「食育」に関心がない理由はなんですか。（３つまでチェック）

「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味など）で忙しいから」「「食育」自体についてよくわからないから」の割合が 32.6%と最も高く、次いで「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」の割合が 29.9%、「食事や食生活を特に意識しなくても健康だから」の割合が 21.7%となっています。

食育への関心がない理由（問 28）



【年代別】

食育に関心がない理由について年代別でみると、年代によって上位の理由が異なります。12～19 歳・70 歳以上では「「食育」自体についてよくわからないから」が最も高くなっています。20 歳代から 50 歳代では「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味など）で忙しいから」が上位となっています。また、30 歳代・50 歳代・60 歳代では「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」も高くなっています。

年代別　食育への関心がない理由（問 28）

単位：％

区分	回答者数（件）	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味など）で忙しいから	「食育」自体についてよくわからないから	食事や食生活を特に意識しなくても健康だから	産地や製造過程など気にしたことがないから	食品の安全性に関心がないから	食べ残しや食品の大量廃棄など、日頃から気にしたことがないから	わからない	その他	無回答
全　体	442	2.7	29.9	32.6	32.6	21.7	8.8	2.5	2.3	8.6	3.8	0.5
12～19歳	57	0.0	8.8	28.1	43.9	33.3	10.5	1.8	3.5	10.5	1.8	0.0
20歳代	39	0.0	25.6	41.0	28.2	23.1	2.6	0.0	0.0	10.3	2.6	0.0
30歳代	33	0.0	48.5	54.5	9.1	9.1	6.1	9.1	6.1	15.2	3.0	0.0
40歳代	51	0.0	25.5	35.3	31.4	21.6	5.9	3.9	2.0	7.8	3.9	0.0
50歳代	75	0.0	30.7	41.3	24.0	14.7	9.3	1.3	2.7	8.0	4.0	0.0
60歳代	83	2.4	42.2	32.5	38.6	14.5	8.4	3.6	1.2	7.2	6.0	0.0
70歳以上	104	9.6	28.8	17.3	37.5	29.8	12.5	1.0	1.9	6.7	3.8	1.9

【肥満度別】

食育に関心がない理由について肥満度別でみると、いずれの区分でも「食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味など）で忙しいから」「「食育」自体についてよくわからないから」が上位となっています。普通では「食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから」も同程度に高くなっています。

肥満度別　食育への関心がない理由（問 28）

単位：％

区分	回答者数（件）	自分や家族の食事や食生活に関心がないから	食事や食生活への関心はあるが、食費を安くすることの方が重要だから	食事や食生活への関心はあるが、他のこと（仕事、趣味など）で忙しいから	「食育」自体についてよくわからないから	食事や食生活を特に意識しなくても健康だから	産地や製造過程など気にしたことがないから	食品の安全性に関心がないから	食べ残しや食品の大量廃棄など、日頃から気にしたことがないから	わからない	その他	無回答
全　体	442	2.7	29.9	32.6	32.6	21.7	8.8	2.5	2.3	8.6	3.8	0.5
やせ	58	3.4	20.7	29.3	32.8	22.4	8.6	1.7	0.0	10.3	5.2	0.0
普通	278	3.2	32.0	33.5	32.0	22.7	6.8	1.8	2.9	9.0	4.3	0.4
肥満	103	1.0	29.1	33.0	33.0	19.4	14.6	4.9	1.9	6.8	1.9	1.0

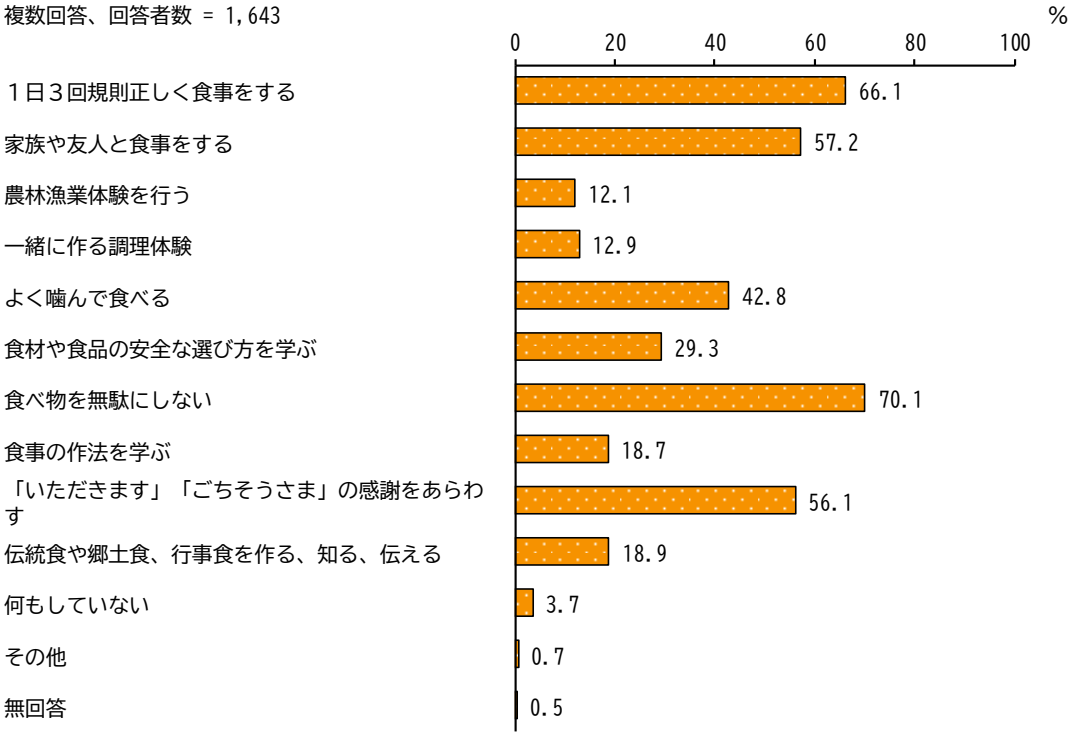
（３）食育の実践内容

問 29　次のようなことも「食育」ですが、あなたが行っていることはありますか。
（いくつでもチェック）

※この設問でお聞きする「農林漁業体験」は、家庭菜園や学校での栽培体験、釣りなどの身近な体験を含みます。

「食べ物を無駄にしない」の割合が 70.1%と最も高く、次いで「１日３回規則正しく食事をする」の割合が 66.1%、「家族や友人と食事をする」の割合が 57.2%となっています。

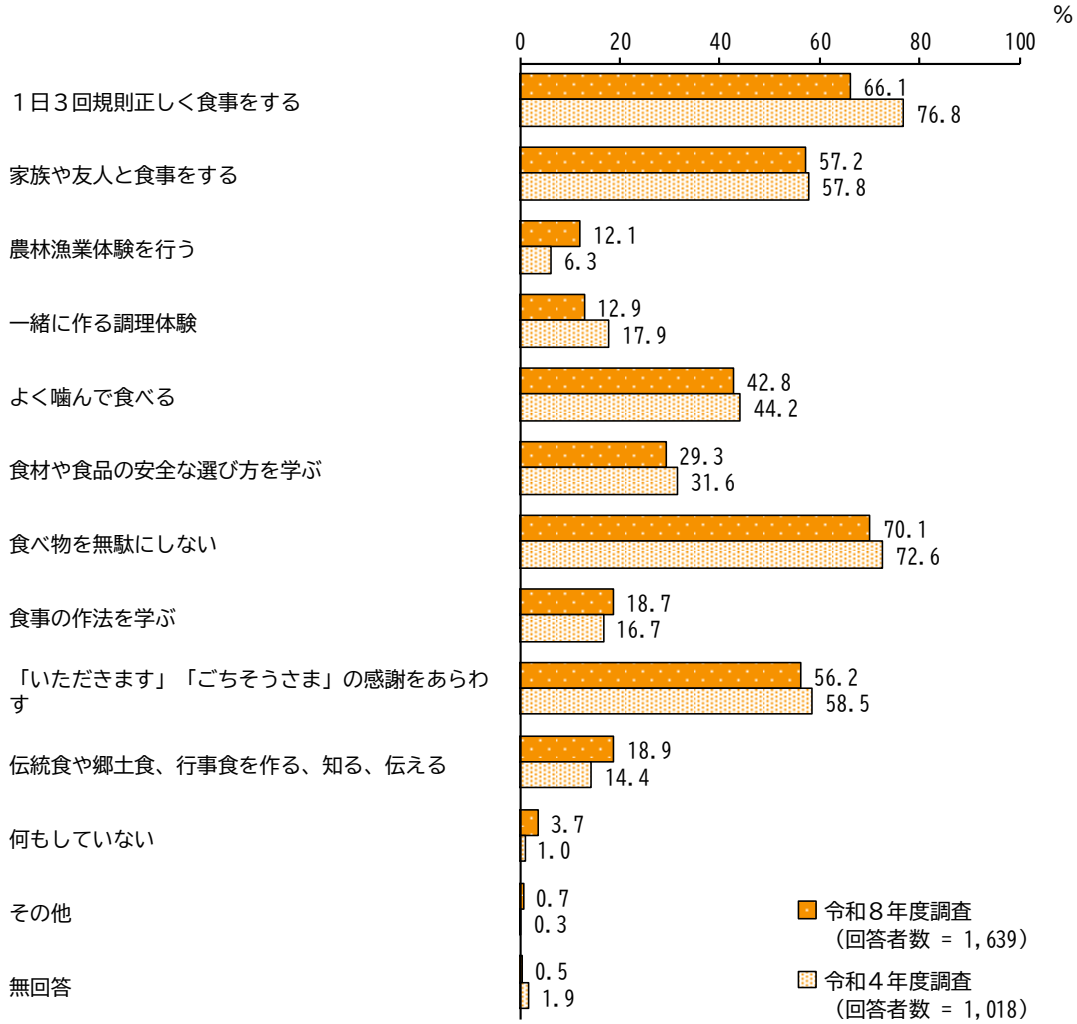
食育の実践内容（問 29）



【経年比較】

食育の実践内容について令和４年度調査と比較すると、「農林漁業体験を行う」の割合が増加しています。一方、「１日３回規則正しく食事をする」「一緒に作る調理体験」の割合が減少しています。

経年比較　食育の実践内容（問 29）



【性別】

食育の実践内容について性別でみると、女性は多くの項目で実践の割合が高くなっています。男性でも「食べ物を無駄にしない」「１日３回規則正しく食事をする」は比較的高いものの、女性より低くなっています。一方、「農林漁業体験を行う」については、男女で大きな差はみられません。

性別　食育の実践内容（問 29）

単位：％

区分	回答者数（件）	１日３回規則正しく食事をする	家族や友人と食事をする	農林漁業体験を行う	一緒に作る調理体験	よく噛んで食べる	食材や食品の安全な選び方を学ぶ	食べ物を無駄にしない	食事の作法を学ぶ	「いただきます」「ごちそうさま」の感謝をあらわす	伝統食や郷土食、行事食を作る、知る、伝える	何もしていない	その他	無回答
全　体	1,643	66.1	57.2	12.1	12.9	42.8	29.3	70.1	18.7	56.1	18.9	3.7	0.7	0.5
男性	736	62.5	47.3	12.6	8.0	35.5	21.1	66.8	13.6	45.8	10.2	6.3	0.1	0.5
女性	898	69.0	65.3	11.6	16.7	49.0	36.2	72.7	23.1	64.7	26.1	1.7	1.1	0.6

【年代別】

食育の実践内容について年代別でみると、20 歳代から 60 歳代では「食べ物を無駄にしない」が最も高くなっています。一方、12～19 歳では「家族や友人と食事をする」、70 歳以上では「１日３回規則正しく食事をする」が最も高くなっています。

年代別　食育の実践内容（問 29）

単位：％

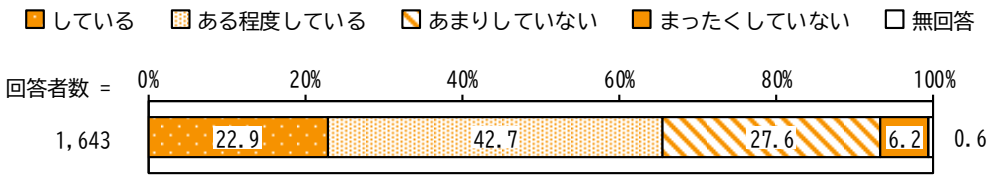
区分	回答者数（件）	１日３回規則正しく食事をする	家族や友人と食事をする	農林漁業体験を行う	一緒に作る調理体験	よく噛んで食べる	食材や食品の安全な選び方を学ぶ	食べ物を無駄にしない	食事の作法を学ぶ	「いただきます」「ごちそうさま」の感謝をあらわす	伝統食や郷土食、行事食を作る、知る、伝える	何もしていない	その他	無回答
全　体	1,643	66.1	57.2	12.1	12.9	42.8	29.3	70.1	18.7	56.1	18.9	3.7	0.7	0.5
12～19歳	134	72.4	74.6	12.7	19.4	44.0	23.9	55.2	18.7	61.9	9.7	3.7	1.5	0.0
20歳代	115	40.0	47.0	3.5	7.0	30.4	7.0	59.1	13.0	52.2	7.0	8.7	0.0	0.0
30歳代	166	57.8	59.6	13.9	22.9	40.4	20.5	63.3	27.7	62.0	12.7	5.4	0.0	0.0
40歳代	213	56.8	61.5	13.6	22.1	35.7	27.7	72.3	24.9	61.0	20.7	3.8	0.5	0.0
50歳代	266	55.6	54.1	11.7	13.5	33.8	28.9	73.3	23.7	48.5	20.3	4.1	0.4	0.0
60歳代	298	70.1	58.1	7.4	7.0	43.6	38.9	74.8	13.4	52.7	17.1	2.7	0.7	0.3
70歳以上	451	81.8	52.8	16.2	8.0	54.5	34.6	73.8	14.6	57.6	26.4	2.2	1.1	1.8

（４）地元産品の購入意識

問 30　あなたは、地元（静岡市）で生産されたものを日頃から購入するようにしていますか。（１つにチェック）

「している」「ある程度している」を合わせた“購入している”の割合が 65.6%、「あまりしていない」「まったくしていない」を合わせた“購入していない”の割合が 33.8%となっています。

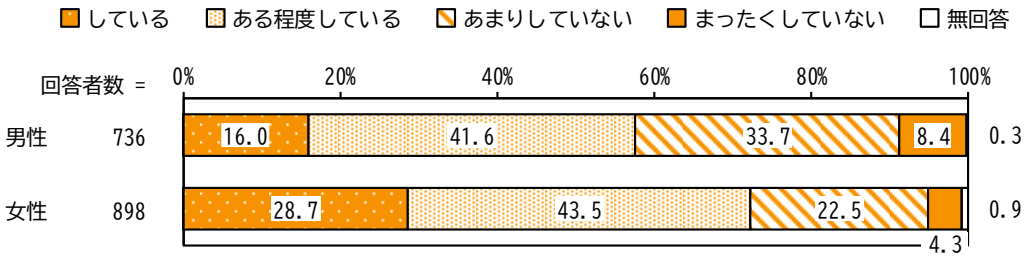
地元産品の購入意識（問 30）



【性別】

地元産品の購入意識について性別でみると、男性で“購入していない”の割合が高くなっています。

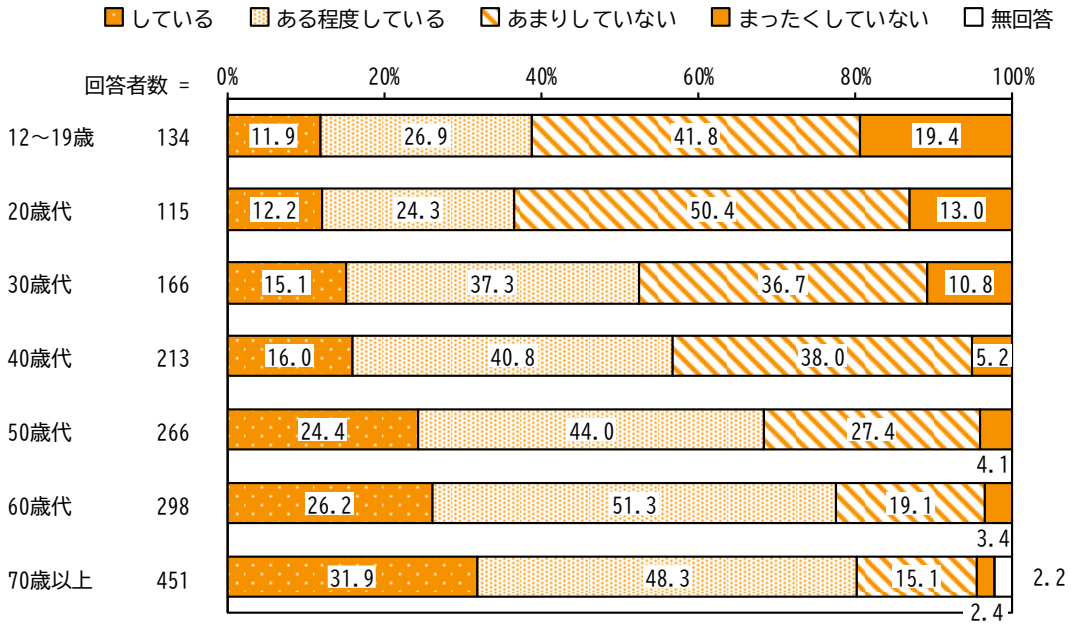
性別　地元産品の購入意識（問 30）



【年代別】

地元産品の購入意識について年代別でみると、20 歳代から 70 歳以上まで年代が上がるほど“購入している”の割合が高くなっています。

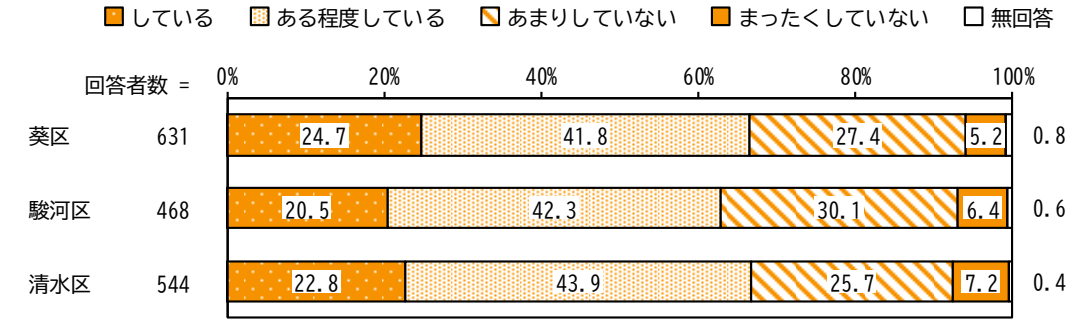
年代別　地元産品の購入意識（問 30）



【居住地区別】

地元産品の購入意識について居住地区別でみると、いずれの地区でも“購入している”の割合が６割を超えています。

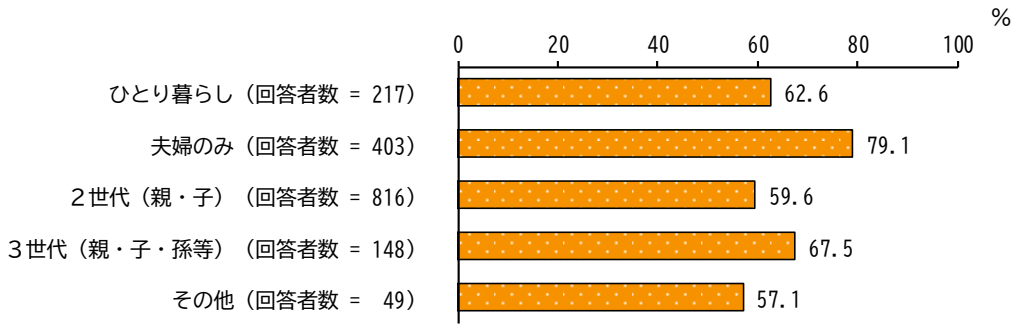
居住地区別　地元産品の購入意識（問 30）



【購入している×世帯構成】

「している」「ある程度している」を合わせた“購入している”の割合を世帯構成別でみると、夫婦のみが 79.1%と最も高くなっています。

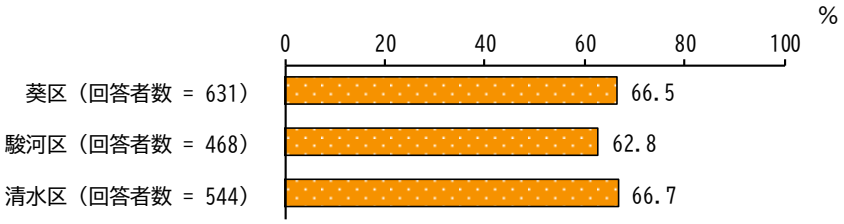
世帯構成別　地元産品を購入している（問 30）



【購入している×居住地区】

「している」「ある程度している」を合わせた“購入している”の割合を居住地区別でみると、大きな差はみられません。

居住地区別　地元産品を購入している（問 30）

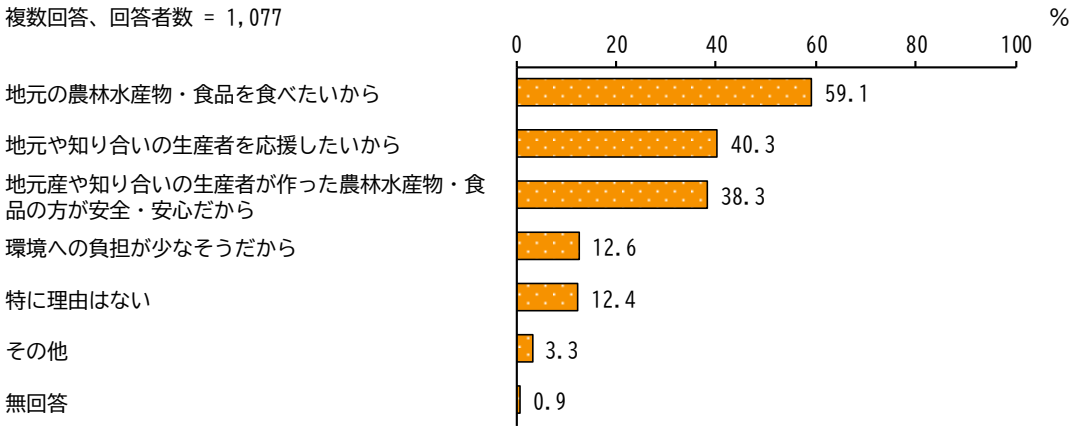


（５）地元産品購入理由

問 30 で「している」「ある程度している」を選んだ方に伺います。

問 31　あなたが、地元（静岡市）で生産されたものを日頃から購入するようになったきっかけはなんですか。（いくつでもチェック）

「地元の農林水産物・食品を食べたいから」の割合が 59.1%と最も高く、次いで「地元や知り合いの生産者を応援したいから」の割合が 40.3%、「地元産や知り合いの生産者が作った農林水産物・食品の方が安全・安心だから」の割合が 38.3%となっています。

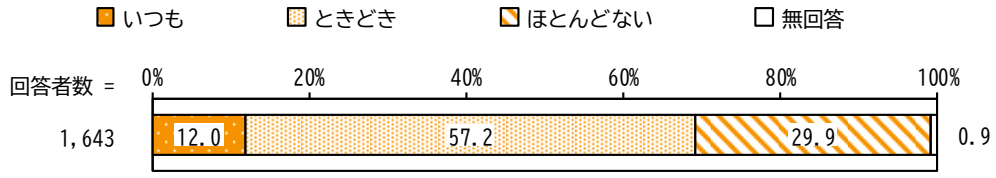


（６）「食」に関する情報収集の行動

問 33　あなたは「食」に関する情報を得るために行動していますか。（１つにチェック）

「いつも」の割合が 12.0%、「ときどき」の割合が 57.2%、「ほとんどない」の割合が 29.9%となっています。

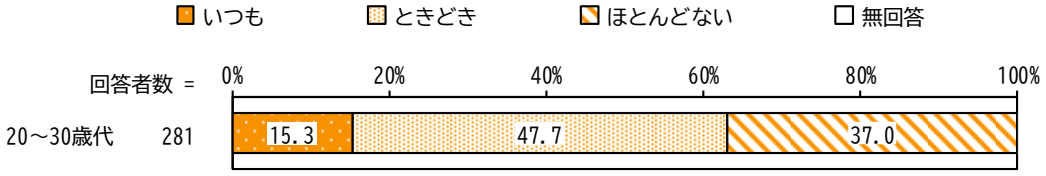
「食」に関する情報収集の行動（問 33）



◆評価指標に基づく結果　（対象：20～30 歳代）

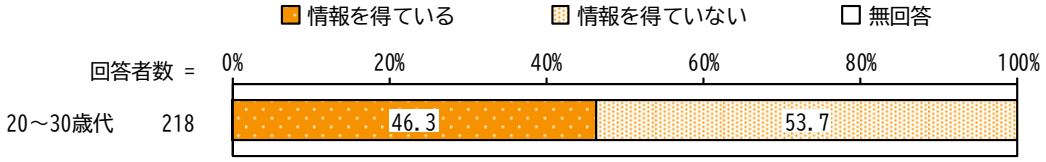
食に関する情報を得るために行動をする若い世代の割合（「いつも」と「ときどき」を合わせた割合）は 63.0%となっています。食に関する情報を得るために行動をする若い世代の割合について令和４年度調査（参考）と比較すると、増加しています。

食に関する情報を得るために行動をする若い世代の割合（問 33）



＜参考　令和４年度評価指標＞

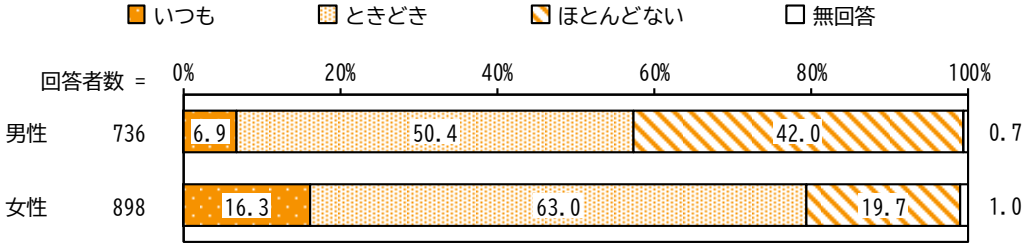
食に関する情報を得るために行動をする若い世代の割合



【性別】

「食」に関する情報収集の行動について性別でみると、男性で「ほとんどない」の割合が高く、女性で「いつも」「ときどき」の割合が高くなっています。

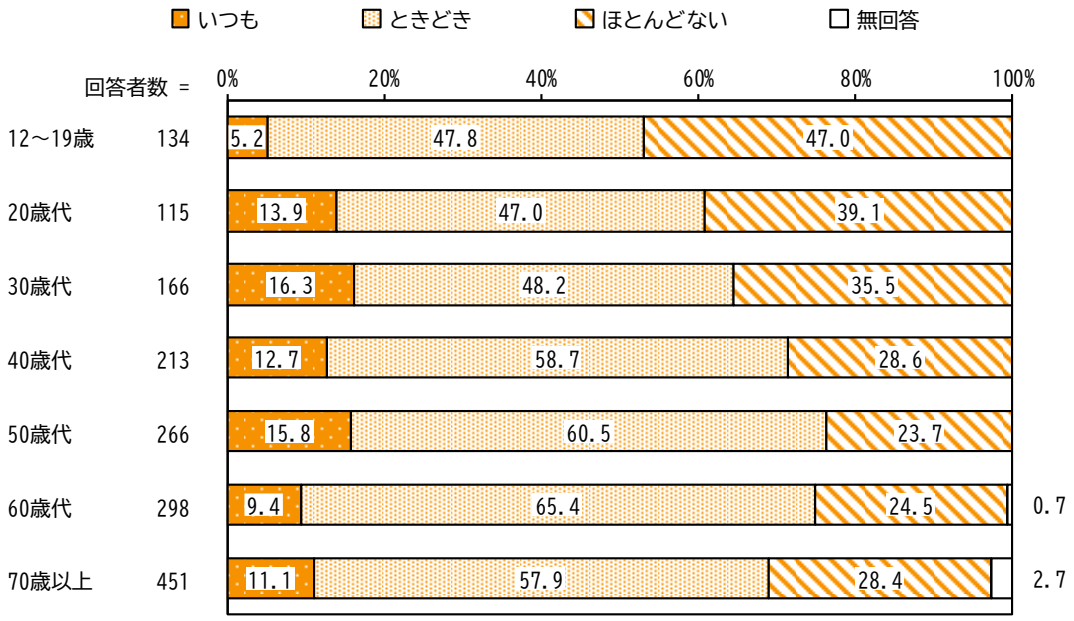
性別　「食」に関する情報収集の行動（問 33）



【年代別】

「食」に関する情報収集の行動について年代別でみると、「いつも」と「ときどき」を合わせた割合は、12～19 歳から 50 歳代まで年代が上がるにつれて高くなり、50 歳代で最も高くなっています。60 歳代・70 歳以上では低くなっています。

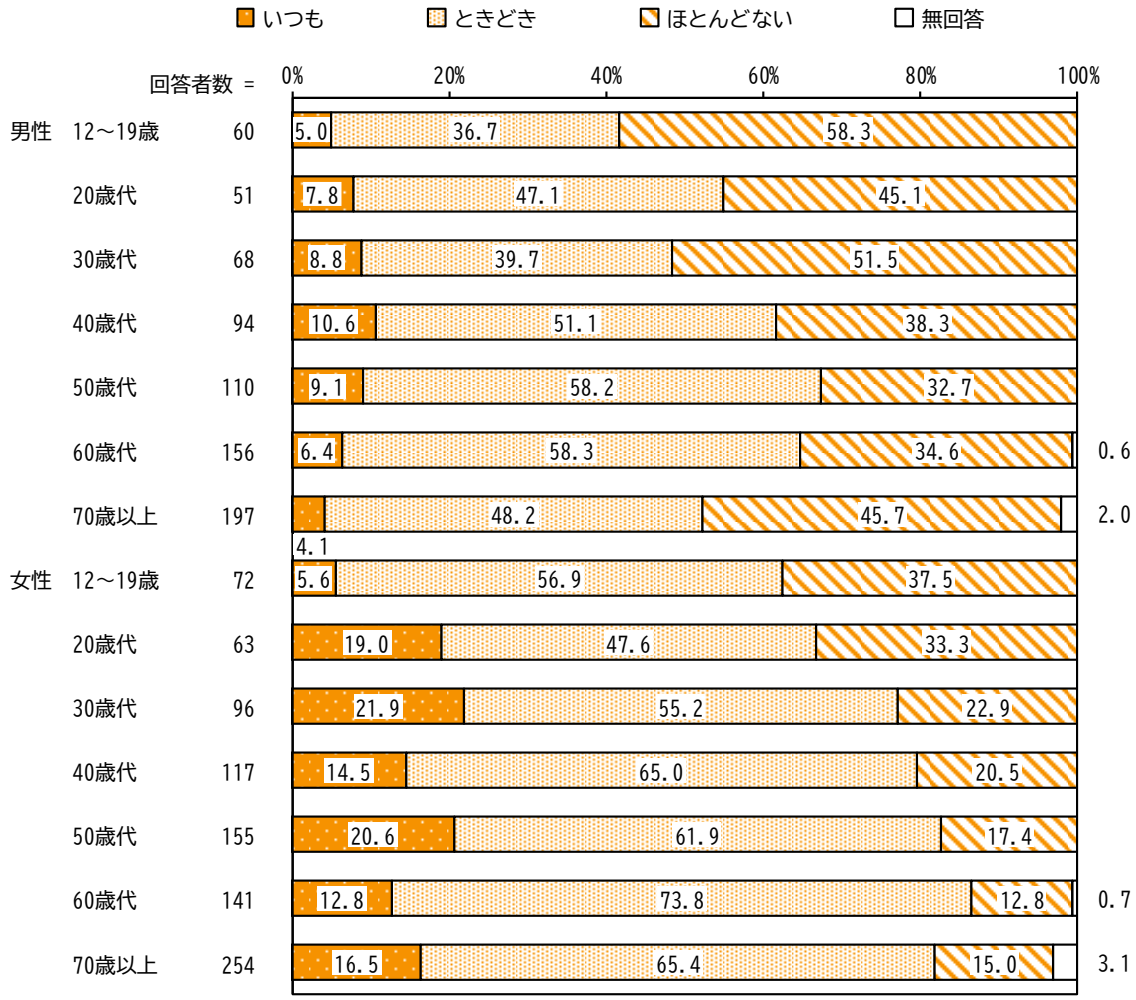
年代別　「食」に関する情報収集の行動（問 33）



【性年代別】

「食」に関する情報収集の行動について性年代別でみると、「いつも」の割合はすべての年代で女性が男性より高くなっています。

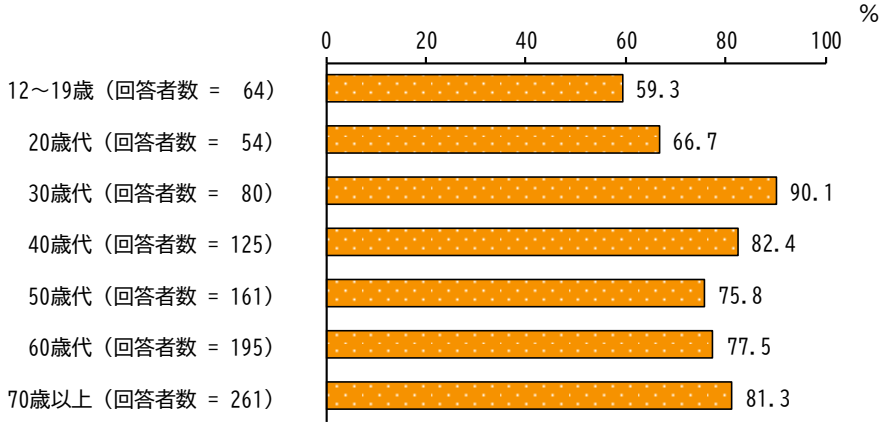
性年代別　「食」に関する情報収集の行動（問 33）



【問 27 食育に関心がある×問 33「食」に関する情報収集の行動なし×年代】

問 33 で「食」に関する情報収集の行動について「ほとんどない」と回答した人のうち、問 27 の食育に関心があると回答した割合を年代別でみると、30 歳代が 90.1%と最も高くなっています。

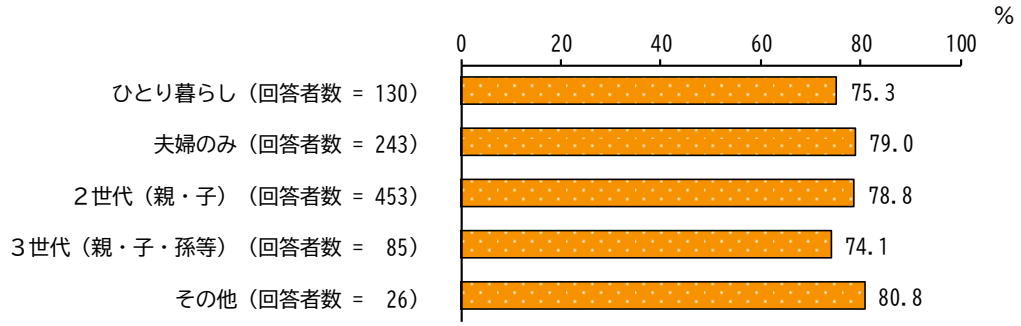
年代別　食育への関心あり×「食」に関する情報収集の行動なし（問 33）



【問 27 食育に関心がある×問 33「食」に関する情報収集の行動なし×世帯構成別】

問 33 で「食」に関する情報収集の行動について「ほとんどない」と回答した人のうち、問 27 の食育に関心があると回答した割合を世帯構成別にみると、大きな差はみられません。

世帯構成別　食育への関心あり×「食」に関する情報収集の行動なし（問 33）



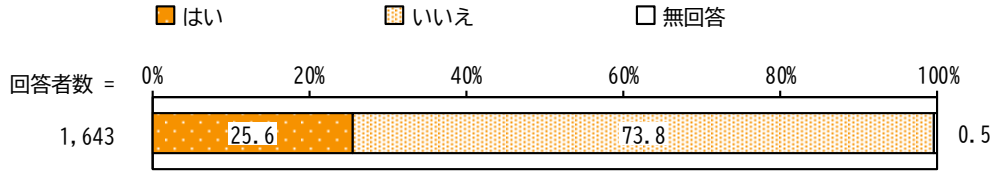
４　農林漁業体験について

（１）農林漁業体験の有無

問 35　あなたは、これまで農林漁業体験に参加したことがありますか。（１つにチェック）

農林漁業体験をしたことがある市民の割合は 25.6%、したことがない市民の割合は 73.8%となっています。

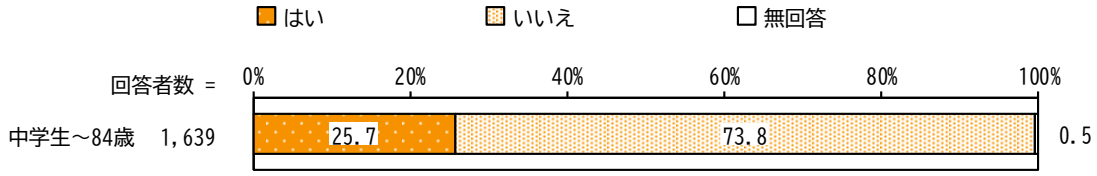
農林漁業体験の有無（問 35）



◆評価指標に基づく結果（対象：中学生～84 歳）

農林漁業体験をしたことがある市民の割合は 25.7%となっています。

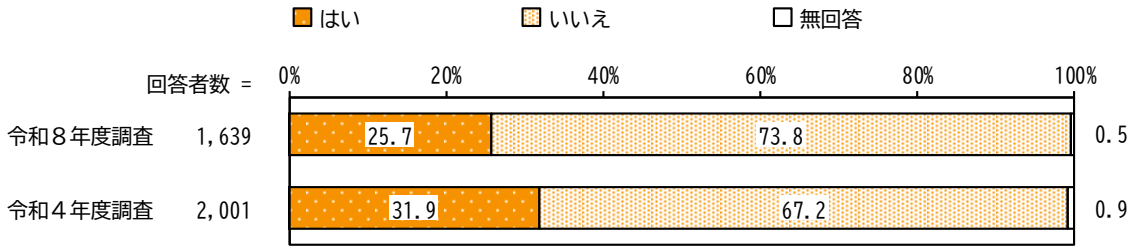
農林漁業体験をしたことがある市民の割合　農林漁業体験の有無（問 35）



【経年比較】

農林漁業体験の有無について令和４年度調査と比較すると、農林漁業体験をしたことがある割合が減少しています。

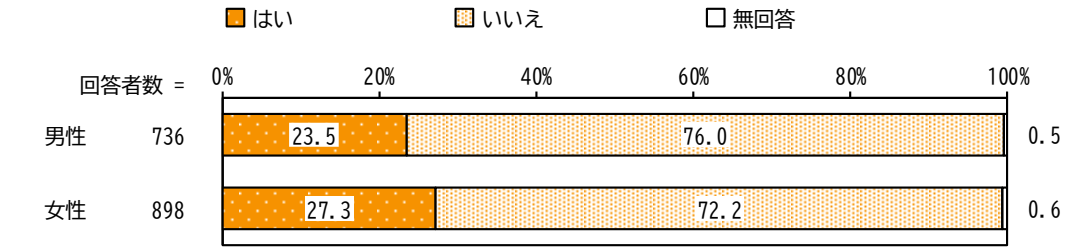
経年比較　農林漁業体験の有無（問 35）



【性別】

農林漁業体験の有無について性別でみると、男女ともに農林漁業体験を「したことがない」割合が７割を超えています。そのなかで、女性は「したことがある」割合が男性よりやや高くなっています。

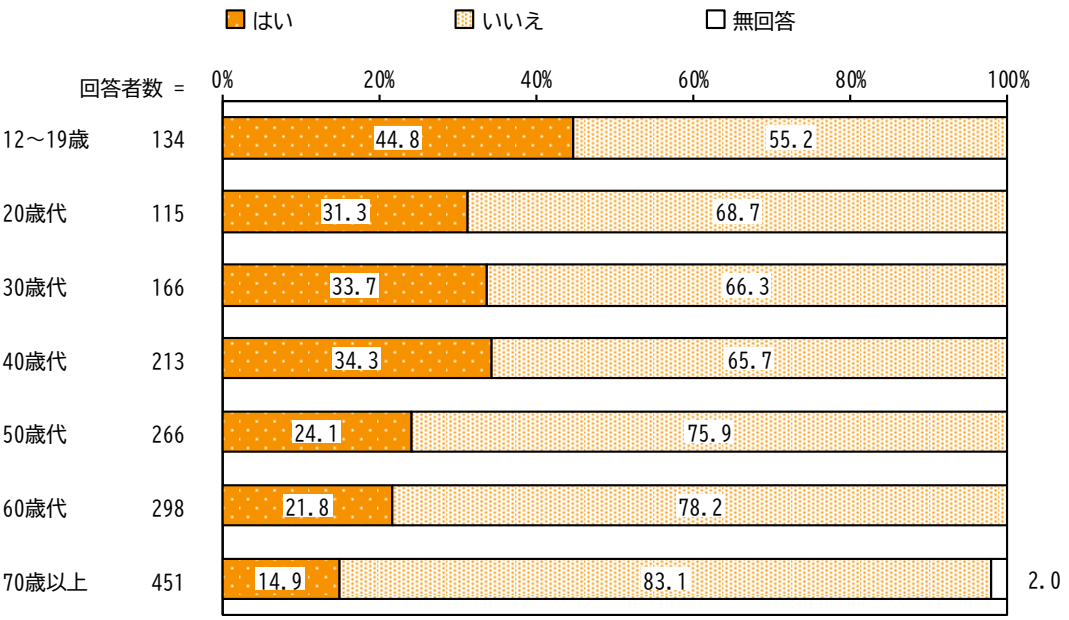
性別　農林漁業体験の有無（問 35）



【年代別】

農林漁業体験の有無について年代別でみると、農林漁業体験を「したことがある」割合は 12～19 歳で 44.8%と最も高く、70 歳以上で 14.9%と最も低くなっています。

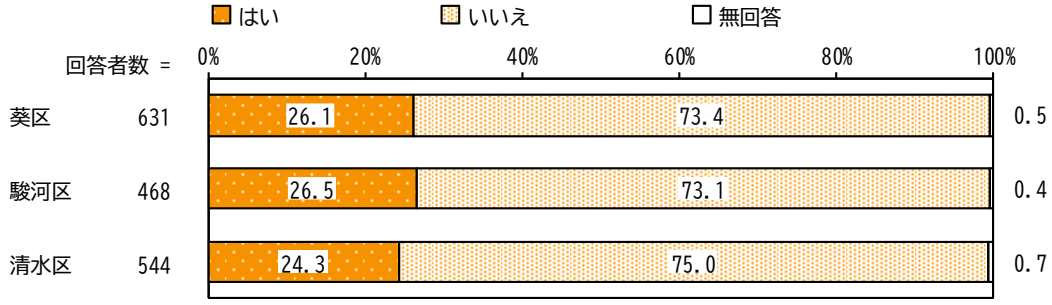
年代別　農林漁業体験の有無（問 35）



【居住地区別】

農林漁業体験の有無について居住地区別でみると、大きな差はみられません。

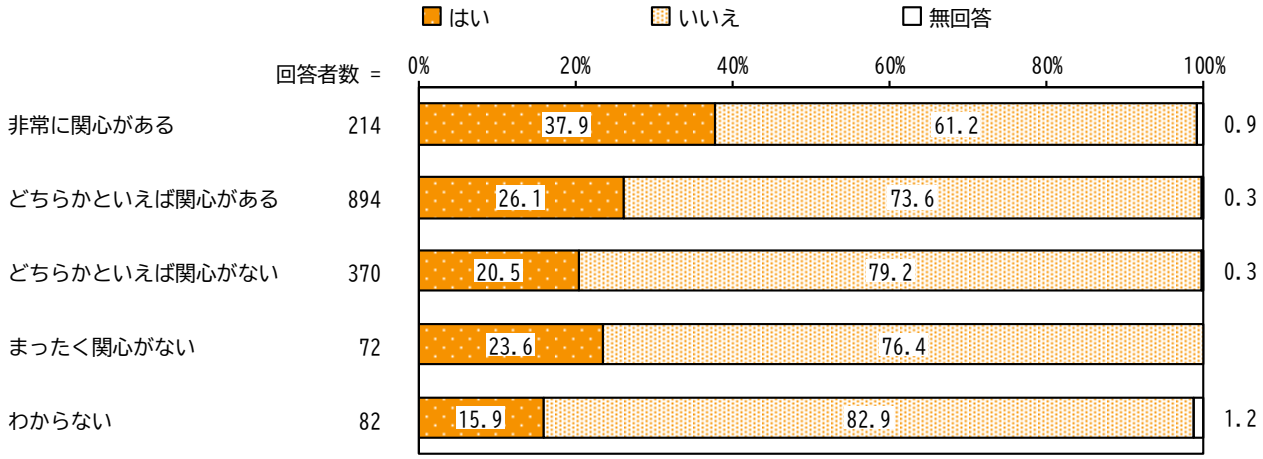
居住地区別　農林漁業体験の有無（問 35）



【食育の関心度別】

農林漁業体験の有無について食育の関心度別でみると、関心がある人ほど農林漁業体験をしたことがある割合が高くなっています。

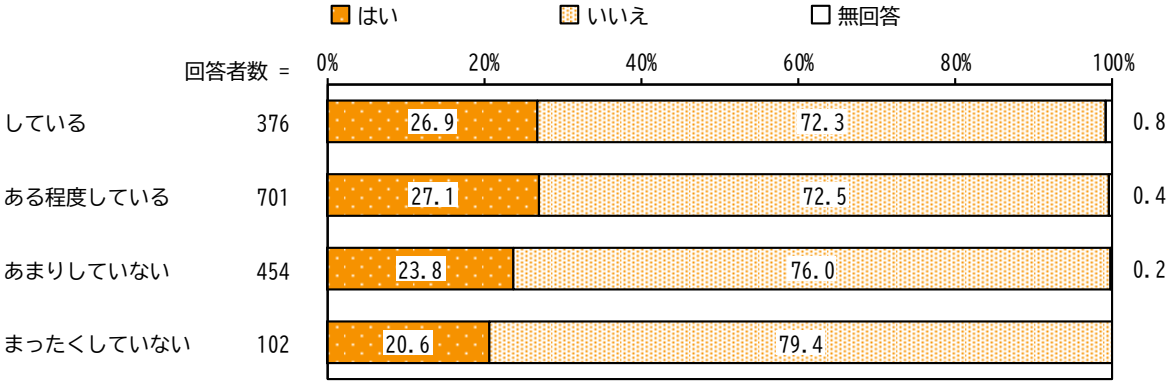
食育の関心度別　農林漁業体験の有無（問 35）



【地元産食品の購入状況別】

農林漁業体験の有無について地元産食品の購入状況別でみると、地元産食品を購入している人ほど農林漁業体験をしたことがある割合が高くなっています。

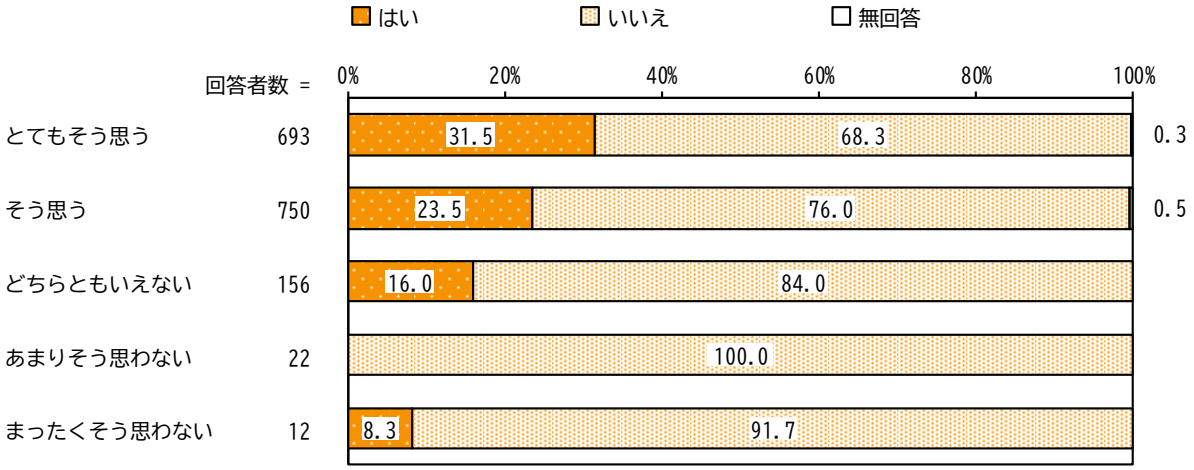
地元産食品の購入状況別　農林漁業体験の有無（問 35）



【地域や家庭で受け継いできた料理や味、作法を受け継ぐことが大切だと思うか別】

農林漁業体験の有無について地域や家庭で受け継いできた料理や味、作法を受け継ぐことが大切だと思うか別でみると、関心がある人ほど農林漁業体験をしたことがある割合が高くなっています。

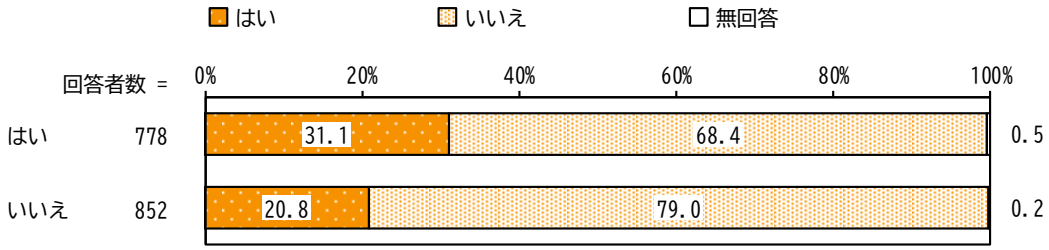
地域や家庭で受け継いできた料理や味、作法を受け継ぐことが大切だと思うか別
農林漁業体験の有無（問 35）



【地域や家庭で受け継いできた料理や味、作法を地域や次世代（子や孫含む）に対し伝えているか別】

農林漁業体験の有無について地域や家庭で受け継いできた料理や味、作法を地域や次世代（子や孫含む）に対し伝えているか別でみると、伝えていない市民に比べ、伝えている市民で農林漁業体験をしたことがある割合が高くなっています。

地域や家庭で受け継いできた料理や味、作法を地域や次世代（子や孫含む）に対し伝えているか別
農林漁業体験の有無（問 35）



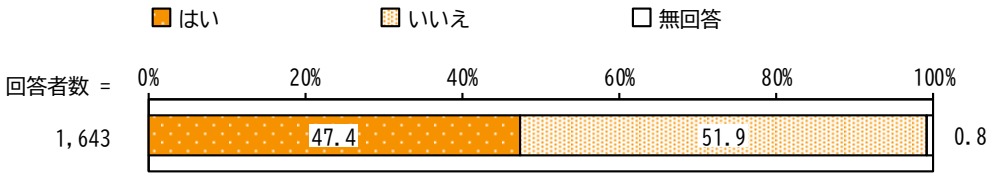
5　食文化について

（１）郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況

問 41　あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継いできた料理や味、箸づかいなどの食べ方、作法を地域や次世代（子や孫含む）に対し伝えていますか。
（１つにチェック）

「はい」の割合が 47.4%、「いいえ」の割合が 51.9%となっています。

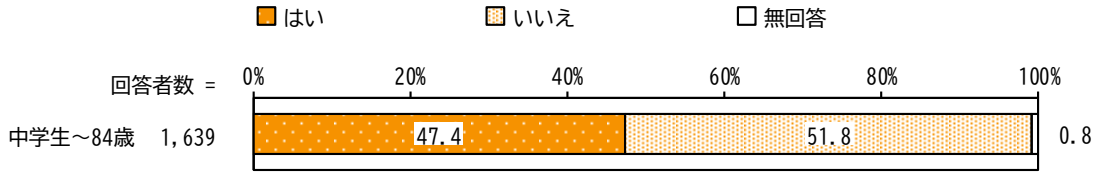
郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況（問 41）



◆評価指標に基づく結果（対象：中学生～84 歳）

地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合は 47.4%となっています。

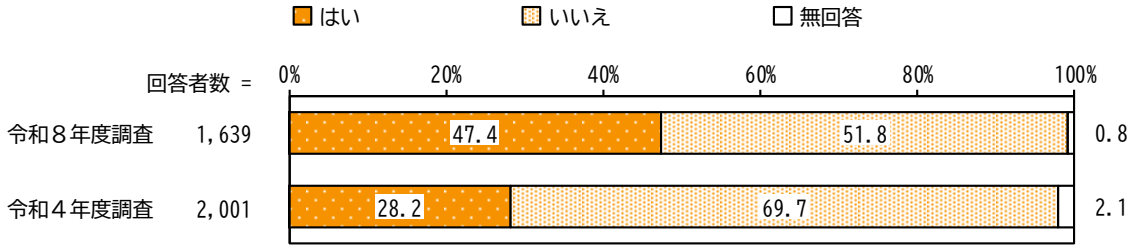
地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合（問 41）



【経年比較】

郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況について令和４年度調査と比較すると、継承している市民の割合が増加しています。

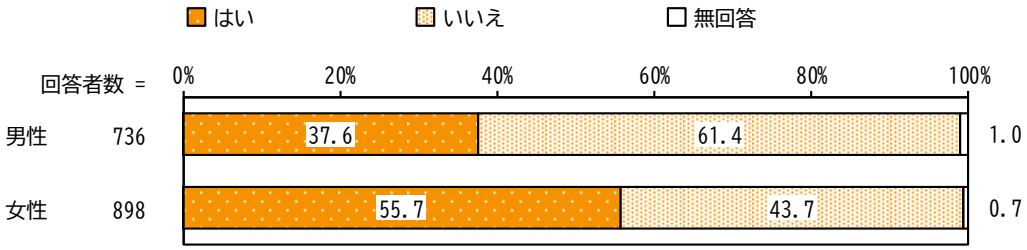
経年比較　郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況（問 41）



【性別】

郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況について性別でみると、女性で「はい」の割合が高くなっています。

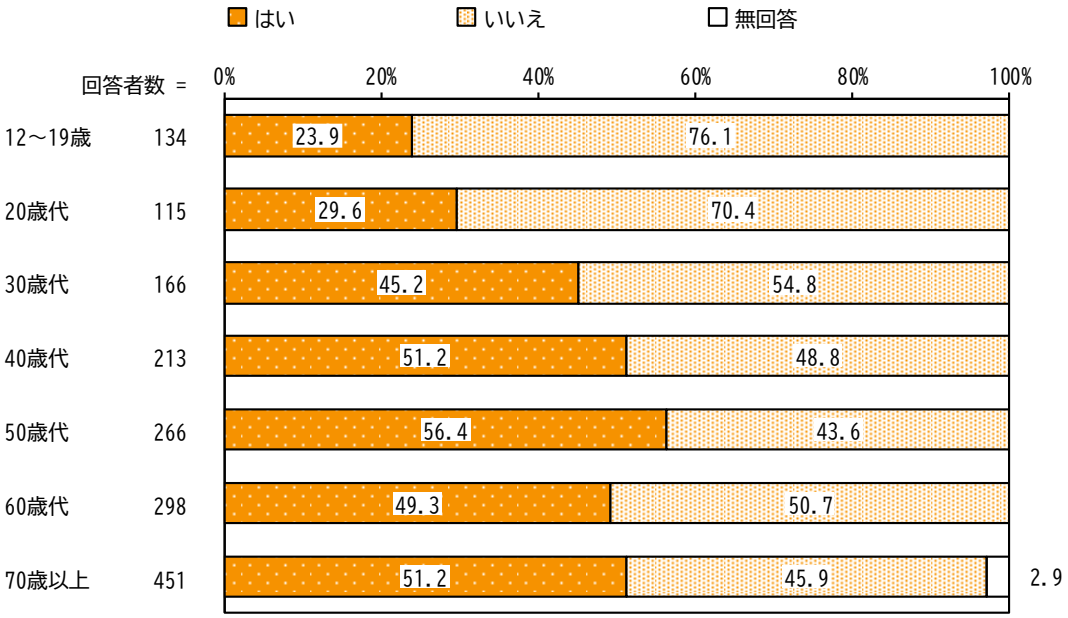
性別　郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況（問 41）



【年代別】

郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況について年代別でみると、「はい」の割合は 12～19 歳・20 歳代で低く、30 歳代から高くなっています。特に 50 歳代で 56.4%と最も高くなっています。

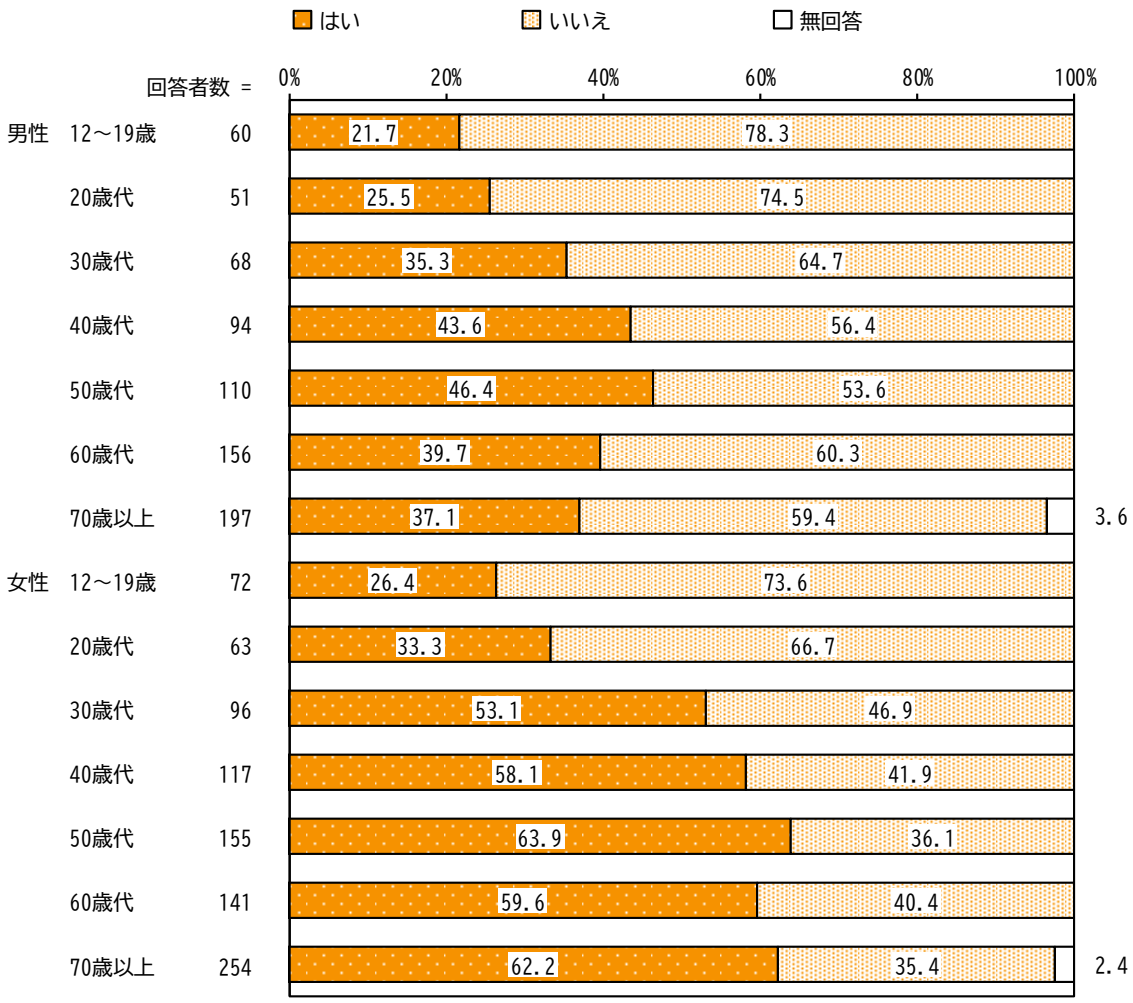
年代別　郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況（問 41）



【性年代別】

郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況について性年代別でみると、いずれの年代でも女性が男性より「はい」の割合が高くなっています。特に 30 歳代以上の女性で高くなっています。

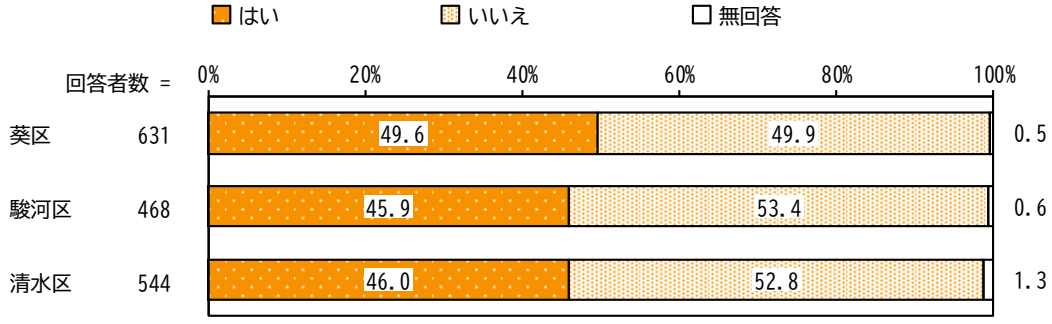
性年代別　郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況（問 41）



【居住地区別】

郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況について居住地区別でみると、地区による大きな差はみられません。

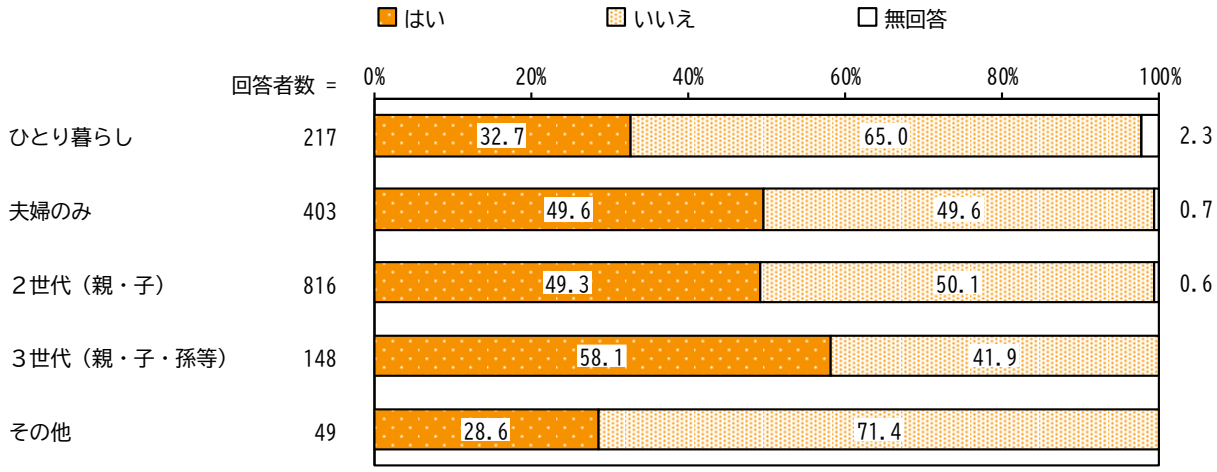
居住地区別　郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況（問 41）



【世帯構成別】

郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況について世帯構成別でみると、３世代（親・子・孫等）で継承している市民の割合が高く、約６割となっています。

世帯構成別　郷土料理や伝統料理の次世代への継承状況（問 41）

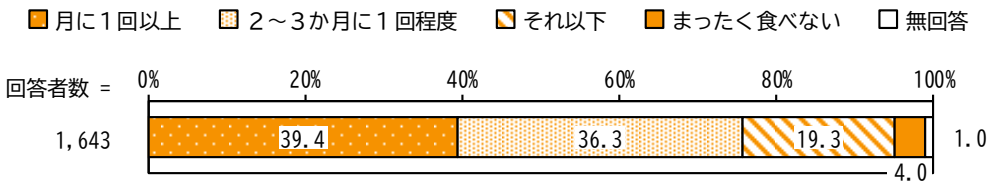


（２）郷土料理や伝統料理の頻度

問 43　あなたは、郷土料理や伝統料理をどのくらいの頻度で食べていますか。
（１つにチェック）

「月に１回以上」の割合が 39.4%と最も高く、次いで「２～３か月に１回程度」の割合が 36.3%、「それ以下」の割合が 19.3%となっています。

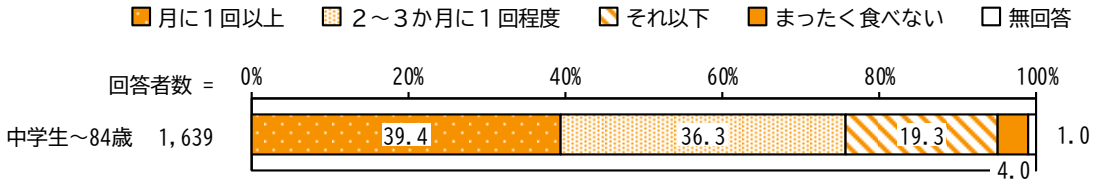
郷土料理や伝統料理の頻度（問 43）



◆評価指標に基づく結果（対象：中学生～84 歳）

郷土食・伝統料理を月１回以上食べている市民の割合は 39.4%となっています。

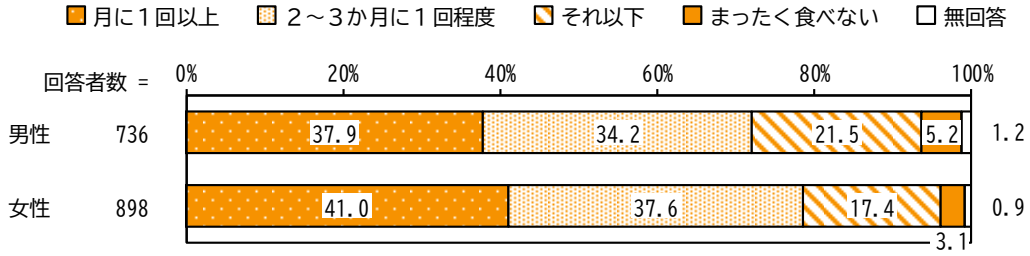
郷土食・伝統料理を月１回以上食べている市民の割合（問 43）



【性別】

郷土料理や伝統料理の頻度について性別でみると、大きな差はみられません。

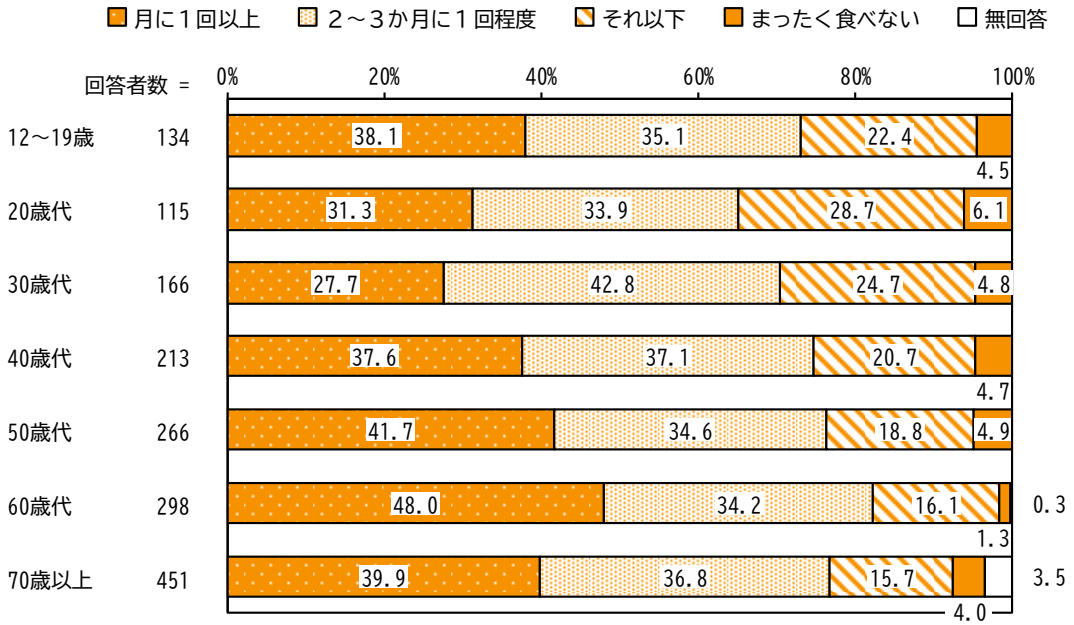
性別　郷土料理や伝統料理の頻度（問 43）



【年代別】

郷土料理や伝統料理を食べる頻度について年代別でみると、「月に１回以上」と「２～３か月に１回程度」を合わせた割合は、20 歳代で最も低く、60 歳代で最も高くなっています。

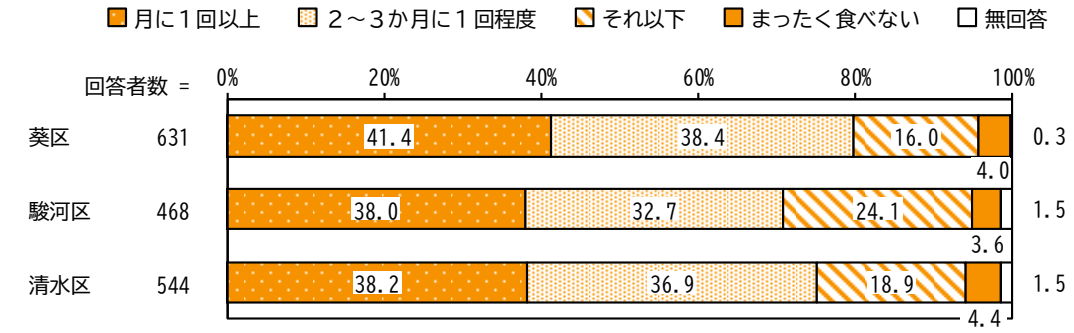
年代別　郷土料理や伝統料理の頻度（問 43）



【居住地区別】

郷土料理や伝統料理の頻度について居住地区別でみると、「月に１回以上」の割合は、いずれの地区でも 40%前後となっています。一方、「まったく食べない」の割合はいずれの地区でも 4.0%前後となっています。

居住地区別　郷土料理や伝統料理の頻度（問 43）



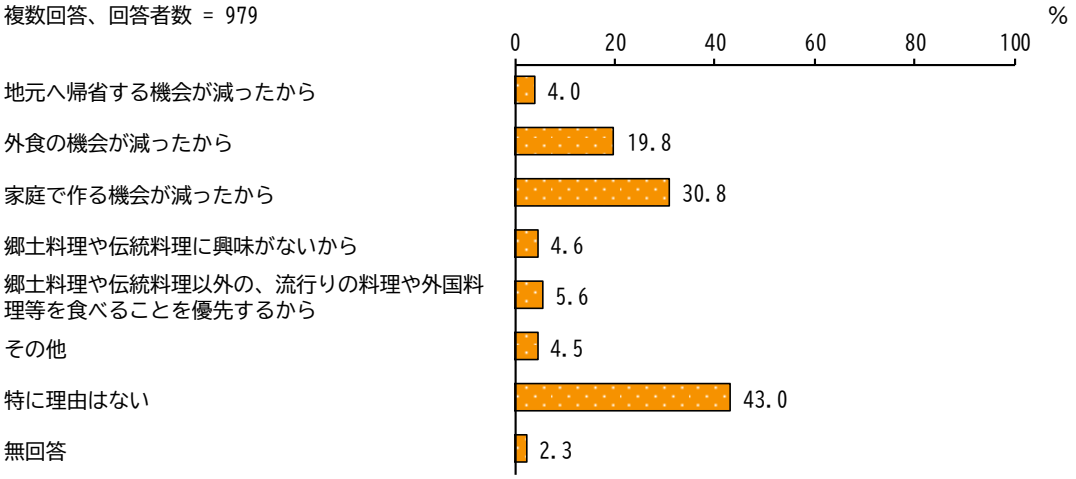
（３）郷土料理や伝統料理を食べない理由

問 44 は、問 43 で郷土料理や伝統料理の頻度について「２～３か月に１回程度」「それ以下」「まったく食べない」と回答した方に伺います。

問 44　あなたが、郷土料理や伝統料理を食べない理由はなんですか（いくつでもチェック）

「特に理由はない」の割合が 43.0%と最も高く、次いで「家庭で作る機会が減ったから」の割合が 30.8%、「外食の機会が減ったから」の割合が 19.8%となっています。

郷土料理や伝統料理を食べない理由（問 44）



【年代別】

郷土料理や伝統料理を食べない理由について年代別でみると、多くの年代で「特に理由はない」の割合が高く、特に 12～19 歳で 71.1%となっています。「家庭で作る機会が減ったから」の割合は、若い年代では低く、70 歳以上では 45.9%と最も高くなっています。

年代別　郷土料理や伝統料理を食べない理由（問 44）

単位：%

区分	回答者数（件）	地元へ帰省する機会が減ったから	外食の機会が減ったから	家庭で作る機会が減ったから	郷土料理や伝統料理に興味がないから	郷土料理や伝統料理以外の、流行りの料理や外国料理等を食べることを優先するから	その他	特に理由はない	無回答
全　体	979	4.0	19.8	30.8	4.6	5.6	4.5	43.0	2.3
12～19歳	83	3.6	4.8	19.3	2.4	1.2	2.4	71.1	0.0
20歳代	79	10.1	17.7	16.5	2.5	3.8	6.3	45.6	3.8
30歳代	120	5.0	17.5	29.2	6.7	5.8	4.2	46.7	0.0
40歳代	133	6.0	14.3	30.1	5.3	8.3	5.3	42.1	0.0
50歳代	155	3.2	21.9	21.9	2.6	7.1	1.9	51.0	1.9
60歳代	154	2.6	22.1	30.5	5.8	5.8	1.3	44.8	3.2
70歳以上	255	2.0	26.7	45.9	5.1	5.1	7.8	25.9	4.7

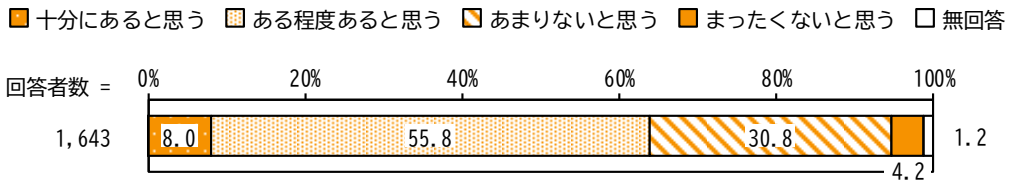
6　食品の安全性、環境への配慮について

（１）安全な食生活を送るための基礎知識

問 45　あなたは、安全な食生活を送るための、食品の安全性に関する基礎的な知識があると思いますか。（１つにチェック）

「ある程度あると思う」の割合が 55.8%と最も高く、次いで「あまりないと思う」の割合が 30.8%となっています。

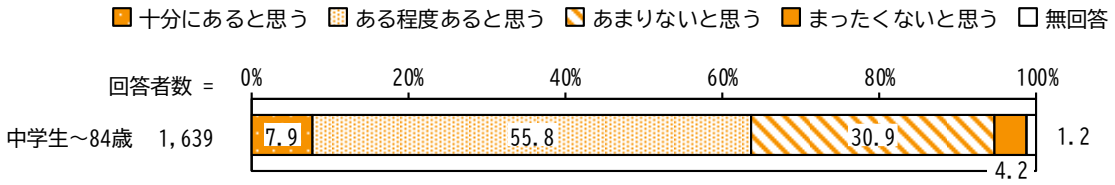
安全な食生活を送るための基礎知識（問 45）



◆評価指標に基づく結果（対象：中学生～84 歳）

食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合（「十分にあると思う」と「ある程度あると思う」を合わせた割合）は 63.7%となっています。

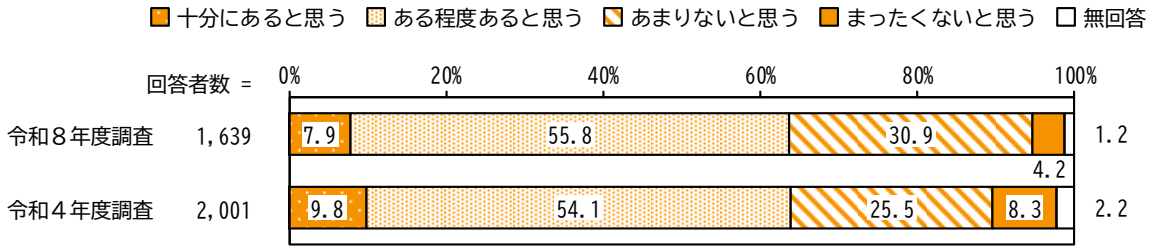
食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合（問 45）



【経年比較】

安全な食生活を送るための基礎知識について令和４年度調査と比較すると、基礎的な知識を持つ市民の割合に大きな変化はないものの、「あまりないと思う」の割合が増加しています。

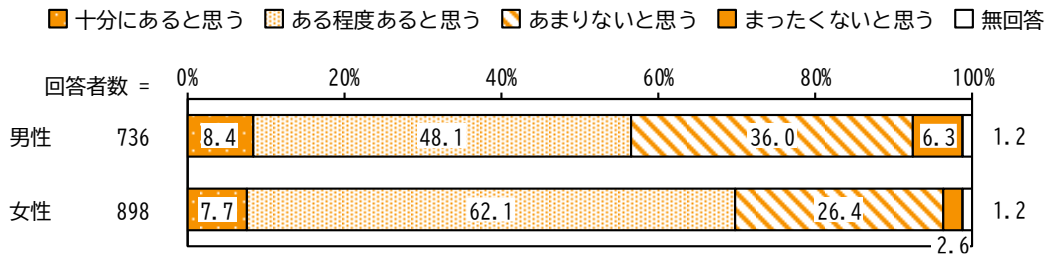
経年比較　安全な食生活を送るための基礎知識（問 45）



【性別】

安全な食生活を送るための基礎知識について性別でみると、男性に比べ女性で「十分にあると思う」「ある程度あると思う」を合わせた割合が高くなっています。

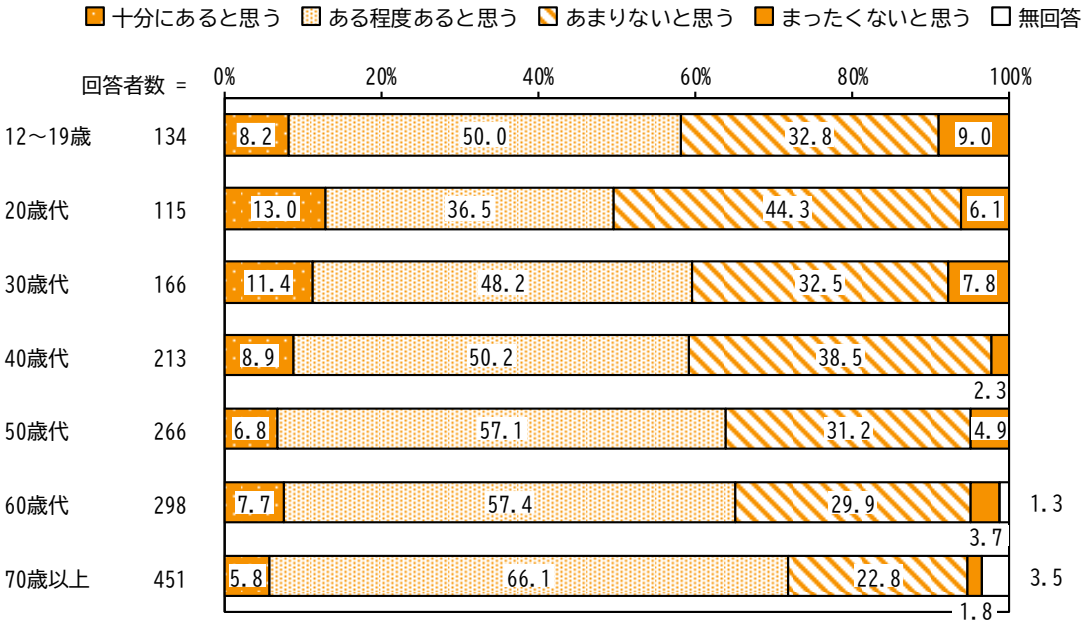
性別　安全な食生活を送るための基礎知識（問 45）



【年代別】

安全な食生活を送るための基礎知識について年代別でみると、「十分にあると思う」と「ある程度あると思う」を合わせた割合は、20 歳代で 49.5%と最も低くなっています。

年代別　安全な食生活を送るための基礎知識（問 45）

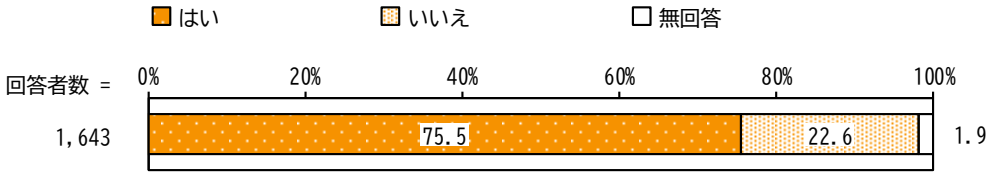


（２）食品ロス削減

問 46　あなたは、食品ロス削減のために何らかの行動をしていますか。
（どちらかにチェック）

「はい」の割合が 75.5%、「いいえ」の割合が 22.6%となっています。

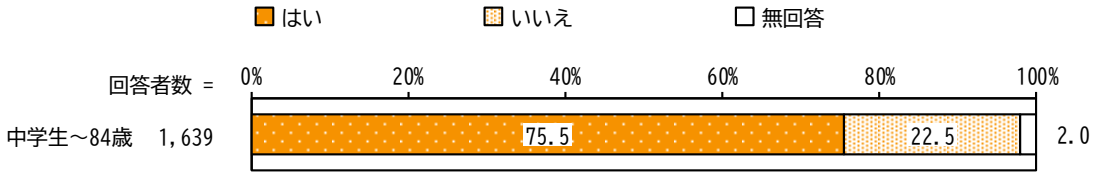
食品ロス削減行動（問 46）



◆評価指標に基づく結果（対象：中学生～84 歳）

食品ロス削減のために行動をしている市民の割合は 75.5%となっています。

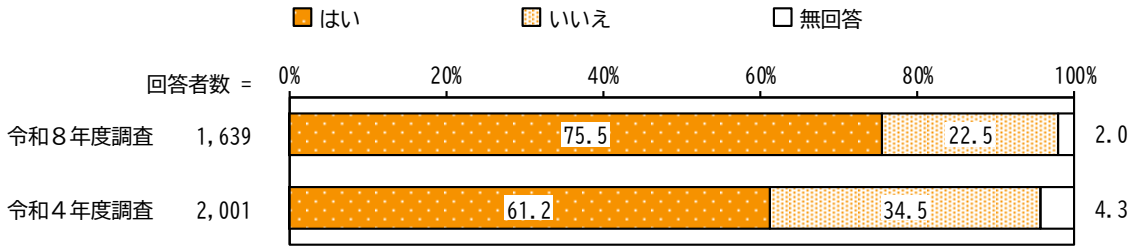
食品ロス削減のために行動をしている市民の割合（問 46）



【経年比較】

食品ロス削減行動について令和４年度調査と比較すると、「はい」の割合が増加しています。

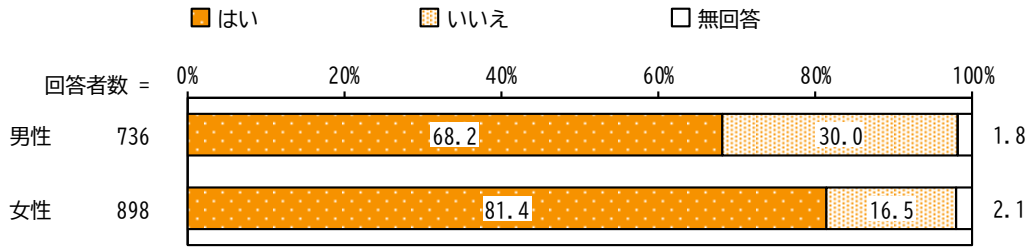
経年比較　食品ロス削減行動（問 46）



【性別】

食品ロス削減行動について性別でみると、男性で「いいえ」の割合が高くなっています。

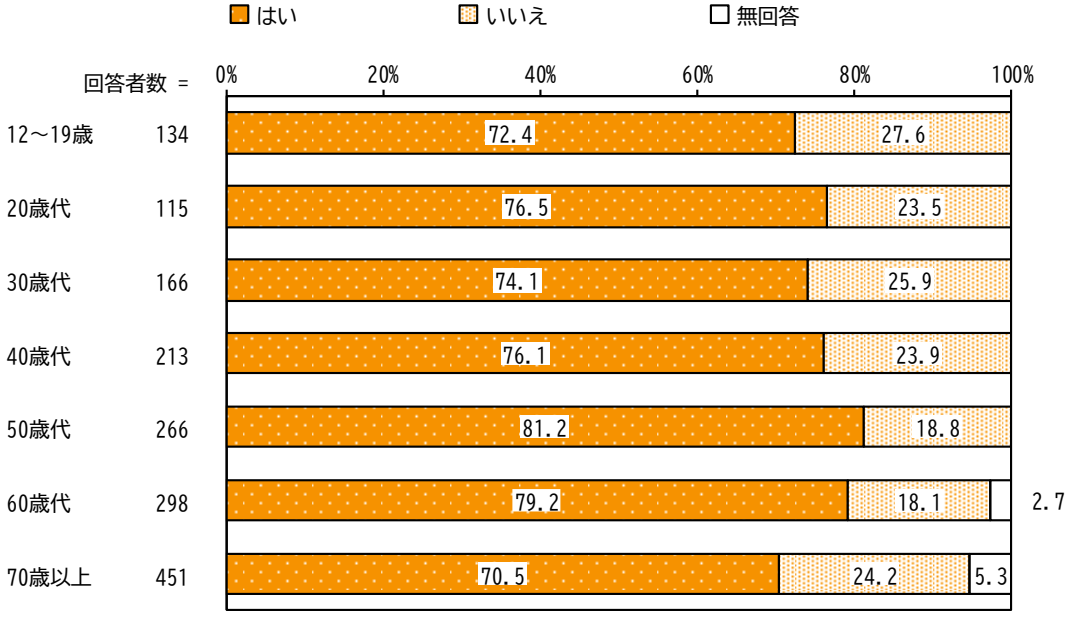
性別　食品ロス削減行動（問 46）



【年代別】

食品ロス削減行動について年代別でみると、「はい」の割合は 50 歳代で 81.2%と最も高く、70 歳以上で 70.5%と最も低くなっています。

年代別　食品ロス削減行動（問 46）

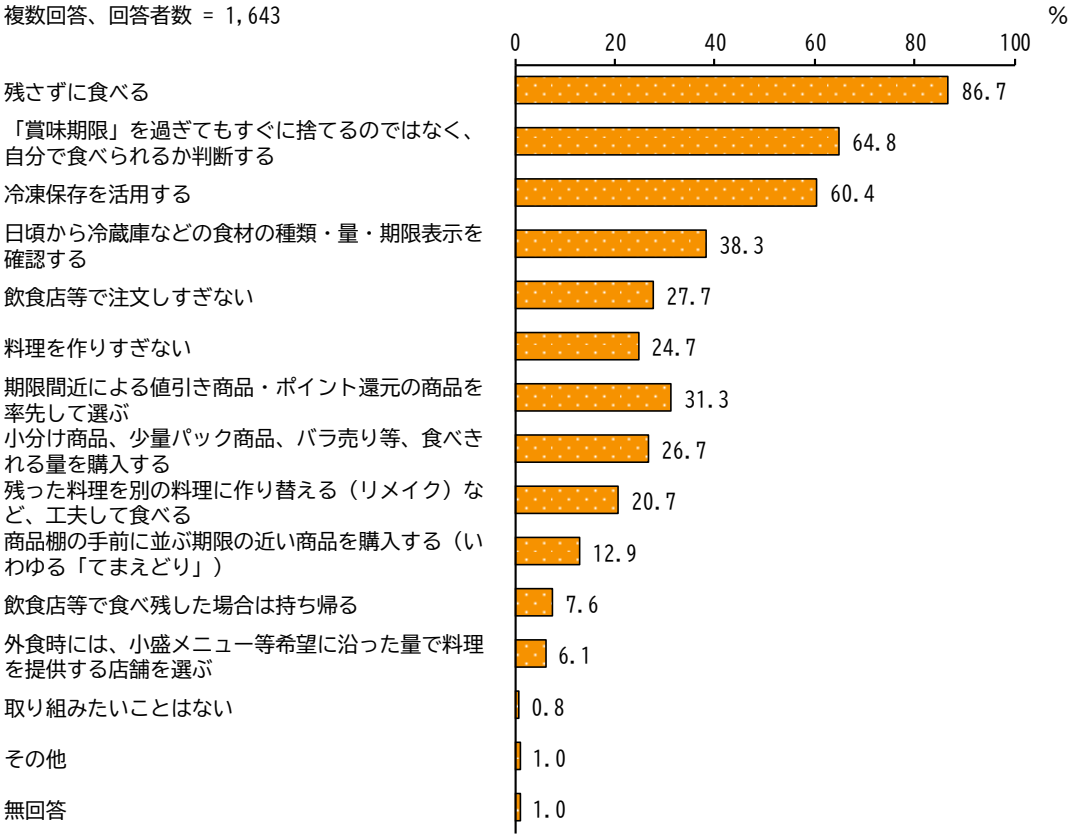


（3）食品ロス削減の具体策

問 47　あなたが食品ロス削減のために現在取り組んでいること、これから取り組みたいと思うことはなんですか。（いくつでもチェック）

「残さずに食べる」の割合が 86.7%と最も高く、次いで「「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」の割合が 64.8%、「冷凍保存を活用する」の割合が 60.4%となっています。

食品ロス削減の具体策（問 47）

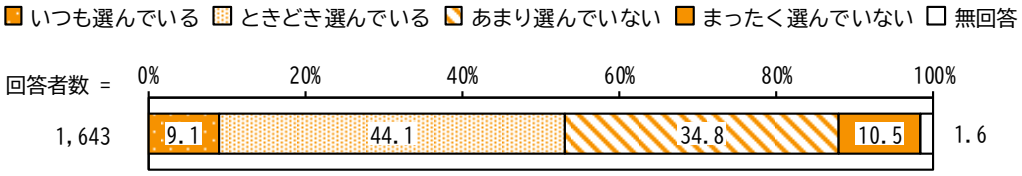


（４）環境に配慮した農林水産物・食品の選択

問 48　あなたは、環境に配慮した農林水産物・食品を選んでいますか。（１つにチェック）

「いつも選んでいる」「ときどき選んでいる」を合わせた“選んでいる”の割合が 53.2%、「あまり選んでいない」「まったく選んでいない」を合わせた“選んでいない”の割合が 45.3%となっています。

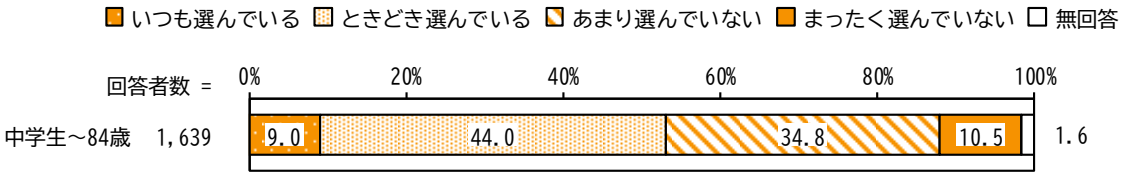
環境に配慮した農林水産物・食品の選択（問 48）



◆評価指標に基づく結果（対象：中学生～84 歳）

環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合（「いつも選んでいる」と「ときどき選んでいる」を合わせた割合）は 53.0%となっています。

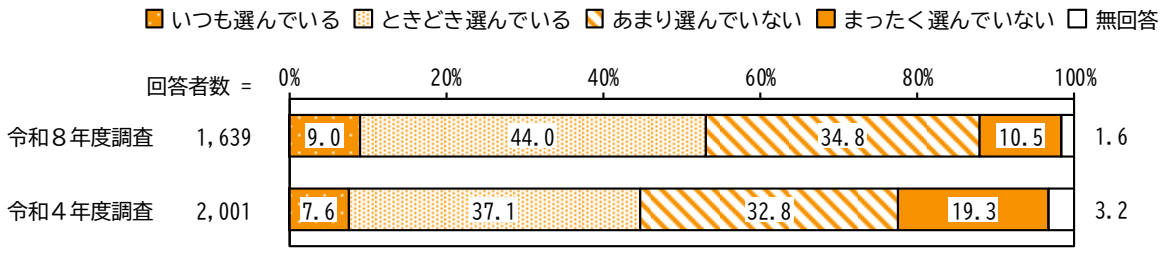
環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合（問 48）



【経年比較】

環境に配慮した農林水産物・食品の選択について令和４年度調査と比較すると、“選んでいる”の割合が増加しています。

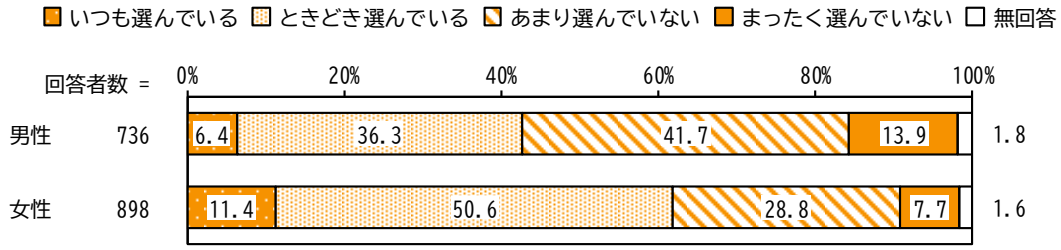
経年比較　環境に配慮した農林水産物・食品の選択（問 48）



【性別】

環境に配慮した農林水産物・食品の選択について性別でみると、女性で“選んでいる”の割合が高くなっています。

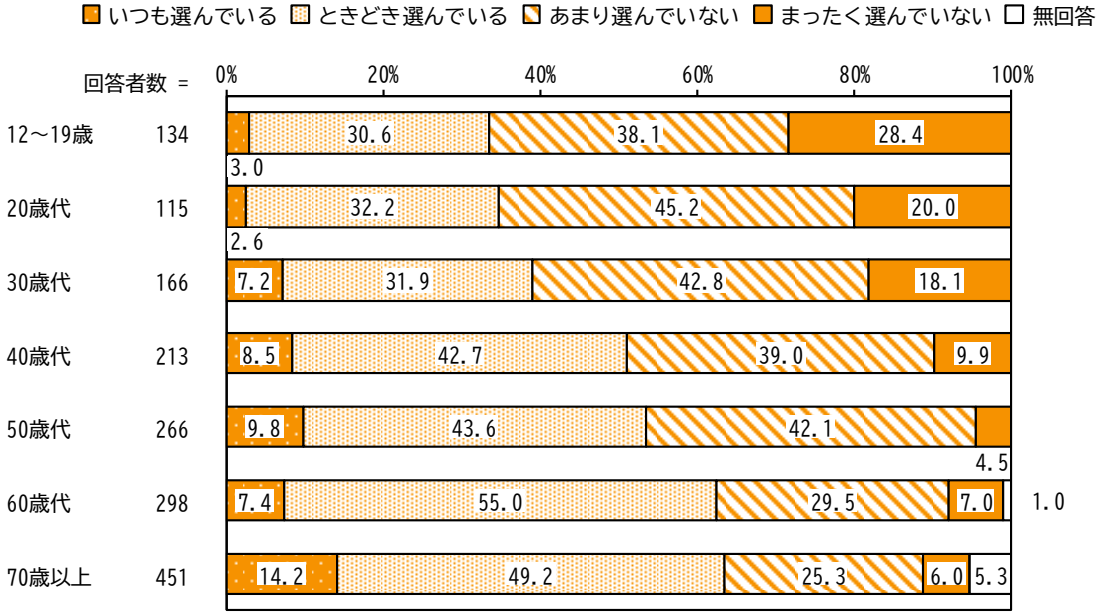
性別　環境に配慮した農林水産物・食品の選択（問 48）



【年代別】

環境に配慮した農林水産物・食品の選択について年代別でみると、年代が上がるほど“選んでいる”の割合が高くなっています。また、60 歳代で「ときどき選んでいる」、20 歳代で「あまり選んでいない」、12～19 歳で「まったく選んでいない」の割合が高くなっています。

年代別　環境に配慮した農林水産物・食品の選択（問 48）



Ⅲ　静岡市食育推進計画（第４次）評価指標、達成状況一覧表

「静岡市食育推進計画（第４次）」におけるアンケート調査回答による評価指標について、評価可能な指標の達成状況の評価を行いました。

《評価の基準》

評価	基準
A	目標を達成した
B	目標は達成していないが、改善傾向にある
C	変わらない（±５ポイント以内の場合）
D	悪化している
－	現状値なし

《分野別の達成評価》

		達成評価			
指標数	評価可能数	A	B	C	D
19	22	5	5	7	5

※一部の指標は年齢区分別（欠食など）に評価しているため、評価可能数が指標数を上回ります。

《達成評価の詳細》

掲載指標	対象	計画記載値		調査結果		
		令和4年度現状値	令和12年度目標値	令和8年度数値	達成評価	備考
食育に関心を持つ若い世代の割合の増加	20～30歳代	58.7%	85%以上	68.7%	B	問27で「非常に関心がある」または「どちらかといえば関心がある」を合わせた割合
食に関する情報を得るために行動をする若い世代の割合の増加	20～30歳代	46.3%	80%以上	63.0%	B	問33で「いつも」「ときどき」と回答した人の割合
毎日１回以上家族や友人等と一緒に食事をする市民の割合の増加	中学生～84歳	66.8%	85%以上	77.9%	B	問10で「はい」と回答した人の割合
食事を一人で食べるこどもの割合（朝食）	学童期（6～12歳）	9.5%	8.5%以下	15.5%	D	問11（朝食）で「週２～３日」「週１日程度」「ほとんどない」と回答した人の割合
食事を一人で食べるこどもの割合（夕食）	学童期（6～12歳）	2.9%	2.5%以下	3.1%	C	問11（夕食）で「週２～３日」「週１日程度」「ほとんどない」と回答した人の割合
朝食を欠食する若い世代の割合の減少	学童期（6～12歳）	4.2%	0%	2.3%	C	問15で「週４～５日食べる」「週２～３日食べる」「ほとんど食べない（週０～１日）」と回答した人の割合
	思春期（13～19歳）	17.2%	0%	19.8%	C	
	20歳代	29.9%	25%以下	50.4%	D	
	30歳代	22.3%	20%以下	29.5%	D	
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている市民の割合の増加	中学生～84歳	49.3%	60%以上	51.9%	C	問17で「ほぼ毎日（週６～７日）」と回答した人の割合

掲載指標	対象	計画記載値		調査結果		
		令和4年度 現状値	令和12年度 目標値	令和8年度 数値	達成 評価	備考
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を１日２回以上ほぼ毎日食べている若い世代の割合	20～30歳代	34.9%	50%以上	30.6%	C	問17で「ほぼ毎日（週６～７日）」と回答した人の割合
女性（20～30歳代）のやせ（低体重：BMI18.5未満）の割合の減少	20～30歳代（女性）	15.3%	15%未満	12.6%	A	問５（身長・体重）にて算出したＢＭＩが、18.5未満の20～30歳代女性の割合
高齢者のやせ（低体重：BMI20以下）の割合	65歳以上	22.8%	17%以下	22.9%	C	問５(身長･体重)にて算出したＢＭＩが20.0以下の割合
生活習慣病予防や改善のために、適切な食事や定期的な運動を継続して実施している市民の割合の増加	中学生～84歳	66.1%	75%以上	60.5%	D	問21で｢いつも気をつけて実践している｣｢気をつけて実践している｣と回答した人の割合
ゆっくり噛んで味わって食べるなど食べ方に関心のある市民の割合の増加	中学生～84歳	39.9%	45%以上	46.1%	A	問14の「食べ方に関心がある」で「いつも」と回答した人の割合
農林漁業体験をしたことがある市民の割合の増加	中学生～84歳	31.9%	40%以上	25.7%	D	問35で「はい」と回答した人の割合
環境に配慮した農林水産物・食品を選ぶ市民の割合	中学生～84歳	44.7%	65%以上	53.0%	B	問48で「いつも選んでいる」「ときどき選んでいる」と回答した人の割合
食品ロス削減のために行動している市民の割合の増加	中学生～84歳	61.2%	75%以上	75.5%	A	問46で「はい」と回答した人の割合
地域や家庭で受け継がれた伝統的な料理や作法などを継承している市民の割合の増加	中学生～84歳	28.2%	35%以上	47.4%	A	問41で「はい」と回答した人の割合
郷土食・伝統料理を月１回以上食べている市民の割合	中学生～84歳	－	30%以上	39.4%	A	問43で「月に１回以上」と回答した人の割合
茶葉からいれた緑茶を飲む市民の割合の増加	中学生～84歳	40.8%	60%以上	47.6%	B	問23で「茶葉からいれる」と回答した人の割合
食品の安全性について基礎的知識を持つ市民の割合の増加	中学生～84歳	63.9%	70%以上	63.7%	C	問45で「十分にあると思う」または「ある程度あると思う」を合わせた割合

静岡市食生活や食育に関する知識・意識

アンケート調査報告書　概要版

（令和８年 10 月発行）

発　行：静岡市 保健福祉長寿局 健康福祉部健康づくり推進課
〒420-8602 静岡市葵区追手町５番１号
ＴＥＬ 054-221-1571　ＦＡＸ 054-251-0035

編　集：株式会社名豊
〒450-0003 名古屋市中村区名駅南一丁目 21 番 19 号
ＴＥＬ 052-526-6001　ＦＡＸ 052-526-6003

この報告書は、静岡県立大学　食品栄養科学部　桑野稔子教授の指導により作成しました。